

授業科目	生涯学習概論	単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	生涯学習とは何か？ そのことを十分理解して、各自の生涯学習プランを作成しつつ、地域サービスとしての生涯学習プランを考える。				
授業計画	第1週	生涯学習とは？			
	第2週	公民館、市立図書館などで行われる生涯学習プログラムについて。			
	第3週	生涯学習のプランを作成する（1）。			
	第4週	生涯学習のプランを作成する（2）。			
	第5週	自分の学習の歴史をふりかえる。			
	第6週	日本の教育と生涯学習の関係。			
	第7週	これまでの講義のまとめをレポート提出。			
	第8週	世界の生涯学習（1）			
	第9週	世界の生涯学習（2）			
	第10週	模擬生涯学習実践（1）			
	第11週	模擬生涯学習実践（2）			
	第12週	現代の日本社会の問題点。			
	第13週	日本社会の問題点と生涯学習。			
	第14週	定期試験。			
	第15週	これからの生涯学習。			
指導方法 履修上の 注意	理解と実践が大事である。より多く発言し、より豊かに議論すること。				
成績評価の 方法	筆記試験（50%）、レポート（20%）、発表（2%）、授業態度（10%）				
教科書	使用せず。				
参考文献					

授業科目	文学に親しむ	単位数	2	担当教員	及川道之
講義のねらいと概要	<p>古代から近代までの日本文学を代表する幾つかの作品や作家を取り上げ、それぞれの特徴を理解するとともに、文学の有する魅力について実際に味わうことを目的とする。</p> <p>文学の歴史を順に追って単純にたどってゆくのではなく、それぞれの作品や作家の持っている魅力を受講者自身が実感を伴って理解できるよう、厳選した作品を「じっくり」読み進める。到達目標～文学の魅力について実体験する。</p>				
授業計画	第1週	講義の開始にあたって			
	第2週	古事記①～日本の神話			
	第3週	古事記②～日本の神話			
	第4週	万葉集①～古代のうた			
	第5週	万葉集②～古代のうた			
	第6週	源氏物語①～なぜ「傑作」といわれるのか			
	第7週	源氏物語②～なぜ「傑作」といわれるのか			
	第8週	宇治拾遺物語～「おはなし」の古典			
	第9週	徒然草～兼好法師の人生観			
	第10週	梁塵秘抄～平安時代末期の流行りうた			
	第11週	閑吟集～室町時代の流行りうた			
	第12週	柳多留～江戸川柳は面白い			
	第13週	石川啄木～生活を「うたう」			
	第14週	宮沢賢治～「賢治先生」に迫る			
	第15週	講義の終了にあたって			
指導方法履修上の注意	<p>日本文学に関心のある人はもちろん、文学はちょっと…などと敬遠気味の人にもぜひ受講してもらいたい。文学の広がり・深さ・楽しさを多くの人が実際に感じられるような授業を進めることができたかと考えている。</p>				
成績評価の方法	レポート（70%）、授業態度（30%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	心 理 学 入 門	単位数	2	担当教員	川 田 三 夫
講義のねらいと概要および到達目標	<p>到達目標は、①「汝自身を知れ」をモットーに、自己理解を深める、②就職活動にも関係する性格テストの基本を理解する、③“場の空気”を読むことにも役立つように、社会心理学の内容について学ぶ、の3つである。</p> <p>教養科目の心理学入門として、人間のあれこれについて楽しく学ぼうというのが基本的なスタンスです。</p> <p>自己理解については、色々な性格テストを行い、他者との違い等を知ることになる。フロイトの理論を基に無意識的な行動の分析等についても学修する。</p>				
授業計画	第1週	哲学から心理学へ（ガイダンス、心理学の簡単な歴史、投影法テスト紹介、など）			
	第2週	パーソナリティ（主な理論、簡単なテスト、など）			
	第3週	特性論（理論、実際のテスト、診断、など）			
	第4週	フロイト①（力動論、エゴグラム、交流分析、など）			
	第5週	フロイト②（精神分析、発達理論、神経症、など）			
	第6週	類型論（歴史的背景、クレッチマー、実際のテスト、など）			
	第7週	防衛機制（理論的背景、考え方、種類、人間関係への活用）			
	第8週	劣等感（コンプレックスの本来の意味、実際のテスト、補償など活用の方法）			
	第9週	対人関係①（20答法、社会的自己、社会心理学的あれこれ）			
	第10週	対人関係②（日常的に活用可能な幾つかの概念、主に恋愛に関連するもの、など）			
	第11週	深層心理①（色の話、幾つかのテスト、流行色・ファッション、など）			
	第12週	深層心理②（夢の話、フロイトとユング、象徴と解釈、など）			
	第13週	行動分析①（無意識的な行動の意味すること、何気なくせ、など）			
	第14週	行動分析②（対人場面、発言、服装、態度、など）			
	第15週	パトグラフィ、筆記試験（代表的な作家の内面の問題と作品の関係、筆跡と性格等。筆記試験）			
指導方法 履修上の 注 意	<p>(1)レジメを基本にして、資料、DVD・BD等を使って講義を行う。</p> <p>(2)自己理解のため、簡単な性格テストやアンケートを行う。</p> <p>(3)文表科、就職活動等を考慮し、毎回10分程度のDVD・BDを見せる。 （IT等今日的话题、現代文、古典の3領域）</p> <p>(4)授業中の私語、携帯電話、飲食等は禁止。好ましくない者は注意の上退出させる。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（100%）				
教 科 書	教科書はない。				
参 考 文 献	講義の時に紹介する。				

授業科目	現代社会入門	単位数	2	担当教員	松木久子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>私たちの身近なところで目にしたり耳にしたりする事象を入り口にして、一般常識としての時事問題に対する理解力を養うことを目標とし、社会を見る目を養う力を身に付けられるように様々な話題を提供していきます。日本の政治等・環境問題・国際的な問題等の具体的な理解を通して、これからの日本の将来や世界的な視野をも養えるよう指導をしていきます。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：履修上の注意、講義内容の概要等			
	第2週	日本の政治：与党と野党			
	第3週	日本の政治：選挙制度			
	第4週	日本の政治：憲法改正論			
	第5週	司法制度改革			
	第6週	地球温暖化問題(1)			
	第7週	地球温暖化問題(2)			
	第8週	消費税率引き上げ問題			
	第9週	差別をめぐる問題(1)			
	第10週	差別をめぐる問題(2)			
	第11週	戦争をめぐる問題(1)			
	第12週	戦争をめぐる問題(2)			
	第13週	オリンピック			
	第14週	少子高齢化社会の問題			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>日頃から身の回りのいろいろなことに興味や関心を持ち、図書館等で自ら積極的に調べることを通して主体的に学ぶ態度を養ってください。また毎日一回、必ず新聞に目を通したり、ニュースに耳を傾けたりしてください。講義が中心となりますが、発表や映像鑑賞を取り入れたりとしながら、柔軟に授業展開をしていきます。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（40%）、発表（30%）、授業態度（30%）				
教科書	特に指定はしません。				
参考文献	授業中にプリント・資料等を配布します。				

授業科目	くらしと経済	単位数	2	担当教員	吉井利真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>どのような状況でも私たちは消費をやめることはできません。しかも、ある水準の消費生活を実現しようとすれば、安定的な雇用環境と所得の確保が必要となります。また、消費生活は確実に安全でなければなりません。しかし、商品やサービスに関する情報は多くの場合、その非対称性が大きな問題になっています。このような消費生活の基盤がいまどようになるうとしているのか、講義を通して整理していきます。</p> <p>到達目標は、経済学の基礎概念の習得と経済時事問題を理解するための基本的な視点の確立とします。</p>				
授業計画	第1週	消費欲求とその対象			
	第2週	消費生活の水準			
	第3週	価格と消費			
	第4週	所得と消費			
	第5週	消費生活の現状（1）家計調査とは			
	第6週	消費生活の現状（2）家計収入と消費			
	第7週	消費生活の現状（3）雇用と消費			
	第8週	消費生活の現状（4）家計消費の特徴			
	第9週	消費者環境（1）企業と家計			
	第10週	消費者環境（2）行政と家計			
	第11週	消費者環境（3）消費と安全			
	第12週	消費者環境（4）購買チャンネルの多様化			
	第13週	賢い消費者とは（1）			
	第14週	賢い消費者とは（2）			
	第15週	プレゼンテーション			
指導方法履修上の注意	<p>授業はできるだけ平易な言葉で説明していきます。短大生が社会に出て行く時に身につけておくべき一般常識レベルの内容です。消費を中心とした『常識力』アップを考えている人は是非受講して下さい。</p>				
成績評価の方法	レポート（50%）、発表（20%）、試験（30%）				
教科書	資料を配布します。				
参考文献	授業時に指示します。				

授業科目	茶 道 を 学 ぶ	単位数	2	担当教員	浜 田 孝 子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>茶道は日本人が長い歴史の中で受け継いできた有形、無形の文化です。「茶道」は「茶の湯」<sup>ちやどう</sup>を学ぶ道であり、亭主となり、客となることにより、人に対する思いやりの心、感謝の気持ちを育むことができます。また、点前の修練を通じて、自然で、無駄のない美しい所作を身につけることとなります。現代社会の喧騒を離れて、無心の境地の中で、心休まる一服の茶を点ててみましょう。茶道の基本的所作を習得し、その精神に触れることを目標とする。</p>				
授 業 計 画	第1週	ガイダンス			
	第2週	茶道の歴史①			
	第3週	茶道の歴史②			
	第4週	茶の種類と製造方法			
	第5週	茶室（床の間、軸など）			
	第6週	茶道具①			
	第7週	茶道具②			
	第8週	点前の基本①			
	第9週	点前の基本②			
	第10週	点前の基本③			
	第11週	点前の基本④			
	第12週	点前演習①			
	第13週	点前演習②			
	第14週	点前演習③			
	第15週	総合演習			
指導方法 履修上の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち振る舞いが中心となるので、動きやすい服装が望ましい</li> <li>・点前に必要な抹茶、茶筌等の費用として、1人1000円を最初の授業で徴収する</li> <li>・点前に必要なその他のものは各自用意する（ガイダンス等で説明する）</li> <li>・教室での講義と茶室での実技を行う</li> </ul>				
成績評価の 方 法	レポート（20%）、実技（30%）、授業態度（50%）				
教 科 書	適宜資料配布				
参考文献	『茶の本 The Book of Tea』（岡倉天心、講談社）				

授業科目	書 道 を 学 ぶ	単位数	2	担当教員	土 屋 明 美
講義のねらいと概要および到達目標	<p>【ねらい】          &lt;漢字&gt;を中心に、基本的な漢字（楷書・行書）の習得をねらいとします。</p> <p>【概要】          毎時間、教科書のお手本を課題にして、練習と清書を繰り返します。          基本的な漢字（楷書・行書）の筆づかい・筆の運び方から作品の制作まで行います。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス…授業の進め方			
	第2週	「楷書を書こう」	筆使い	①練習	
	第3週	”		①清書	
	第4週	”	形のまとめ方	②練習	
	第5週	”		②清書	
	第6週	”	文字の並べ方	③練習	
	第7週	”		③清書	
	第8週	「行書を書こう」	筆使い	①練習	
	第9週	”		①清書	
	第10週	”	形のまとめ方	②練習	
	第11週	”		②清書	
	第12週	”	文字の並べ方	③練習	
	第13週	”		③清書	
	第14週	「色紙に書く」	(自由制作)		練習
	第15週	”		清書	
指導方法履修上の注意	<p>・「書」（漢字）に関心を持って授業に臨むことを希望します。</p> <p>・用具・用材について  <input type="checkbox"/>大筆（最低一本） <input type="checkbox"/>硯（一面） <input type="checkbox"/>墨（一丁/墨汁はできるだけ避けたほうがよい）  <input type="checkbox"/>下敷（書道用フェルト） <input type="checkbox"/>文鎮 <input type="checkbox"/>水滴（スポイドも可） <input type="checkbox"/>雑巾（一枚） <input type="checkbox"/>古新聞紙（数枚）  <input type="checkbox"/>半紙（毎回最低10枚・半紙が望ましい）など</p>				
成績評価の方法	課題（50%）、作品（25%）、授業態度（25%）				
教科書	『書道入門』（今井凌雪著、講談社） ※絶版のため、随時、コピーして配布いたします。				
参考文献	特になし				

授業科目	絵 画 を 学 ぶ	単位数	2	担当教員	染 谷 哲 夫
講義のねらいと概要および到達目標	<p>絵画の意義や歴史に触れながら、表現の基礎となる形のとらえ方や表現の方法・技法等について考えてみたい。後半には自分なりの表現をめざし一枚の絵を描く。</p> <p>① 西洋美術（絵画）の大きな流れをたどりながら興味・関心を深める。  ② 身近なものを見つめて描く。  ③ 創作活動への関心を高め、自分らしい表現で一枚の絵に取り組む。</p>				
授業計画	第1週	はじめに 絵画の意義や歴史（古代）			
	第2週	絵画の歴史（中世から近代、現代）			
	第3週	絵画表現の基礎（クロッキー）			
	第4週	絵画表現の基礎（身近なものを描く）			
	第5週	絵画表現の基礎（着彩）			
	第6週	絵画表現の基礎（着彩）			
	第7週	絵画鑑賞（近隣の美術館を訪ねる）			
	第8週	自由制作			
	第9週	自由制作			
	第10週	自由制作			
	第11週	自由制作			
	第12週	自由制作			
	第13週	自由制作			
	第14週	自由制作			
	第15週	鑑賞とまとめ			
指導方法 履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創作活動が中心となる。</li> <li>・ 自らの頭と目と手を動かして描く楽しさや喜びを味わう。</li> <li>・ 描画材は色鉛筆や水彩絵の具やアクリル絵具など自由（各自で用意する）。</li> <li>・ 学外学習として適当な土曜日を選び美術館に出かける予定（都内）。</li> </ul>				
成績評価の方法	レポート（10%）、作品（50%）、授業態度（40%）				
教科書	なし				
参考文献	必要に応じて紹介する				

授業科目	英 会 話 基 礎 演 習		単位数	2	担当教員	赤 松 道 子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>この講座では、聴く、話すを中心として、英語の基本を学びます。集中して相手の話をよく聴く、自分の話を聴いてもらうという一連の受け答えをしながら、英語に慣れることが講座のねらいです。</p> <p>到達目標：1対1で話す経験を通して、恥ずかしさや英語への恐れを少なくする。英語への興味を育てる。英語の会話力を高める。最初にアンケートを行い、学生のみなさんの要望を聴きながら、授業に取り入れます。小話を聴き、クイズに答えながら、英語に慣れていきましょう。(授業内容は授業時間によって変更がある場合があります)</p>					
授業計画	第1週	授業アンケート記入と自己紹介。	第16週	電話、電話の応対(1)電話の基本表現。		
	第2週	自己紹介・あいさつの仕方。	第17週	電話、電話の応対(2)伝言、電話の種類。		
	第3週	職場でのあいさつ・自己紹介。	第18週	食事・食べ物(1)基本的な表現の習得。		
	第4週	仕事・職業。基本表現。	第19週	食事・食べ物(2)朝食・昼食、注文の仕方。		
	第5週	世界の言葉・人々・国々(1)基本表現。	第20週	食事・食べ物(3)世界の料理。		
	第6週	世界の言葉・人々・国々(2)言語、人々。	第21週	色彩・買物。		
	第7週	世界の言葉・人々・国々(3)世界の国々。	第22週	町の紹介、場所の説明、道案内。		
	第8週	家族(1)基本的な表現の習得。	第23週	比較の表現。基本表現。		
	第9週	家族(2)応用練習。	第24週	スケジュール・約束・提案。		
	第10週	時の表現(1)基本的な表現の習得。	第25週	日本の休日、外国の休日。		
	第11週	時の表現(2)毎日、朝から晩までの表現。	第26週	クリスマス・新年、日本と外国の冬休み。		
	第12週	時の表現(3)年、月について。数字の習得。	第27週	ビデオ教材を見ながら、世界の今を知る。		
	第13週	時の表現(4)曜日、頻度の表現。	第28週	将来・予定・人生設計。		
	第14週	質疑応答の表現。疑問文の練習。	第29週	復習・試験練習。		
	第15週	誕生日、要望の表現。	第30週	試験。外国語学習について。		
指導方法履修上の注意	<p>単語や表現の習得のために発音の練習をしますが、まちがってもかまいませんから、大きな声で発音すること。意欲を持ち、積極的に授業に参加すること。授業には英語の辞書を持参すること(電子辞書、冊子式辞書どちらでもよい)。自宅で発音の練習をすること。</p>					
成績評価の方法	<p>筆記試験(70%)、発表・授業態度(30%)試験には口述試験も含まれます。</p>					
教科書	<p>カリキュラムに応じてプリントを配布します。</p>					
参考文献	<p>必要な場合には指示します。</p>					

授業科目	韓国語会話基礎演習		単位数	2	担当教員	元 鍾 彬
講義のねらいと概要および到達目標	<p>韓国のドラマ・音楽・映画など多様な韓国文化と接する機会が増え、韓国語を学びたいという人が増えています。本講義では韓国語の基礎をしっかりと学び、韓国の伝統と文化を楽しく学びます。簡単な日常会話ができて積極的な日韓の交流に役に立つことが本講義のねらいです。</p>					
授業計画	第1週	ハングル1 (母音と子音)	第16週	韓国のドラマをみながら聞き取り練習をしよう。		
	第2週	ハングル2 (母音と子音)	第17週	シークレットガーデン①、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第3週	ハングル3 (パチム)	第18週	シークレットガーデン②、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第4週	ハングル4 (パチム)	第19週	シークレットガーデン③、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第5週	これはいくらですか?	第20週	シークレットガーデン④、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第6週	自己紹介	第21週	シークレットガーデン⑤、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第7週	私の部屋－指示代名詞について学ぼう。	第22週	シークレットガーデン⑥、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第8週	家族について	第23週	シークレットガーデン⑦、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第9週	映画－約束をするときの会話	第24週	シークレットガーデン⑧、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第10週	数字について学びましょう。	第25週	シークレットガーデン⑨、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第11週	友たちと約束しましょう－曜日について知る	第26週	シークレットガーデン⑩、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第12週	韓国の食べもの	第27週	シークレットガーデン⑪、聞き取れた朝鮮語の確認		
	第13週	食堂での注文	第28週	昨日は何をしましたか		
	第14週	新大久保見学－日本の中の韓国の文化体験	第29週	食事の招待－韓国の礼儀について学ぶ		
	第15週	新大久保見学－日本の中の韓国の文化体験	第30週	総括 (学期末試験実施)		
指導方法履修上の注意	<p>出席や授業態度は成績に大きく影響を及ぼします。韓国語の基礎を学ぶ時には、欠席しないようにお願いします。テキストは購入する必要はありません。毎回資料を配布します。</p>					
成績評価の方法	筆記試験 (30%)、課題 (20%)、発表 (20%)、授業態度 (30%)					
教科書	『YONSEI 韓国語読み』(延世大学校韓国語学堂、延世大学校出版部)					
参考文献	『韓国語活用演習』(延世大学校韓国語学堂、延世大学校出版部)					

授業科目	中国語会話基礎演習		単位数	2	担当教員	山口 芳
講義のねらいと概要および到達目標	この講座は中国語で簡単なコミュニケーションができるように、中国語の基礎を身に付けて、中国に対する理解と関心を強めるのがねらいです。具体的には、日常生活の様々な場面を通じて、中国の文化や人々の生活に触れながら講義を進めます。この講座の目標は（１）中国語の発音（ピンイン）が読めるようになること、（２）基本的な文章（語順）が正しく組み立てられるようになること、（３）それぞれの場面に適切な会話ができるようになること、を目指します。					
授業計画	第1週	中国語の基本概念・発音Ⅰ（単母音・声調）	第16週	家族の紹介（場所・人数・メンバ・学校からの距離）		
	第2週	発音Ⅱ（子音Ⅰ・半三声と軽声）	第17週	食事（文法項目：動詞のアスペクト・助動詞「想」・介詞「從…到」）		
	第3週	発音Ⅲ（二重母音・子音Ⅱ）・簡単な挨拶	第18週	自分の一日（起床から寝るまでの行動）		
	第4週	発音Ⅳ（三重母音）・数字①	第19週	アルバイト（文法項目：時量の表現）		
	第5週	発音Ⅴ（鼻母音）	第20週	職業・仕事（文法項目：介詞「在」）		
	第6週	発音の復習・自分の名前の読み方	第21週	旅行（１）（文法項目：過去の経験・介詞「給」）		
	第7週	学習用品（文法項目：「是」の述語文・疑問文）	第22週	旅行（２）（文法項目：「是…的」の構造文）		
	第8週	自己紹介Ⅰ（名前・身分・国籍）	第23週	車の運転（文法項目：助動詞「会、能、可以」）		
	第9週	私達の学校（文法項目：形容詞述語文）	第24週	中国語のDVD鑑賞と質疑応答、応用会話		
	第10週	物についての評価（文法項目：主述述語文）	第25週	今何をしていますか（文法項目：進行形・連動文）		
	第11週	数字②・日付・時刻の表現・量詞（助数詞）	第26週	趣味（文法項目：助動詞「喜歡」・動詞の重ね型）		
	第12週	お金の表現（文法項目：名詞述語文）	第27週	疑問詞のまとめ練習・文型の整理		
	第13週	食べ物・飲み物（文法項目：動詞述語文・「有」の述語文）	第28週	自己紹介Ⅱ（200字程度）		
	第14週	レストランで注文の仕方（反復疑問文・選択疑問文）	第29週	総合復習・発表会リハーサル		
	第15週	家族・住まい（文法項目：「在」の述語文・介詞「離」）	第30週	テスト・発表会・テスト結果分析		
指導方法 履修上の 注意	カリキュラムに応じてカード、プリントなどを使用する。 毎回ポイントを説明し、繰り返し練習することによって覚えていく。 毎回の課題を次のレッスンまでに準備しておくこと。 毎回の内容を積み上げながら取り組むため、原則として欠席はしないように。					
成績評価の 方法	筆記試験（40%）、課題（20%）、発表（20%）、授業態度（20%）					
教科書	カリキュラムに応じてプリントを配布する。					
参考文献	『《最新2訂版》中国語はじめの一步』（竹島 金吾監修、尹 景春・竹島 毅著、白水社） 『漢語口語速成（入門編）』（北京語言大学出版社）					

授業科目	スポーツと健康		単位数	2	担当教員	北 洞 誠 一
講義のねらいと概要および到達目標	<p>〔講義のねらいと概要〕日本の3大死因である「ガン」、「心臓病」、「脳血管疾患」は、全て生活習慣病であり、その原因としてあげられるのは、食生活、ストレス、運動不足であると言われていている。そのうちの二つの原因である、ストレスと運動不足は、リラックスを主体とした適度な運動と楽しんで行えるスポーツによって解消することが出来る。この講義では、主に、実技を中心として、自分の身体を緩める効果のあるあべこべ体操を中心とした体操や、勝敗を競いながら適度に負荷のかかるスポーツにより、ストレスと運動不足を解消して行く。同時に、座学により、健康とストレス・運動の関わりを理論的に理解していく。</p> <p>〔到達目標〕この講義を通じて、健康とストレス・運動の関係を理解し、実際に日常生活において、自分のストレスや運動不足を解消する手法を身に付ける。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション 健康とストレス・運動の関係①（座学）	第16週	身体を緩める体操（あべこべ体操）③～腰		
	第2週	健康とストレス・運動の関係②（座学）	第17週	身体を緩める体操（あべこべ体操）④～脚		
	第3週	身体を緩める体操（あべこべ体操）①～首・肩	第18週	ソフトバレーボール①		
	第4週	身体を緩める体操（あべこべ体操）②～背中	第19週	ソフトバレーボール②		
	第5週	ウォーキング（航空公園）	第20週	ソフトバレーボール③		
	第6週	テニス①	第21週	ソフトバレーボール④		
	第7週	テニス②	第22週	卓球①		
	第8週	テニス③	第23週	卓球②		
	第9週	テニス④	第24週	卓球③		
	第10週	バドミントン①	第25週	卓球④		
	第11週	バドミントン②	第26週	バスケットボール①		
	第12週	バドミントン③	第27週	バスケットボール②		
	第13週	バドミントン④	第28週	バスケットボール③		
	第14週	健康と食事の関係①（座学）	第29週	バスケットボール④		
	第15週	健康と食事の関係②（座学）	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	実技の時は、動きやすい服装を用意する。靴は、屋外と屋内の物を用意する。屋内の場合、種目によって素足でも構いません。					
成績評価の方法	筆記試験（20%）、レポート（20%）、実技（30%）、授業態度（30%）					
教科書	なし。					
参考文献	特に無し。適宜、紹介する。					

授業科目	ゼミナール I	単位数	1	担当教員	吉井利真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>映像、音楽、イラスト、アニメーション、マンガ、デザイン、編集などパソコンを使って自分の想いや考え、感覚を表現できる領域はたくさんあります。ゼミナール I では、そうしたも のから自分の最も興味や関心のあるものを選び、作品化していきます。ゼミナール II での本格的な卒業制作のための準備作業にもなります。また、MOS 検定の合格をめざすためのトレーニングも希望者には実施します。毎時間に 10～15 分程度の基礎学力鍛錬講座を実施します。 到達目標はゼミナール II に向けた準備の完了に置きます。</p>				
授業計画	第 1 週	パソコンでできること、できないこと (共通) & 基礎学力鍛錬講座			
	第 2 週	柔軟な思考を身につける (共通) & 基礎学力鍛錬講座			
	第 3 週	プレゼンテーション (共通) 自分の関心事や目標 & 基礎学力鍛錬講座			
	第 4 週	基礎学力鍛錬講座	創作のための準備①	/	検定のための準備①
	第 5 週	基礎学力鍛錬講座	創作のための準備②	/	検定のための準備②
	第 6 週	基礎学力鍛錬講座	企画者になろう	/	文書処理 & 表計算 基礎
	第 7 週	基礎学力鍛錬講座	提案者になろう	/	文書処理 & 表計算 基礎
	第 8 週	基礎学力鍛錬講座	制作スタッフになろう	/	文書処理 & 表計算 基礎
	第 9 週	基礎学力鍛錬講座	作品制作	/	文書処理 & 表計算 基礎
	第 10 週	基礎学力鍛錬講座	作品制作	/	文書処理 & 表計算 基礎
	第 11 週	基礎学力鍛錬講座	作品制作	/	文書処理 & 表計算 基礎
	第 12 週	中間発表 プレゼンテーション			
	第 13 週	基礎学力鍛錬講座	作品制作	/	文書処理 & 表計算 基礎
	第 14 週	基礎学力鍛錬講座	作品制作	/	文書処理 & 表計算 基礎
	第 15 週	最終発表 相互評価			
指導方法 履修上の 注意	<p>休まない、怠けない、あきらめない。この気持ちで参加しましょう。 パソコンを使う機会が多くなりますが、操作を勉強するものではありません。それを使ってど んな表現や演出が出来るのか、それが本筋です。</p>				
成績評価の 方法	課題ないし作品 (80%)、発表 (20%)				
教科書					
参考文献					

授業科目	ゼミナールⅠ	単位数	1	担当教員	及川道之
講義のねらいと概要	<p>ゼミナールⅡでは卒業研究や卒業制作の提出を義務付けているが、この授業はその準備に充てるために行う。</p> <p>問題への取り組み方を始めとして、基本的な手続きなどを具体的に説明する。</p> <p>到達目標～2年進級時までに各自が自身に合ったテーマを見つけられるようにする。</p>				
授業計画	第1週	始めに～これから学ぶこと			
	第2週	古事記に描かれた神々の世界 1			
	第3週	古事記に描かれた神々の世界 2			
	第4週	万葉集を読む 1			
	第5週	万葉集を読む 2			
	第6週	奈良時代の歴史と文学 1			
	第7週	奈良時代の歴史と文学 2			
	第8週	平安時代の歴史と文学 1			
	第9週	平安時代の歴史と文学 2			
	第10週	昔話と民話 1			
	第11週	昔話と民話 2			
	第12週	信仰と習俗 1			
	第13週	信仰と習俗 2			
	第14週	風土と文学			
	第15週	まとめ～テーマの決定			
指導方法履修上の注意	各自が興味と関心に基づいたテーマを発見するのが最終的な目標なので、そこに至るまでの過程も貴重な経験となるよう、活発な質疑応答をはじめとして受講生が主体となるような授業を心掛けたい。				
成績評価の方法	レポート（30%）、課題（40%）、授業態度（30%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	ゼミナール I	単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	映画について学ぶことはたくさんある。まずテーマを見つけることが大切である。				
授業計画	第1週	映画のジャンルについて。			
	第2週	ドキュメンタリー映画の魅力。			
	第3週	アニメーション映画の芸術性。			
	第4週	劇映画と演劇の違い。			
	第5週	自分の好きな映画のジャンルについて。			
	第6週	映画の鑑賞と批評。			
	第7週	映画史を勉強する意味について。			
	第8週	俳優の役割。			
	第9週	レポートのテーマを考える。			
	第10週	レポートのテーマを発表。			
	第11週	レポートの目次とくはじめに>を書く。			
	第12週	中間報告(1)。			
	第13週	中間報告(2)。			
	第14週	レポート提出。			
	第15週	2年時の卒論について。			
指導方法履修上の注意	ふだんから映画をできるだけたくさん見ること。				
成績評価の方法	レポート(80%)、授業態度(20%)				
教科書	使用せず。				
参考文献					

	ゼミナールⅠ	単位数	1	担当教員	宮木孝子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>2年次のゼミナールⅡを視野にいて、各自の関心の高い分野の作品を選び、研究方法の基本を学ぶ。なお、2回の中間報告会では、レジュメを各自準備して臨み、質疑に答える、この成果をもとに、2年次のゼミナールⅡの作品あるいは、研究分野を決定する。</p> <p>到達目標</p> <p>①自分で、「考え」の裏付けとなる資料等を、整理してレジュメにまとめることが出来るようになること。</p> <p>②作品を読み解くキーワードを見つけること。</p> <p>③主要参考文献のリストを作ること。</p>				
授業計画	第1週	ゼミナールの勉強方法とは 研究レポートを完成するまでの課程			
	第2週	研究レポート・小論文とは、どんなものか。テーマの重要性。図書館へ			
	第3週	図書館の使い方・資料の集め方 プリント」配布 図書館へ			
	第4週	作品を選ぶ ・資料を集める時の注意・ノートの使い方			
	第5週	作品を選び、感想文を書いてみる。			
	第6週	感想文から、作品の主題を考えてみる。感想ではなく、作品に対する自分の考えを作品を読んで探す。			
	第7週	作品に対する考えをまとめ、自分お研究のテーマ(課題)を見つける。			
	第8週	図書館で必要な資料を探す。得た資料を使って、作品に対する考えをさらに明確にする。			
	第9週	自分の考えの調整・訂正・テーマの変更の必要を熟考する。			
	第10週	①問題点を整理→ レジュメ下書き			
	第11週	②問題点を確認 → レジュメ作成			
	第12週	レジュメの最終チェック			
	第13週	中間報告会1			
	第14週	中間報告会2			
	第15週	中間報告会3 まとめ 春休みの課題			
指導方法履修上の注意	ゼミナールは、この分野の勉強がしたいという学生の集まりです。具体的な作品が初めから決まっていなくても、大丈夫です。明治から現代の文学・児童文学(小説・短歌俳句・詩・戯曲・評論)に関心のある学生がほとんどです。作品に出てくる衣装や生活様式や道具、人々の生活などを調べ作品を読んだ例もあります。様々な視点で読む楽しさをまず知って下さい。				
成績評価の方法	課題 (25%)、発表 (25%)、授業態度 (50%) 毎回の授業態度(関心の高さ・努力・課題に取り組む積極的姿勢)が大切です。				
教科書	なし。プリント配布。				
参考文献	適宜紹介します。				

授業科目	ゼミナール I	単位数	1	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要および到達目標	<p>問題の設定、調査、調査結果の整理、報告の作成、発表、という一連の作業を、自主性を持って実現するために必要となる基礎的な知識と技術の獲得を目指します。</p> <p>方法論を学ぶため、輪読を中心に、取り扱うテーマは特に指定せず、各人の興味に応じます。また図書館への就職を希望する学生向けの対策を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・締め切りの決まった作業を繰り返すことに慣れる</li> <li>・読んだものをまとめ、発表できるようになる</li> <li>・人の発表に意見できるようになる</li> </ul>				
授業計画	第1週	履修案内、履修準備			
	第2週	問題の発見 1			
	第3週	問題の発見 2			
	第4週	調査の方法 1			
	第5週	調査の方法 2			
	第6週	調査の実践 1			
	第7週	調査の実勢 2			
	第8週	調査結果の整理 1			
	第9週	調査結果の整理 2			
	第10週	調査結果からの作文 1			
	第11週	調査結果からの作文 2			
	第12週	文章の校正			
	第13週	プレゼンテーションの作成 1			
	第14週	プレゼンテーションの作成 2			
	第15週	プレゼンテーション			
指導方法 履修上の注意	履修中は報告、連絡、相談を心がけましょう。				
成績評価の方法	授業態度 (100%)				
教科書	全体としてはありません。個人ごとに指定することがあります。				
参考文献	講談社ブルーバックス『「分かりやすい～」の技術』シリーズを利用します。受講人数次第でこちらで購入したものを全員に配布します。				

授業科目	ゼミナール II		単位数	2	担当教員	吉井利真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>IT スキルのレベルアップをめざす受講生向けには、練習用教材と試験練習用教材を利用した演習を行います。創作活動をめざす受講生向けには、必要な素材の加工や利用方法、作品の出力方法などについての指導も行います。ゼミ員全員で参加し、作り上げていく合同企画もあわせて行います。興味や関心の違いを越えて何ができるのかを探っていきます。</p> <p>到達目標は各自がめざす検定試験の合格あるいは創作作品の完成・公開とします。</p>					
授業計画	第1週	演習の目標設定	第16週	IT スキルアップ対策講座1 / 卒業制作準備		
	第2週	文書処理・表計算演習1 / 創作演習1	第17週	IT スキルアップ対策講座2 / 卒業制作準備		
	第3週	文書処理・表計算演習2 / 創作演習2	第18週	ゼミナール合同企画の準備1		
	第4週	文書処理・表計算演習3 / 創作演習3	第19週	ゼミナール合同企画の準備2		
	第5週	学習成果の発表	第20週	IT スキルアップ対策講座3 / 卒業制作1		
	第6週	文書処理・表計算演習4 / 創作演習4	第21週	IT スキルアップ対策講座4 / 卒業制作2		
	第7週	文書処理・表計算演習5 / 創作演習5	第22週	IT スキルアップ対策講座5 / 卒業制作3		
	第8週	文書処理・表計算演習6 / 創作演習6	第23週	ゼミナール合同企画1		
	第9週	文書処理・表計算演習7 / 創作演習7	第24週	ゼミナール合同企画2		
	第10週	IT 模擬テスト1 / 創作中間発表1	第25週	IT スキルアップ対策講座6 / 卒業制作4		
	第11週	IT 模擬テスト2 / 創作中間発表2	第26週	IT スキルアップ対策講座7 / 卒業制作5		
	第12週	文書処理・表計算演習8 / 創作演習8	第27週	IT スキルアップ対策講座8 / 卒業制作6		
	第13週	文書処理・表計算演習9 / 創作演習9	第28週	ゼミナール合同企画3		
	第14週	文書処理・表計算演習10 / 創作演習10	第29週	ゼミナール合同企画4		
	第15週	学習成果の発表	第30週	卒業制作発表		
指導方法履修上の注意	<p>休まない、怠けない、あきらめない。この気持ちで今年も参加しましょう。</p> <p>スキルアップをめざす人は、学習成果を各種検定資格の取得として実現しましょう。</p> <p>創作活動に励む人は、プレゼンということも意識しましょう。</p>					
成績評価の方法	課題への取り組み (60%)、学習成果 (40%)					
教科書						
参考文献	ゼミナールに時に必要に応じて指示します。					

授業科目	ゼミナールⅡ		単位数	2	担当教員	及川道之
講義のねらいと概要	<p>日本の文学や歴史などの文化的な事柄について、テーマの見つけ方から、参考資料の探し方や利用の方法など基本的な手続きを始めとして、一つの論文や作品を完成させるまでの過程を通して、自己の考えを整理し深め、さらに他者に伝えるための工夫など、実際に体験することをねらいとする。</p> <p>到達目標～論文あるいは作品の形に完成させる。</p>					
授業計画	第1週	授業を始めるにあたって	第16週	テーマ別に1～3名程度を個別指導		
	第2週	総合演習Ⅰの確認①～百人一首	第17週	〃		
	第3週	総合演習Ⅰの確認②～百人一首	第18週	〃		
	第4週	総合演習Ⅰの確認③～日本の神々	第19週	〃		
	第5週	総合演習Ⅰの確認④～日本の神々	第20週	〃		
	第6週	総合演習Ⅰの確認⑤～日本の昔話	第21週	〃		
	第7週	総合演習Ⅰの確認⑥～日本の昔話	第22週	〃		
	第8週	テーマの決定	第23週	〃		
	第9週	テーマ別に1～3名程度を個別指導	第24週	〃		
	第10週	〃	第25週	〃		
	第11週	〃	第26週	〃		
	第12週	〃	第27週	〃		
	第13週	〃	第28週	〃		
	第14週	〃	第29週	〃		
	第15週	〃	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>この授業の最大の特徴は、与えられた課題について答えを探すのではなく、問題自体を自ら見つけ出し、自分で回答を用意することにある。そこにたどり着くまでの作業が貴重な体験になるよう、活発な質疑応答を積み重ねていきたい。</p>					
成績評価の方法	レポート・作品（60%）、授業態度（40%）					
教科書						
参考文献						

授業科目	ゼミナールⅡ		単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>各自の研究テーマを追及して卒業論文を作成することを目標とする。研究テーマは映画に関することなら自由に選んでよい。しかし、そのためには現在の世界の映画について知っていることとあわせて、映画の歴史を知っておくことも重要である。また、各自が映画の鑑賞、批評のレベルをあげる努力をしなければならない。講義では映画史と映画美学の両方に重点を置いてすすめていきたい。</p>					
授業計画	第1週	映画の誕生 ヨーロッパとアメリカ	第16週	先輩たちの卒論を読む		
	第2週	代表的なサイレント映画	第17週	卒論のテーマのための調査と研究（1）		
	第3週	日本のサイレント映画	第18週	卒論のテーマのための調査と研究（2）		
	第4週	サイレントからトーキーへ（1）	第19週	日本映画の特色		
	第5週	サイレントからトーキーへ（2）	第20週	中国映画の特色		
	第6週	サドゥールの世界映画史を読む（1）	第21週	韓国映画の特色		
	第7週	サドゥールの世界映画史を読む（2）	第22週	アメリカ映画の特色		
	第8週	世界の映画祭 カンヌ国際映画祭	第23週	卒論の中間発表		
	第9週	世界の映画祭 ヴェネツィア国際映画祭	第24週	ヨーロッパ映画の特色		
	第10週	世界の映画祭 ベルリン国際映画祭	第25週	ラテンアメリカ映画の特色		
	第11週	日本の映画祭	第26週	アフリカ映画の特色		
	第12週	劇映画とドキュメンタリー映画について	第27週	イスラム圏の映画の特色		
	第13週	劇映画のジャンルについて	第28週	卒論の仕上げ		
	第14週	アニメーション映画の歴史	第29週	卒論の提出と発表（1）		
	第15週	卒論のテーマについて	第30週	卒論の提出と発表（2）		
指導方法履修上の注意	映画をできるだけ数多く見る。見た映画について、正しく理解し、豊かに感じ取ることを指導する。映画辞典をはじめとして文献調査をできるように指導する。					
成績評価の方法	レポート（60%）、課題（10%）、発表（10%）、授業態度（20%）					
教科書	使用せず。					
参考文献						

授業科目	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	宮木孝子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>短期大学の学びの総まとめとして、各自が選んだ文学作品の研究レポートを完成させる。前期は、調査・読み込みを中心に行い、資料の調査方法や問題解決の方法を学ぶ。後期には、中間発表をおこなって、各自の研究の論点をより明確にして行く。そして、最後に原稿用紙 30 枚程度(本文)で研究結果をまとめ、発表する。</p> <p>到達目標 ①問題を解決する、手順・方法を覚え、身に付ける。          ②作品を熟読し、自らの「読み」を獲得する。          ③理論的な文章表現法を学び、研究レポートを完成させる。</p>				
授業計画	第1週	ゼミナールⅡの年間計画と説明	第16週	夏期休暇中の進捗展開の報告会 1	
	第2週	問題点の発見と整理 辞典と事典	第17週	夏期休暇中の進捗展開の報告会 2	
	第3週	年間計画の作り方	第18週	夏期休暇中の進捗展開の報告会	
	第4週	研究テーマ紹介	第19週	目次・文章構成の見直し 1	
	第5週	研究テーマ紹介	第20週	目次・文章構成の見直し 1	
	第6週	研究計画を作る	第21週	目次・文章構成の見直し 1	
	第7週	研究計画を作る→発表	第22週		
	第8週	各自調査開始	第23週		
	第9週	↓ 論文の構成について	第24週		
	第10週	↓ 図書館・資料館	第25週		
	第11週	↓ 引用文献の表記と著作権	第26週		
	第12週	↓ 発表準備①	第27週		
	第13週	↓ 発表準備②	第28週	レポート提出・まとめ	
	第14週	中間発表 1	第29週	研究発表・講評	
	第15週	中間発表 2	第30週	研究発表・講評	
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選んだ作品は、注意深く、何度も読むこと、自分から、疑問・好奇心をもって臨むこと。</li> <li>・ 発表・報告の時は、1週間前に資料を作って配布すること。</li> <li>・ 意思表示を明確にして、意見交換を積極的に行うこと。</li> <li>・ 国語辞典を積極的に利用すること。</li> <li>・ 私語・形態電話 off・質問歓迎</li> </ul>				
成績評価の 方法	<p>、レポート (60 %) 授業態度 ( 40 %)          ＊授業態度には、中間発表・平素の研究態度・質問などが入ります。</p>				
教科書	なし。資料配付します。				
参考文献	適宜、個別に紹介します。				

授業科目	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要および到達目標	<p>人間が表現によって作り出した情報資源の利活用を中心的なテーマとして、新規性と有用性を意識した調査と報告・発表を行います。また、ゼミナール1で学んだ基礎的な方法論を応用して、明確な成果を得るためのプロジェクトを計画し、共同での調査や討論、発表なども行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切なテーマを設定し、その解決策を考えることができる</li> <li>テーマに沿った調査を行える</li> <li>調査結果をまとめ、発表することができる</li> </ul>				
授業計画	第1週	履修案内	第16週	プロジェクトのテスト1	
	第2週	プロジェクトの計画1	第17週	テーマ報告の作成1	
	第3週	プロジェクトの計画2	第18週	テーマ報告の作成2	
	第4週	個人テーマの策定1	第19週	テーマ報告の作成3	
	第5週	個人テーマの策定2	第20週	プロジェクトのテスト2	
	第6週	調査1	第21週	プレゼンテーションの作成1	
	第7週	調査2	第22週	プレゼンテーションの作成2	
	第8週	調査3	第23週	プレゼンテーションの作成3	
	第9週	プロジェクト・テーマの見直し	第24週	プレゼンテーション1	
	第10週	追加調査1	第25週	プレゼンテーション2	
	第11週	追加調査2	第26週	プロジェクトの実行1	
	第12週	プロジェクトの討論1	第27週	プロジェクトの実行2	
	第13週	プロジェクトの討論2	第28週	プロジェクトの実行3	
	第14週	個人テーマの討論1	第29週	プロジェクトの評価	
	第15週	個人テーマの討論2	第30週	プロジェクトの改善	
指導方法 履修上の 注意	<p>履修中は報告、連絡、相談を心がけましょう。 学外で実施することがあります。 テーマについては可能な限り相談に応じます。</p>				
成績評価の方法	発表（100％）				
教科書	全体としてはありません。個人ごとに指定することがあります。				
参考文献					

授業科目	短大生基礎力演習	単位数	1	担当教員	吉井 利真 他
講義のねらいと概要および到達目標	<p>短期大学で学ぶことの意味、学び方、学んだことの実践、そして授業や学園生活を送る上で必要不可欠なコミュニケーション能力を身につけるための指導を行います。</p> <p>毎時間に10～15分程度の基礎学力鍛錬講座を実施します。</p> <p>到達目標はコミュニケーション能力の習得と基本的な学習態度の獲得とします。</p>				
授業計画	第1週	基礎学力鍛錬講座 & これから学ぶこと			
	第2週	基礎学力鍛錬講座 & コミュニケーションをとる			
	第3週	基礎学力鍛錬講座 & 発表とコメントの体験(1)			
	第4週	基礎学力鍛錬講座 & 発表とコメントの体験(2)			
	第5週	基礎学力鍛錬講座 & グループ学習の進め方(1)			
	第6週	基礎学力鍛錬講座 & グループ学習の進め方(2)			
	第7週	基礎学力鍛錬講座 & ノートのとり方(1)			
	第8週	基礎学力鍛錬講座 & ノートのとり方(2)			
	第9週	基礎学力鍛錬講座 & レジユメを作る			
	第10週	基礎学力鍛錬講座 & レジユメをもとに発表する			
	第11週	基礎学力鍛錬講座 & レポートの書き方(1) 約束事			
	第12週	基礎学力鍛錬講座 & レポートの書き方(2)			
	第13週	基礎学力鍛錬講座 & レポートの書き方(3)			
	第14週	基礎学力鍛錬講座 & 課題への取り組み方			
	第15週	学んだことを確認してみる			
指導方法履修上の注意	高校までの授業への取り組みと違った対応が必要なことを理解しましょう。				
成績評価の方法	発表(50%)、確認テスト(50%)				
教科書					
参考文献					

授業科目	情報処理演習	単位数	2	担当教員	吉野明美
講義のねらいと概要および到達目標	<p>Windows やアプリケーションを利用する際に、必ず知っておきたい基本的な知識や操作方法に特化して学習します。</p> <p>また、課題レポートやビジネス文書の書き方、データ分析処理など、学生生活で最低限必要なテクニック、そして社会人として知っておきたい情報知識も習得していきます。</p>				
授業計画	クラス	A	B		
	第1週	Windows 基本操作の確認・ファイル管理	Windows 基本操作の確認・ファイル管理		
	第2週	Word① タイピング・基本的な文書作成	Word① タイピング・基本的な文書作成		
	第3週	Word② タイピング・図表挿入と編集	Word② タイピング・図挿入と編集		
	第4週	Word③ タイピング・文書印刷	Word③ タイピング・表挿入と編集		
	第5週	Word④ タイピング・表現力アップ機能	Word④ タイピング・文書印刷		
	第6週	Word⑤ 中間まとめ	Word⑤ タイピング・社内文書の基本形		
	第7週	Excel① データ入力	Word⑥ タイピング・社外文書の基本形		
	第8週	Excel② 表作成	Word⑦ タイピング・表現力アップ機能		
	第9週	Excel③ 表編集	Word⑧ 中間まとめ		
	第10週	Excel④ 表印刷	Excel① データ入力		
	第11週	Excel⑤ グラフ作成	Excel② 表作成と編集		
	第12週	Excel⑥ データベース操作	Excel③ グラフ作成		
	第13週	Excel⑦ 複数シート操作	Excel④ データベース操作		
	第14週	Excel⑧ 関数の活用	Excel⑤ 複数シート操作		
第15週	Excel⑨ 試験・まとめ	Excel⑥ 試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>情報を適切に活用するための技能を養い、実践に活かせるスキルを習得するための授業です。基礎をしっかり身につけて、スキルアップをしていきましょう。</p>				
成績評価の方法	<p>課題（70%）、授業態度（30%）</p>				
教科書	<p>『情報リテラシー 入門編』（富士通エフ・オー・エム、FOM 出版）</p>				
参考文献					

授業科目	社会人基礎講座	単位数	2	担当教員	松尾信子																														
講義のねらいと概要および到達目標	<p>本講座では、受講生がインターシップや就職に必要とされる知識や心構え、そしてビジネス・マナーについて学びます。受講生が実演やディスカッションを通して、確実に理解し、身につけていく方法で授業を進めてまいります。</p> <p>そして15回講義の終了時まで、①社会人としてのマナーやスキルを修得する。②社会人に必要な多くの情報を得る。③受講生の心構えや意識が高まる。この3点を到達目標にしています。みなさんの積極的な参加を期待いたします。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>学生時代に何を準備しておくべきか（社会人に求められるものはなにか）</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>社会の潮流はどのように変化しているか（社会はいったい何を求めているか）</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>接遇の基本とは何かⅠ （マナー研修「身だしなみ」「基本動作」について実践を通して学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>接遇の基本とは何かⅡ （「言葉づかい」について実践を通して学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>コミュニケーションの基本とは何かⅠ （なぜ、コミュニケーション能力が求められているかについて理解する）</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>コミュニケーションの基本とは何かⅡ （「話す」「聴く」という二つの重要なスキルについて学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>コミュニケーションの基本とは何かⅢ （「報告・連絡・相談」および「話し方」の心構えとポイントを学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>電話対応の基本（電話の特性を理解し、電話をかける時・受ける時のマナーについて習得する）</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>文書作成の基本（ビジネス文書および論文の作成の実践）</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>インターンシップと企業が求める人間像を知る （実践的な就業体験を通して得られるものを自らの将来に活かす）</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>企業経営者が学生に何を求めているかについての論文や記事を読んで、グループごとに感想を述べ合う。 （各自が卒業までに何をしなければならないかについて自覚する）</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>就職活動にあたって、いま何を準備すべきか （自己の強み・弱みを分析し、人間力を高めるための方法について考える）</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>自己の将来の人生計画を考える （自律型人間に進化するために、自分の道は自分で創るという考えをもつ）</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>授業の総括と小テスト</td> </tr> </table>					第1週	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）	第2週	学生時代に何を準備しておくべきか（社会人に求められるものはなにか）	第3週	社会の潮流はどのように変化しているか（社会はいったい何を求めているか）	第4週	接遇の基本とは何かⅠ （マナー研修「身だしなみ」「基本動作」について実践を通して学ぶ）	第5週	接遇の基本とは何かⅡ （「言葉づかい」について実践を通して学ぶ）	第6週	コミュニケーションの基本とは何かⅠ （なぜ、コミュニケーション能力が求められているかについて理解する）	第7週	コミュニケーションの基本とは何かⅡ （「話す」「聴く」という二つの重要なスキルについて学ぶ）	第8週	コミュニケーションの基本とは何かⅢ （「報告・連絡・相談」および「話し方」の心構えとポイントを学ぶ）	第9週	電話対応の基本（電話の特性を理解し、電話をかける時・受ける時のマナーについて習得する）	第10週	文書作成の基本（ビジネス文書および論文の作成の実践）	第11週	インターンシップと企業が求める人間像を知る （実践的な就業体験を通して得られるものを自らの将来に活かす）	第12週	企業経営者が学生に何を求めているかについての論文や記事を読んで、グループごとに感想を述べ合う。 （各自が卒業までに何をしなければならないかについて自覚する）	第13週	就職活動にあたって、いま何を準備すべきか （自己の強み・弱みを分析し、人間力を高めるための方法について考える）	第14週	自己の将来の人生計画を考える （自律型人間に進化するために、自分の道は自分で創るという考えをもつ）	第15週	授業の総括と小テスト
第1週	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）																																		
第2週	学生時代に何を準備しておくべきか（社会人に求められるものはなにか）																																		
第3週	社会の潮流はどのように変化しているか（社会はいったい何を求めているか）																																		
第4週	接遇の基本とは何かⅠ （マナー研修「身だしなみ」「基本動作」について実践を通して学ぶ）																																		
第5週	接遇の基本とは何かⅡ （「言葉づかい」について実践を通して学ぶ）																																		
第6週	コミュニケーションの基本とは何かⅠ （なぜ、コミュニケーション能力が求められているかについて理解する）																																		
第7週	コミュニケーションの基本とは何かⅡ （「話す」「聴く」という二つの重要なスキルについて学ぶ）																																		
第8週	コミュニケーションの基本とは何かⅢ （「報告・連絡・相談」および「話し方」の心構えとポイントを学ぶ）																																		
第9週	電話対応の基本（電話の特性を理解し、電話をかける時・受ける時のマナーについて習得する）																																		
第10週	文書作成の基本（ビジネス文書および論文の作成の実践）																																		
第11週	インターンシップと企業が求める人間像を知る （実践的な就業体験を通して得られるものを自らの将来に活かす）																																		
第12週	企業経営者が学生に何を求めているかについての論文や記事を読んで、グループごとに感想を述べ合う。 （各自が卒業までに何をしなければならないかについて自覚する）																																		
第13週	就職活動にあたって、いま何を準備すべきか （自己の強み・弱みを分析し、人間力を高めるための方法について考える）																																		
第14週	自己の将来の人生計画を考える （自律型人間に進化するために、自分の道は自分で創るという考えをもつ）																																		
第15週	授業の総括と小テスト																																		
指導方法 履修上の 注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時間厳守（始業時間に遅れて教室に入らないでください）</li> <li>2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。</li> <li>3. 授業は楽しく活発になるように協力してくださいね</li> </ol>																																		
成績評価の 方法	筆記試験（30%）、レポート（40%）、授業態度（30%） ※授業中は毎回、演習やグループワークを取り入れますので、積極的に参加する姿勢を評価します。																																		
教科書	『おもてなしの原点 ―ホスピタリティ教科書―』（浦郷義郎、PHP 研究所） ※2014年3月発行予定																																		
参考文献	『ホスピタリティがあなたの意識を変える』（浦郷義郎、同友館）																																		

授業科目	キャリアデザイン	単位数	2	担当教員	松尾 信子																														
講義のねらいと概要および到達目標	<p>みなさんはこれから長い人生の中で、就職活動を含むさまざまな節目において、自分の岐路を自分で選択していかなくてはなりません。その中で仕事にかかわること、つまり職業選択、仕事に対する意識や能力の形成について、自分自身が主体性をもって自律的に計画し、それを実行していくことがキャリアデザインです。</p> <p>この講義では、キャリアデザインの基礎を学び、仕事や職場の理解、自己理解、人生設計、ケース研究などを通して、①各自がキャリアデザインをつくる。②「自分らしい仕事」の選択に役立てる。③就職を控えたこの時期に、今後の課題を明確にする。この3点を到達目標にしています。みなさんの積極的な参加を期待いたします。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション(授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明)</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>キャリアデザインとは何か(キャリアデザインの基礎を理解する)</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>現代人のライフサイクルを考える(社会環境の変化と女性の社会進出について理解する)</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>キャリアデザインを経済的側面と精神的側面から学ぶ(経済的自律と精神的満足について理解する)</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>多様化する職業観について考える(働き方や働く意味が多様化していることを認識する)</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>仕事の業種や働くスタイルを知る_その1(働き方や雇用形態を理解する)</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>仕事の業種や働くスタイルを知る_その2(業種や職種について理解する)</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>年齢段階別キャリアデザインの方法を学ぶ(学生生活での行動やインターンシップの活用がキャリア形成に影響することを学ぶ)</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>社会人に必要とされる基礎力について理解する_その1(どのような仕事においても必要となる能力について理解し、自己の能力をチェックする)</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>社会人に必要とされる基礎力について理解する_その2(自己の能力をチェックし、基礎力の身につけ方考える)</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>自己理解_1 キャリア・アンカーを考える (シャインの「3つの問い」に内省し、仕事における自己イメージを確立する)</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>自己理解_2 キャリアデザインの能力的側面を考える (基礎力と専門力の視点から、在学中に取り組むべき課題を明らかにする)</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>自分のキャリアデザインをつくる(時系列的にイメージと能力を明確にし、これからの目標を設定する。そして、大学生活における目標達成のための行動計画を立てる)</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>① グループセッション(グループ内で各自キャリアデザインを発表しあうことにより、相互啓発を行う) ② 自己のキャリアデザインを再構築する</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>① クラス全員に向けて、各自のキャリアデザインを発表する(数名) ② 授業の総括</td> </tr> </table>					第1週	オリエンテーション(授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明)	第2週	キャリアデザインとは何か(キャリアデザインの基礎を理解する)	第3週	現代人のライフサイクルを考える(社会環境の変化と女性の社会進出について理解する)	第4週	キャリアデザインを経済的側面と精神的側面から学ぶ(経済的自律と精神的満足について理解する)	第5週	多様化する職業観について考える(働き方や働く意味が多様化していることを認識する)	第6週	仕事の業種や働くスタイルを知る_その1(働き方や雇用形態を理解する)	第7週	仕事の業種や働くスタイルを知る_その2(業種や職種について理解する)	第8週	年齢段階別キャリアデザインの方法を学ぶ(学生生活での行動やインターンシップの活用がキャリア形成に影響することを学ぶ)	第9週	社会人に必要とされる基礎力について理解する_その1(どのような仕事においても必要となる能力について理解し、自己の能力をチェックする)	第10週	社会人に必要とされる基礎力について理解する_その2(自己の能力をチェックし、基礎力の身につけ方考える)	第11週	自己理解_1 キャリア・アンカーを考える (シャインの「3つの問い」に内省し、仕事における自己イメージを確立する)	第12週	自己理解_2 キャリアデザインの能力的側面を考える (基礎力と専門力の視点から、在学中に取り組むべき課題を明らかにする)	第13週	自分のキャリアデザインをつくる(時系列的にイメージと能力を明確にし、これからの目標を設定する。そして、大学生活における目標達成のための行動計画を立てる)	第14週	① グループセッション(グループ内で各自キャリアデザインを発表しあうことにより、相互啓発を行う) ② 自己のキャリアデザインを再構築する	第15週	① クラス全員に向けて、各自のキャリアデザインを発表する(数名) ② 授業の総括
第1週	オリエンテーション(授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明)																																		
第2週	キャリアデザインとは何か(キャリアデザインの基礎を理解する)																																		
第3週	現代人のライフサイクルを考える(社会環境の変化と女性の社会進出について理解する)																																		
第4週	キャリアデザインを経済的側面と精神的側面から学ぶ(経済的自律と精神的満足について理解する)																																		
第5週	多様化する職業観について考える(働き方や働く意味が多様化していることを認識する)																																		
第6週	仕事の業種や働くスタイルを知る_その1(働き方や雇用形態を理解する)																																		
第7週	仕事の業種や働くスタイルを知る_その2(業種や職種について理解する)																																		
第8週	年齢段階別キャリアデザインの方法を学ぶ(学生生活での行動やインターンシップの活用がキャリア形成に影響することを学ぶ)																																		
第9週	社会人に必要とされる基礎力について理解する_その1(どのような仕事においても必要となる能力について理解し、自己の能力をチェックする)																																		
第10週	社会人に必要とされる基礎力について理解する_その2(自己の能力をチェックし、基礎力の身につけ方考える)																																		
第11週	自己理解_1 キャリア・アンカーを考える (シャインの「3つの問い」に内省し、仕事における自己イメージを確立する)																																		
第12週	自己理解_2 キャリアデザインの能力的側面を考える (基礎力と専門力の視点から、在学中に取り組むべき課題を明らかにする)																																		
第13週	自分のキャリアデザインをつくる(時系列的にイメージと能力を明確にし、これからの目標を設定する。そして、大学生活における目標達成のための行動計画を立てる)																																		
第14週	① グループセッション(グループ内で各自キャリアデザインを発表しあうことにより、相互啓発を行う) ② 自己のキャリアデザインを再構築する																																		
第15週	① クラス全員に向けて、各自のキャリアデザインを発表する(数名) ② 授業の総括																																		
指導方法 履修上の 注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時間厳守(始業時間に遅れて教室に入らないでください)</li> <li>2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。</li> <li>3. 授業は全員参加型にしますので、楽しい授業になるように積極的に協力してくださいね。</li> </ol>																																		
成績評価の 方法	<p>課題(30%)、発表(40%)、授業態度(30%)</p> <p>*授業中は毎回、演習、グループミーティング、発表の機会を多くとっていますので、積極的に参加する姿勢を評価します。</p>																																		
教科書	『キャリアデザイン入門[1]基礎力編』(大久保幸夫、日経文庫)																																		
参考文献	『13歳のハローワーク』(村上 龍、 幻冬舎)																																		

授業科目	日本語表現法基礎	単位数	2	担当教員	及川道之
講義のねらいと概要	<p>色々と異なったタイプの文章を読み、その内容について正確に理解するとともに、自身の考えが的確に表現できるようになるためのトレーニングを行う。</p> <p>表現力の獲得に当たっては、語彙や作法などといった技術的な要素に加え、表現者自身が何をどのように考えているのか、内面の成熟が問われることにもなるので、特定のことばについて歴史的な展開をたどったり、新聞記事を題材に社会の諸事情に対するものの見方や考え方を養う。</p> <p>到達目標～さまざまな要求に応じて自分の考えを的確に表現できるようにする。</p>				
授業計画	第1週	授業を始めるにあたって			
	第2週	語彙の習得			
	第3週	語彙の習得			
	第4週	共通のテーマで実施			
	第5週	言葉のもつ歴史について考える			
	第6週	漢字を学ぶ			
	第7週	漢字を学ぶ			
	第8週	共通のテーマで実施			
	第9週	新聞を読む			
	第10週	新聞記事を要約する			
	第11週	新聞記事を要約する			
	第12週	共通のテーマで実施			
	第13週	新聞記事について意見交換を行う			
	第14週	自己PRを書く			
	第15週	授業を終えるにあたって			
指導方法 履修上の 注意	実際に記述したり、口頭で意見を述べる機会が頻繁にあるので受講するには何より主体的であること。				
成績評価の 方法	課題（70%）、授業態度（30%）				
教科書					
参考文献					

	日本語表現法基礎	単位数	2	担当教員	宮木孝子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>私は日本人、日本で生まれたから日本語でなんでも表現できる、と思っていませんか。普段の生活で、「読む・書く・話す」ことに不自由はない、というあなた。でも、公の場所で、相手にわかる・気持ちが伝わる日本語を、正しく選んで即座に使えるでしょうか。社会に必ず出て行く皆さんに、この時間は、日本語を意識して使う習慣を身に付けるレッスンをいたします。</p> <p>到達目標 ① 目的・所・時に応じた言葉の使い方を理解する。  ② 手紙や挨拶などの社会常識を知って実践する。  ③ 意識して、聞く、書く、話すことを習慣付ける。</p>				
授業計画	第1週	ワーク1～3・作文「私の自画像」400字			
	第2週	ワーク4～5 読みやすい文章とは？			
	第3週	ワーク6～7・文章を直しましょう①表現に気をつけて ②「です・ます」と「である・だ」			
	第4週	ワーク8～9・手紙の常識・非常識 手紙を書こう 下書き			
	第5週	ワーク10～11・コミュニケーションと言葉 手紙を書こう 清書			
	第6週	ワーク12～13・敬語って、なぜ必要なの？			
	第7週	まとめ 敬語の実際 やってみましょう。あなたは誰になる？ 「〇〇を演じて」感想と反省 400字			
	第8週	ワーク16～17 伝える力は、聞く力			
	第9週	ワーク18 キーワードを説明する。 途中から図書館へ			
	第10週	説明しよう（グループ発表）：人数により変更あり			
	第11週	ワーク19 根拠と出典・引用文の書き方			
	第12週	ワーク20 表やグラフの読み方・書き方			
	第13週	練習問題 ふりかえり1			
	第14週	練習問題 ふりかえり2			
	第15週	ワーク21 1～21をふりかえり、自己診断してみよう。作文「日本語表現を学んで」400字			
指導方法 履修上の 注意	<p>・テキストは、一見やさしい内容のようですが、実際は復習しないと身につけません。短期大学1年次に、社会で求められる日本語表現の基礎を知って、練習を始めましょう。</p> <p>私語厳禁・携帯電話 off・質問歓迎</p>				
成績評価の 方法	<p>課題（60％）、授業態度（40％）  課題は決められた時間に提出すること。</p>				
教科書	『日本語&コミュニケーションー社会を生きるための21のワークー』（石塚修・他 実教出版）				
参考文献	適宜に紹介。				

授業科目	日本語表現法基礎	単位数	2	担当教員	宮内 淳平																														
講義のねらいと概要	<p>「誰にでも分かる文章」、「誰にも誤解されない文章」を書けるようにするのがねらいです。書き手や話し手の意思を、適切な言葉と表現で正しく（誤解されないように）効果的に伝えるための技術を学習します。正しく効果的に伝えるための技術を習得し、自己を表現できるようになれば、他人に感動を与えたり、社会を動かしたりすることも可能です。文章の善し悪しは表現技術によって決定します。表現能力はあっても、技術を知っていなければ決して上手には書けません。また、高校までの授業で習ってきた文法を正しく使っても、上手な表現の文章が書けるというものではありません。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1週</td><td>良い文章と悪い文章</td></tr> <tr><td>第2週</td><td>センテンスの区切り方・主語と述語の配置</td></tr> <tr><td>第3週</td><td>修飾語と被修飾語の配置</td></tr> <tr><td>第4週</td><td>共通のテーマで実施</td></tr> <tr><td>第5週</td><td>丁寧語の使い方</td></tr> <tr><td>第6週</td><td>丁寧語の使い方</td></tr> <tr><td>第7週</td><td>正しい敬語の使い方</td></tr> <tr><td>第8週</td><td>共通のテーマで実施</td></tr> <tr><td>第9週</td><td>原稿用紙と語彙</td></tr> <tr><td>第10週</td><td>誤解される文章とは</td></tr> <tr><td>第11週</td><td>実践小論文の書き方</td></tr> <tr><td>第12週</td><td>共通のテーマで実施</td></tr> <tr><td>第13週</td><td>作文（随筆）の書き方</td></tr> <tr><td>第14週</td><td>作文（随筆）の書き方</td></tr> <tr><td>第15週</td><td>まとめ</td></tr> </table>					第1週	良い文章と悪い文章	第2週	センテンスの区切り方・主語と述語の配置	第3週	修飾語と被修飾語の配置	第4週	共通のテーマで実施	第5週	丁寧語の使い方	第6週	丁寧語の使い方	第7週	正しい敬語の使い方	第8週	共通のテーマで実施	第9週	原稿用紙と語彙	第10週	誤解される文章とは	第11週	実践小論文の書き方	第12週	共通のテーマで実施	第13週	作文（随筆）の書き方	第14週	作文（随筆）の書き方	第15週	まとめ
第1週	良い文章と悪い文章																																		
第2週	センテンスの区切り方・主語と述語の配置																																		
第3週	修飾語と被修飾語の配置																																		
第4週	共通のテーマで実施																																		
第5週	丁寧語の使い方																																		
第6週	丁寧語の使い方																																		
第7週	正しい敬語の使い方																																		
第8週	共通のテーマで実施																																		
第9週	原稿用紙と語彙																																		
第10週	誤解される文章とは																																		
第11週	実践小論文の書き方																																		
第12週	共通のテーマで実施																																		
第13週	作文（随筆）の書き方																																		
第14週	作文（随筆）の書き方																																		
第15週	まとめ																																		
指導方法履修上の注意	<p>受講者には、文章の書き直しや作成作業を課します。受講者が作成した文章などは全て添削して返却します。授業には国語辞典を必ず持参すること。</p>																																		
成績評価の方法	<p>レポート（50%）、課題（30%）、授業態度（20%）</p>																																		
教科書	<p>その都度プリントを配布予定。</p>																																		
参考文献																																			

授業科目	敬語とコミュニケーション	単位数	2	担当教員	柴田 かおる
講義のねらいと概要および到達目標	<p>敬語を使う理由と使わない理由を明確にする。広義では、初めに基本的な敬語のルールを学習。その上で、敬語を使う状況を具体的に色々と取り上げ、場面ごとに何が一番適切な敬語の使い方になるのか観察、分析し、正しく敬語が使えるようになるまで繰り返し、訓練する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;・尊敬語を正しく使う。 ・謙譲語を正しく使う。 ・丁寧語を使ってもいい場合を理解する。 ・敬語以外の表現で敬意を表すことを覚える</p>				
授業計画	第1週	なぜ敬語は必要なのかー現代社会における敬語の考え方について、考察。具体的なケースを提示しながら敬語を使うことで、コミュニケーションの取り方がどう変わるか自ら判断できるようにする。			
	第2週	謙譲語の基本的な決まり事を学ぶ。謙譲語は自分の行為を表現することであることを徹底的に繰り返し練習することで、自然に使えるようにする。			
	第3週	謙譲語の表現の中でも、丁寧語に近い表現を学ぶ。具体例を示しながら第2週で学んだ謙譲語との違いを理解する。			
	第4週	謙譲語と、尊敬語を混同して使わないように、具体例を示しながら学ぶ。動詞の変化を見れば、主語が省かれていても謙譲語と尊敬語の違いが分かることを反復練習で覚える。			
	第5週	ウチとソトという人間関係の区切りを念頭に、ソトの人間に対しては自分のウチ側にいる人間の行為について謙譲語を使うことを繰り返し練習。			
	第6週	尊敬語の基本的な決まり事を学ぶ。尊敬語は自分以外の人物の行為を表すものであることを徹底的に繰り返し練習することで、自然に使えるようにする。			
	第7週	尊敬語を適切に使い、公道に張り出すお知らせの原稿を書いてみる。状況を設定して、学生同士で尊敬語を使ってみる。			
	第8週	尊敬語の表現の中でも、人間関係を表す単語や、社会的地位を表す単語などの名詞を中心に学ぶ。更に敬意を表する宛名書きのルールも覚える。			
	第9週	丁寧語の基本的な決まり事を学ぶ。丁寧語は、主語が人間以外でも使えること、尊敬語や謙譲語ではなく、丁寧語でいい場合はどういう場合かを学ぶ。			
	第10週	「お、ご」の使い方、改まり表現を学ぶ。それぞれ、実際に学生自身が使って表現してみる。			
	第11週	クッション語をうまく使うことで、人間関係に配慮した敬語の使い方を身につける。			
	第12週	所謂バイト語について解説。何故敬語の間違ひの中でも、バイト語として括られる表現が、不快感を与えるのか考察する。実際に学生たちがよく使う、間違った敬語を挙げてもらい、それについて、自ら誤りを見つけて人に物を依頼する場合、要求を断る場合、引き受けることが不可能であることを伝える場合について、具体的な状況を想定して、敬語を練習する。			
	第13週	初対面の人間に対応する場合、クレームに対応する場合、自己紹介をする場合に、適切な敬語を使って表現してみる。			
	第14週	試験・まとめ			
指導方法履修上の注意	機械的に敬語のルールを暗記するのではなく、自分の頭で相手との距離を測りながら話すようにして欲しい。授業中は実際に敬語を使って話したり書いたりしてもらおう。私語厳禁。携帯電話は切ってから授業に臨むこと。予習よりも復習に重点を置くこと。				
成績評価の方法	筆記試験 (90%)、レポート (5%)、授業態度 (5%)				
教科書	その都度プリント配布				
参考文献					

授業科目	ホスピタリティ論	単位数	2	担当教員	松尾信子																														
講義のねらいと概要および到達目標	<p>多くの人たちがディズニーランドに何度も訪れたいと思うのはなぜでしょうか。街には、行列ができるお店とそうでないお店があるのはなぜでしょうか。それは、そのお店で働く社員にホスピタリティ・マインドがあるかどうか、その違いが大きく影響しているのです。</p> <p>この講義では、①ホスピタリティ・マインドを身につける。②学内や学外活動（学園祭、オープンキャンパス・スタッフ、インターンシップ、アルバイト等を含む）において、ホスピタリティを実践する。③相手に夢や感動を与えるために、自分は何をすべきかについて主体的に考える。この3点を到達目標にしています。みなさんの積極的な参加を期待いたします。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td>① オリエンテーション（授業の進め方・心構え・レジュメの発信・レポートの提出・採点方法などの説明） ② 企業の競争的優位性とは何か（格差はホスピタリティから生まれることを理解する）</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>① 周囲の人間に「喜びと感動」を与えるためには、どうすべきか（「真実の瞬間」の重要性を学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>① 「サービス」と「ホスピタリティ」の違いとは何か（ホスピタリティの本質とは何かを理解する） ② 接遇の基本Ⅰ（マナー研修「身だしなみ」「表情」「お辞儀」）</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>① 学園祭におけるホスピタリティの実践について発表する（実践内容とお客さまの反応について確認する） ② 接遇の基本Ⅱ（マナー研修「基本動作」）</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>① お客さまの生涯価値はどのくらいか（お客さま離れの恐ろしさとクレーム処理について学ぶ） ② 接遇の基本Ⅲ（「言葉づかい」）</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>① お客さまは「顧客」ではなく「個客」である（お客さまの要望は一人ひとり違うことを理解する）</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>① 商品やサービスとは何か（それらはソリューションである） ② 接遇の基本Ⅳ（「敬語」）</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>① 学生から社会人への意識改革（自己の強みと弱みを確認する）</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>① お客さまの求める本当の価値とは何か（純顧客価値を高めるためにはどうすればよいかを学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>① 企業の「見えざる資産」とは何か（組織が重視する資産の比重が変わっていることを理解する） ② コミュニケーションの基本Ⅰ（「話す」と「聴く」）</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>① 従業員の市場価値とは（個人のやる気や能力を引き出すためには何が必要かを理解する） ② コミュニケーションの基本Ⅱ（コミュニケーションの目的）</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>① コミュニケーションの基本Ⅲ（報告・連絡・相談）と実践</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>学外活動による現場研修（さまざまな店舗を見学することによって、ホスピタリティがどのように実践されているかを体感する）</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>学外活動の感想発表（学外活動を通して体験したこと、気づいたことを発表しあう。そして、各人がホスピタリティあふれる言動が取れるように、今後の目標を設定する）</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>授業の総括とテスト</td> </tr> </table>					第1週	① オリエンテーション（授業の進め方・心構え・レジュメの発信・レポートの提出・採点方法などの説明） ② 企業の競争的優位性とは何か（格差はホスピタリティから生まれることを理解する）	第2週	① 周囲の人間に「喜びと感動」を与えるためには、どうすべきか（「真実の瞬間」の重要性を学ぶ）	第3週	① 「サービス」と「ホスピタリティ」の違いとは何か（ホスピタリティの本質とは何かを理解する） ② 接遇の基本Ⅰ（マナー研修「身だしなみ」「表情」「お辞儀」）	第4週	① 学園祭におけるホスピタリティの実践について発表する（実践内容とお客さまの反応について確認する） ② 接遇の基本Ⅱ（マナー研修「基本動作」）	第5週	① お客さまの生涯価値はどのくらいか（お客さま離れの恐ろしさとクレーム処理について学ぶ） ② 接遇の基本Ⅲ（「言葉づかい」）	第6週	① お客さまは「顧客」ではなく「個客」である（お客さまの要望は一人ひとり違うことを理解する）	第7週	① 商品やサービスとは何か（それらはソリューションである） ② 接遇の基本Ⅳ（「敬語」）	第8週	① 学生から社会人への意識改革（自己の強みと弱みを確認する）	第9週	① お客さまの求める本当の価値とは何か（純顧客価値を高めるためにはどうすればよいかを学ぶ）	第10週	① 企業の「見えざる資産」とは何か（組織が重視する資産の比重が変わっていることを理解する） ② コミュニケーションの基本Ⅰ（「話す」と「聴く」）	第11週	① 従業員の市場価値とは（個人のやる気や能力を引き出すためには何が必要かを理解する） ② コミュニケーションの基本Ⅱ（コミュニケーションの目的）	第12週	① コミュニケーションの基本Ⅲ（報告・連絡・相談）と実践	第13週	学外活動による現場研修（さまざまな店舗を見学することによって、ホスピタリティがどのように実践されているかを体感する）	第14週	学外活動の感想発表（学外活動を通して体験したこと、気づいたことを発表しあう。そして、各人がホスピタリティあふれる言動が取れるように、今後の目標を設定する）	第15週	授業の総括とテスト
第1週	① オリエンテーション（授業の進め方・心構え・レジュメの発信・レポートの提出・採点方法などの説明） ② 企業の競争的優位性とは何か（格差はホスピタリティから生まれることを理解する）																																		
第2週	① 周囲の人間に「喜びと感動」を与えるためには、どうすべきか（「真実の瞬間」の重要性を学ぶ）																																		
第3週	① 「サービス」と「ホスピタリティ」の違いとは何か（ホスピタリティの本質とは何かを理解する） ② 接遇の基本Ⅰ（マナー研修「身だしなみ」「表情」「お辞儀」）																																		
第4週	① 学園祭におけるホスピタリティの実践について発表する（実践内容とお客さまの反応について確認する） ② 接遇の基本Ⅱ（マナー研修「基本動作」）																																		
第5週	① お客さまの生涯価値はどのくらいか（お客さま離れの恐ろしさとクレーム処理について学ぶ） ② 接遇の基本Ⅲ（「言葉づかい」）																																		
第6週	① お客さまは「顧客」ではなく「個客」である（お客さまの要望は一人ひとり違うことを理解する）																																		
第7週	① 商品やサービスとは何か（それらはソリューションである） ② 接遇の基本Ⅳ（「敬語」）																																		
第8週	① 学生から社会人への意識改革（自己の強みと弱みを確認する）																																		
第9週	① お客さまの求める本当の価値とは何か（純顧客価値を高めるためにはどうすればよいかを学ぶ）																																		
第10週	① 企業の「見えざる資産」とは何か（組織が重視する資産の比重が変わっていることを理解する） ② コミュニケーションの基本Ⅰ（「話す」と「聴く」）																																		
第11週	① 従業員の市場価値とは（個人のやる気や能力を引き出すためには何が必要かを理解する） ② コミュニケーションの基本Ⅱ（コミュニケーションの目的）																																		
第12週	① コミュニケーションの基本Ⅲ（報告・連絡・相談）と実践																																		
第13週	学外活動による現場研修（さまざまな店舗を見学することによって、ホスピタリティがどのように実践されているかを体感する）																																		
第14週	学外活動の感想発表（学外活動を通して体験したこと、気づいたことを発表しあう。そして、各人がホスピタリティあふれる言動が取れるように、今後の目標を設定する）																																		
第15週	授業の総括とテスト																																		
指導方法履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時間厳守（始業時間に遅れて教室に入らないでください）</li> <li>2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。</li> <li>3. 授業は楽しく活発になるように協力してくださいね</li> </ol>																																		
成績評価の方法	<p>筆記試験（30%）、レポート（40%）、授業態度（30%）</p> <p>*授業中は毎回、演習やグループワークを取り入れますので、積極的に参加する姿勢を評価します。</p>																																		
教科書	『おもてなしの原点 ―ホスピタリティ教科書―』（浦郷義郎、PHP 研究所） ※2014年3月発行予定																																		
参考文献	『ホスピタリティがあなたの意識を変える』（浦郷義郎、同友館）																																		

授業科目	プレゼンテーション	単位数	2	担当教員	松尾 信子																														
講義のねらいと概要および到達目標	<p>私たちは社会生活において良好な人間関係を築くために、コミュニケーションによる意思疎通は欠かせません。中でも、自分から情報やメッセージを伝える能力、つまりプレゼンテーション能力は重要な要素です。特に、ビジネスにおいては、プレゼンテーション能力の高さが仕事の成果に大きな影響を与えています。</p> <p>この講義では、①プレゼンテーションの心構え、能力や技術を身につける。②聞き手の視点に立ったプレゼンテーションを実践する。③就活の面接試験を含むさまざまなシーンにおいて、自分の思いを効果的に表現し、伝える能力を養う。この3点を到達目標にしています。みなさんの積極的な参加を期待いたします。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td>オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>① プレゼンテーション時代の到来を認識する（プレゼンテーションの目的を分類し、果たす役割を考える） ② 2020年東京オリンピック&amp;パラリンピック誘致の際のプレゼンを見る（動画）</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>① プレゼンテーションを決める「6W・2H」について学ぶ（まずやるべきことは何かを考える） ② 自己紹介（聞き手の立場から、自分を理解してもらうためのポイントを確認する）</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>① 話題の構成について理解する（内容と時間を構成するポイントは、重要度の配分であることを認識する） ② 他己紹介（隣人とのコミュニケーションの後、その人の魅力を紹介する）</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>① プレゼンターに求められる能力を知る（知識、印象、信ぴょう性を高める方法について学ぶ） ② 他己紹介（隣人とのコミュニケーションの後、その人を魅力的に紹介する）</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>① プレゼンターを補佐する資料や映像を活用する（ビジュアル・プレゼンテーションの有効性を知る） ② 自己紹介（聞き手の立場から、話し方や態度などの印象管理をする）</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>① プレゼンテーションへの挑戦ー1（各人がテーマを決め、その内容に沿ってプレゼンテーションを紙上で体験する）</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>① プレゼンテーションへの挑戦ー2（コンテンツとデリバリーを考える）</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>① プレゼンテーションのPDCAサイクルについて学ぶ（訓練と上達法について理解する） ② スティーブ・ジョブズの実演を見る（動画）（聞き手をひきつけるプレゼンについて学ぶ）</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>① AIDCAの法則について学ぶ（聞き手の気持ちや行動が変化するプロセスを知る）</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>① プレゼンテーションの実演に向けて準備する（目的、伝えたいポイント、話題の構成、資料の準備）</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>① 質問への対応について学ぶ（質問の受け応えの際の心構えを理解する） ② 第1回発表と質疑応答（プレゼンターの訓練と聞き手の双方のレベルアップを図る）</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>① プレゼンテーションの評価項目を知る（ステップアップするための評価項目について理解する） ② 第2回発表と質疑応答（1回目と比較して努力した点、評価できる項目について話し合う）</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>① クラス全員に向けてプレゼンテーションを行う（代表者数名）</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>② クラス全員に向けてプレゼンテーションを行う（代表者数名） ③ 授業の総括</td> </tr> </table>					第1週	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）	第2週	① プレゼンテーション時代の到来を認識する（プレゼンテーションの目的を分類し、果たす役割を考える） ② 2020年東京オリンピック&パラリンピック誘致の際のプレゼンを見る（動画）	第3週	① プレゼンテーションを決める「6W・2H」について学ぶ（まずやるべきことは何かを考える） ② 自己紹介（聞き手の立場から、自分を理解してもらうためのポイントを確認する）	第4週	① 話題の構成について理解する（内容と時間を構成するポイントは、重要度の配分であることを認識する） ② 他己紹介（隣人とのコミュニケーションの後、その人の魅力を紹介する）	第5週	① プレゼンターに求められる能力を知る（知識、印象、信ぴょう性を高める方法について学ぶ） ② 他己紹介（隣人とのコミュニケーションの後、その人を魅力的に紹介する）	第6週	① プレゼンターを補佐する資料や映像を活用する（ビジュアル・プレゼンテーションの有効性を知る） ② 自己紹介（聞き手の立場から、話し方や態度などの印象管理をする）	第7週	① プレゼンテーションへの挑戦ー1（各人がテーマを決め、その内容に沿ってプレゼンテーションを紙上で体験する）	第8週	① プレゼンテーションへの挑戦ー2（コンテンツとデリバリーを考える）	第9週	① プレゼンテーションのPDCAサイクルについて学ぶ（訓練と上達法について理解する） ② スティーブ・ジョブズの実演を見る（動画）（聞き手をひきつけるプレゼンについて学ぶ）	第10週	① AIDCAの法則について学ぶ（聞き手の気持ちや行動が変化するプロセスを知る）	第11週	① プレゼンテーションの実演に向けて準備する（目的、伝えたいポイント、話題の構成、資料の準備）	第12週	① 質問への対応について学ぶ（質問の受け応えの際の心構えを理解する） ② 第1回発表と質疑応答（プレゼンターの訓練と聞き手の双方のレベルアップを図る）	第13週	① プレゼンテーションの評価項目を知る（ステップアップするための評価項目について理解する） ② 第2回発表と質疑応答（1回目と比較して努力した点、評価できる項目について話し合う）	第14週	① クラス全員に向けてプレゼンテーションを行う（代表者数名）	第15週	② クラス全員に向けてプレゼンテーションを行う（代表者数名） ③ 授業の総括
第1週	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）																																		
第2週	① プレゼンテーション時代の到来を認識する（プレゼンテーションの目的を分類し、果たす役割を考える） ② 2020年東京オリンピック&パラリンピック誘致の際のプレゼンを見る（動画）																																		
第3週	① プレゼンテーションを決める「6W・2H」について学ぶ（まずやるべきことは何かを考える） ② 自己紹介（聞き手の立場から、自分を理解してもらうためのポイントを確認する）																																		
第4週	① 話題の構成について理解する（内容と時間を構成するポイントは、重要度の配分であることを認識する） ② 他己紹介（隣人とのコミュニケーションの後、その人の魅力を紹介する）																																		
第5週	① プレゼンターに求められる能力を知る（知識、印象、信ぴょう性を高める方法について学ぶ） ② 他己紹介（隣人とのコミュニケーションの後、その人を魅力的に紹介する）																																		
第6週	① プレゼンターを補佐する資料や映像を活用する（ビジュアル・プレゼンテーションの有効性を知る） ② 自己紹介（聞き手の立場から、話し方や態度などの印象管理をする）																																		
第7週	① プレゼンテーションへの挑戦ー1（各人がテーマを決め、その内容に沿ってプレゼンテーションを紙上で体験する）																																		
第8週	① プレゼンテーションへの挑戦ー2（コンテンツとデリバリーを考える）																																		
第9週	① プレゼンテーションのPDCAサイクルについて学ぶ（訓練と上達法について理解する） ② スティーブ・ジョブズの実演を見る（動画）（聞き手をひきつけるプレゼンについて学ぶ）																																		
第10週	① AIDCAの法則について学ぶ（聞き手の気持ちや行動が変化するプロセスを知る）																																		
第11週	① プレゼンテーションの実演に向けて準備する（目的、伝えたいポイント、話題の構成、資料の準備）																																		
第12週	① 質問への対応について学ぶ（質問の受け応えの際の心構えを理解する） ② 第1回発表と質疑応答（プレゼンターの訓練と聞き手の双方のレベルアップを図る）																																		
第13週	① プレゼンテーションの評価項目を知る（ステップアップするための評価項目について理解する） ② 第2回発表と質疑応答（1回目と比較して努力した点、評価できる項目について話し合う）																																		
第14週	① クラス全員に向けてプレゼンテーションを行う（代表者数名）																																		
第15週	② クラス全員に向けてプレゼンテーションを行う（代表者数名） ③ 授業の総括																																		
指導方法 履修上の 注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時間厳守（始業時間に遅れて教室に入らないでください）</li> <li>2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。</li> <li>3. 授業は全員参加型にしますので、楽しい授業になるように積極的に協力してくださいね。</li> </ol>																																		
成績評価の方法	<p>課題（30%）、発表（40%）、授業態度（30%）</p> <p>*授業中は発表の機会を多くとっていますので、積極的に参加する姿勢を評価します。</p>																																		
教科書	そのつど指示します																																		
参考文献	そのつど指示します																																		

授業科目	社 会 人 の 書 写	単位数	2	担当教員	土 屋 明 美
講義のねらいと概要および到達目標	<p>【ねらい】          &lt;ひらかな&gt;を中心に基本的なかな文字を習得し、日常生活の中に生かすことをねらいとします。</p> <p>【概要】          毎時間、教科書のお手本を課題にして、練習と清書を繰り返します。          鉛筆を使用した基本的なかな文字の書き方から、筆を使用したはがきの書き方まで行います。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス…授業の進め方			
	第2週	「いろは歌」	①練習		
	第3週	”	②清書		
	第4週	「履歴書を書く」	①練習		
	第5週	”	②清書		
	第6週	「封書の書式」	①練習		
	第7週	”	②清書		
	第8週	「手紙によく使われることば」	①練習		
	第9週	”	②清書		
	第10週	「便箋を書く」	①練習		
	第11週	”	②清書		
	第12週	「はがきの書式」	①練習		
	第13週	”	②清書		
	第14週	「はがきを書く」(自由制作)	①練習		
	第15週	”	②清書		
指導方法 履修上の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書写」(かな)に関心を持って授業に臨むことを希望します。</li> <li>・用具・用材について</li> <li><input type="checkbox"/>鉛筆、小筆(最低一本) <input type="checkbox"/>硯(一面) <input type="checkbox"/>墨(一丁/墨汁はできるだけ避けたほうがよい)</li> <li><input type="checkbox"/>下敷(書道用フェルト) <input type="checkbox"/>文鎮 <input type="checkbox"/>水滴(スポイドも可) <input type="checkbox"/>雑巾(一枚) <input type="checkbox"/>古新聞紙(数枚)</li> <li><input type="checkbox"/>半紙(毎回最低10枚・かな用は薄い半紙またはロールが望ましい)など</li> </ul>				
成績評価の 方 法	課題(50%)、作品(25%)、授業態度(25%)				
教 科 書	随時、プリントを配布いたします。				
参 考 文 献	特になし				

授業科目	インターンシップ	単位数	2	担当教員	吉井利真 他
講義のねらいと概要および到達目標	<p>インターンシップは社会人基礎講座の履修を前提としています。社会人としての基本的なマナーやコミュニケーション能力をしっかりと身につけた上で、実習を通して職業理解に努めます。インターンシップは、働くことの意味や責任を体感し、将来の職業選択に生かす絶好の機会です。また、実習生は外部の人から初めて本格的な評価を受ける機会に恵まれます。第三者の評価を通して、自分を改めて見つめなおし理解することになります。</p> <p>到達目標は、実習先での5段階評価で上位2段階にすべての項目が含まれることとします。</p>				
授業計画	第1回	事前指導① インターンシップとは			
	第2回	事前指導② 職場でのコミュニケーション			
	第3回	実習			
	第4回	実習			
	第5回	実習			
	第6回	実習			
	第7回	実習			
	第8回	実習			
	第9回	実習			
	第10回	実習			
	第11回	実習			
	第12回	実習			
	第13回	実習			
	第14回	実習			
	第15回	実習報告会			
指導方法履修上の注意	連絡に注意すること。				
成績評価の方法	実技（100%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	ボランティア活動	単位数	1	担当教員	吉井利真 他
講義のねらいと概要および到達目標	<p>地域社会とのつながりをボランティア活動を通して築きあげていくとともに、ボランティア活動の社会的な必要性を認識し、社会の構成員として状況に応じて果たすべき役割といったものについて実践を通して考えていきます。</p> <p>ボランティア活動では毎回、活動日誌を作成します。これによって、日々の活動をとらえなおすなおすことや活動に対する評価等を客観化することができます。</p> <p>到達目標はボランティア精神の理解と実践とします。これらは活動日誌の内容でチェックされます。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	計画作成			
	第3週	計画への評価			
	第4週	ボランティア活動			
	第5週	ボランティア活動			
	第6週	ボランティア活動			
	第7週	ボランティア活動			
	第8週	ボランティア活動			
	第9週	ボランティア活動			
	第10週	ボランティア活動			
	第11週	ボランティア活動			
	第12週	ボランティア活動			
	第13週	ボランティア活動			
	第14週	報告会			
	第15週	報告会の講評、活動日誌の提出			
指導方法履修上の注意	<p>活動の実施日等については、掲示等で連絡するので必ず確認すること。</p> <p>ボランティア依頼等は学生自身が行うことが原則である。</p> <p>活動計画表を授業時に作成し、提出すること。</p>				
成績評価の方法	レポート（60%）、発表（20%）、日誌内容（20%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	日 本 文 化 論	単位数	2	担当教員	及 川 道 之
講義のねらいと概要	<p>特定の人間の事績や、際立った歴史的事象について学ぶことが、通常行われる歴史の授業の内容と言えらるだろう。それに対して、この授業では取り立てて記録されることの少なかった一般の人々が、日常どのような思いを抱いて生涯を送っていたのか、その実際のあり様について考察する。</p> <p>明治43（1910）年に柳田國男によって出版された『遠野物語』には東北の山深い地で「目前の出来事」として語り継がれた多くの話が記載されており、これらを丹念に読み進めてゆくことで、近代以前の日本で暮らした人々の思いに寄り添いたい。</p> <p>到達目標～近代以前の人々の人生観や日常の心性のあり様を理解する。</p>				
授業計画	第1週	授業を始めるにあたって			
	第2週	明治43年～明治末期という「時代」			
	第3週	序文を読む～柳田國男の意図したこと			
	第4週	第1話から第119話まで順次読み進める			
	第5週	〃			
	第6週	〃			
	第7週	〃			
	第8週	〃			
	第9週	〃			
	第10週	〃			
	第11週	〃			
	第12週	〃			
	第13週	〃			
	第14週	〃			
	第15週	授業を終えるにあたって			
指導方法 履修上の 注 意	<p>山の神・河童・ザシキワラシといった多くの異類のモノたちや、熊・狼・猿などの動物たちが登場する話、あるいは家々の盛衰や死の予兆といった人の世のさまざまな出来事を伝える話など多様に広がる物語の世界を詳しく見てゆく。</p> <p>実際に人々の間で伝えられた話の味わいを理解するために声に出して読み進めることを原則とする。</p>				
成績評価の 方 法	レポート（70%）、授業態度（30%）				
教 科 書	『遠野物語』（柳田國男、角川ソフィア文庫）				
参 考 文 献					

授業科目	女性文化論	単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>学問において革新的な研究を切り開く女性たちに注目。彼女らの研究を学び、その革新性を理解する。</p>				
授業計画	第1週	天照大神について。			
	第2週	日本の古代研究について。			
	第3週	溝口睦子の「アマテラスの誕生」を読む（1）			
	第4週	「アマテラスの誕生」を読む（2）			
	第5週	「アマテラスの誕生」を読む（3）			
	第6週	ハンナ・アーレントの学問と人生（1）			
	第7週	ハンナ・アーレントの学問と人生（2）			
	第8週	アーレントの「暴力について」を読む（1）			
	第9週	アーレントの「暴力について」を読む（2）			
	第10週	アーレントの「暴力について」を読む（3）			
	第11週	アーレントの「暴力について」を読む（4）			
	第12週	アーレントのまとめ			
	第13週	アーレントについて各自の感想を書く			
	第14週	定期試験			
	第15週	アーレントの精神を継承するには・・・。			
指導方法 履修上の 注意	フェミニズムの歴史を理解しながら女性の研究者や哲学者の活躍を学ぶ。				
成績評価の 方法	筆記試験（60%）、レポート（20%）、授業態度（20%）				
教科書	『アマテラスの誕生——古代王権の源流を探る』（溝口睦子、岩波新書）、				
参考文献	『暴力について』（ハンナ・アーレント、みすず書房）				

授業科目	地域文化を学ぶ	単位数	2	担当教員	及川道之
講義のねらいと概要	<p>所沢市に隣接する三芳町の三富地域は江戸時代の新田開発で知られている。実際に現地を訪れてボランティア活動などを行いながら、この地域に伝えられてきた文化と人々の暮らしの在りようを学ぶ。</p> <p>到達目標～三富地域の歴史と文化を理解することで、地域に対して深い関心を持つ。</p>				
授業計画	第1週	授業の開始に当たって			
	第2週	三富地域の歴史と自然について調べる（1）			
	第3週	三富地域の歴史と自然について調べる（2）			
	第4週	現地での実習（1）			
	第5週	現地での実習（2）			
	第6週	現地での実習（3）			
	第7週	現地での実習（4）			
	第8週	現地での実習（5）			
	第9週	現地での実習（6）			
	第10週	現地での実習（7）			
	第11週	現地での実習（8）			
	第12週	現地での実習（9）			
	第13週	現地での実習（10）			
	第14週	活動の内容をまとめる（1）			
	第15週	活動の内容をまとめる（2）			
指導方法履修上の注意	<p>教室で行う通常の授業と違い、外部の方と接する機会が多くなるので、節度のある行動と協調性が要求される。現地への移動に伴う交通費は個人負担になります。</p>				
成績評価の方法	レポート（30%）、授業態度（70%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	伝統芸能を学ぶ	単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	能の謡を仕舞を学び、能の魅力に触れることで、日本文化の継承を自覚する。				
授業計画	第1週	能についての基礎知識。			
	第2週	「鶴亀」の謡の練習（1）			
	第3週	「鶴亀」謡の練習（2）			
	第4週	「鶴亀」の詩舞の練習（1）			
	第5週	「鶴亀」の詩舞の練習（2）			
	第6週	能の記録をDVDで見る。「鶴亀」の練習。			
	第7週	能の作品について。「鶴亀」の練習。			
	第8週	謡曲「弱法師」について（1）			
	第9週	謡曲「弱法師」について（2）			
	第10週	三島由紀夫の「近代能楽集」を読む（1）			
	第11週	三島由紀夫の「近代能楽集」を読む（2）			
	第12週	「鶴亀」の練習。			
	第13週	「鶴亀」の練習。。			
	第14週	「鶴亀」の謡の試験。			
	第15週	「鶴亀」の仕舞の試験。			
指導方法 履修上の 注意	能の謡と仕舞を和室にてけいこしながら学ぶ。 各自、教科書の「鶴亀」の謡本と白足袋を用意すること。用意のない者の受講は認めない。				
成績評価の 方法	レポート（20%）、実技（60%）、授業態度（20%）				
教科書	梅若流の『鶴亀』（能学楽書林）、『近代能楽集』（三島由紀夫、新潮文庫）				
参考文献					

	日 本 文 学 史	単位数	2	担当教員	宮 木 孝 子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>歴史的意味での日本近代の特殊性を踏まえながら、明治から昭和までの文学思潮を中心に日本文学の流れを辿ります。</p> <p>到達目標</p> <p>①文学と社会との関係を知る。  ②日本の近代小説の特性を知り、親しむ。  ③自分と同時代の小説だけでなく、幅広く文学に親しむ。</p>				
授業計画	第1週	日本の近代と「近代文学」			
	第2週	「小説」「近代詩歌」の誕生			
	第3週	写実小説1 坪内逍遙 二葉亭四迷			
	第4週	写実小説2 硯友社の文学と幸田露伴			
	第5週	浪漫主義の誕生と意味			
	第6週	写実小説から自然主義へ ゴラ・前期自然主義			
	第7週	日本自然主義1 田山花袋・島崎藤村			
	第8週	日本自然主義2 徳田秋声など			
	第9週	「私小説」と「心境小説」			
	第10週	①反自然主義 耽美派			
	第11週	②反自然主義 「白樺」派			
	第12週	③版自然主義 理知派			
	第13週	森鷗外の文学			
	第14週	夏目漱石の文学			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の注意	<p>興味のある作品は、読んでみることに。授業の理解が深まります。</p> <p>ノートを作って、板書や説明で大切だと思ったことをまとめましょう。試験でも、また、一般常識の覚え書きとしても役に立ちます。</p> <p>・私語厳禁・携帯 off、質問歓迎</p>				
成績評価の方法	筆記試験 (70 %)、課題( 20% )授業態度( 10 %)				
教科書	『原色シグマ新日本文学史』(秋山虔・三好行雄共著編 ・文英堂				
参考文献	『岩波文化総合年表』岩波書店*本学図書館にあります。				

授業科目	日 本 文 学 史	単位数	2	担当教員	相 沢 浩 通
講義のねらいと概要	<p>古代から近世へと至る永く豊かな日本文学の歴史を通観します。とはいうものの、半期という限られた期間に扱うのに対象はあまりに膨大です。よって、本講義では、物語史を中心に据え、神話、作り物語、歌物語、説話、軍記物語、御伽草子、仮名草子、浄瑠璃を取り上げます。</p> <p>古典文法や煩わしい古語から解放されて、各時代の空気を味わいましょう。人間というものへの理解を深めましょう。本講義が誇るべき日本の文学、芸術、思想、歴史に親しむきっかけとなり、みなさんの今後の読書・研究に役立てば幸いです。</p>				
授業計画	第1週	『古事記』			
	第2週	『古事記』			
	第3週	『日本書紀』			
	第4週	『竹取物語』			
	第5週	『伊勢物語』			
	第6週	『大和物語』『平中物語』			
	第7週	『日本霊異記』			
	第8週	『今昔物語集』			
	第9週	『将門記』『陸奥話記』			
	第10週	『保元物語』『平治物語』			
	第11週	『平家物語』『太平記』			
	第12週	『義経記』『曾我物語』			
	第13週	御伽草子			
	第14週	仮名草子、浄瑠璃			
	第15週	まとめ・試験（ノート持ち込み可）			
指導方法履修上の注意	<p>通史の把握のために、その時代の代表作品のハイライト・シーンを順次読解してゆきます。現代語訳の付いたテキスト（配布）を使用しますので、古典は初めて…でも全く大丈夫です。下読みして臨んでください。</p> <p>漫画化された古典作品や映像化された古典作品、参考になる歴史もの漫画等の紹介を随時してゆきます。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（60%）、授業態度：随時の教場ミニ・レポートを含む（40%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	古典文学を読む	単位数	2	担当教員	及川道之
講義のねらいと概要	<p>8世紀のはじめに成立したと考えられている『古事記』の上巻にはさまざまな神々のすがたが伝えられている。古代の人々に実感された神々の世界とはどのようなものだったのか、丹念に読み進めながらその実像に迫ってゆく。</p> <p>到達目標～日本の神話を味わい理解する。</p>				
授業計画	第1週	授業の始めにあたって			
	第2週	古事記が成立した時代と「序文」			
	第3週	古事記の文体に慣れる			
	第4週	古事記上巻を読む			
	第5週	〃			
	第6週	〃			
	第7週	〃			
	第8週	〃			
	第9週	〃			
	第10週	〃			
	第11週	〃			
	第12週	〃			
	第13週	〃			
	第14週	〃			
	第15週	授業の終わりにあたって			
指導方法履修上の注意	<p>『古事記』を実際に読むのはほとんどの人にとって初めての機会になると思うので、まず内容を正しく理解するとともに、神話の奥深い魅力が感じられるような講義を心掛けたい。日本の「神話通」になるくらいの意気込みで受講して欲しい。</p>				
成績評価の方法	レポート（70%）、授業態度（30%）				
教科書	『古代説話』（阿蘇瑞枝ほか、笠間書院）				
参考文献					

授業科目	古典文学を読む	単位数	2	担当教員	相沢浩通
講義のねらいと概要	<p>『平治物語』を講読します。平治元年（1159）12月9日、宮廷の権力争いを発端として勃発したクーデターは、源氏軍と平家軍の決戦となり、敗北した源氏方に数々の悲話を残しつつ、時代は驕る平家の世へと移行してゆきます。</p> <p>『平治物語』は、『平家物語』と同様に語り物として長く広く人々に愛好されて、日本人のこころの形成に影響を及ぼしてきました。まずは歴史的知識を得て、いにしへの京の都や登場人物の姿をありありと思い描けるようになり、更にものあはれ、慈悲の心、忠と孝、尚武の精神、潔さといったことどもを、深く味わうことができればと思います。</p>				
授業計画	第1週	授業計画の説明、軍記文学の概観			
	第2週	『平治物語』の文学史上の位置と梗概			
	第3週	院政期の社会と平治の乱			
	第4週	『平治物語』講読、クーデターの勃発まで			
	第5週	『平治物語』講読、三条殿夜討ち			
	第6週	『平治物語』講読、大内裏の攻防戦			
	第7週	『平治物語』講読、大内裏の攻防戦			
	第8週	『平治物語』講読、源氏の敗北			
	第9週	『平治物語』講読、義朝らの死			
	第10週	『平治物語』講読、常葉の逃避行			
	第11週	『平治物語』講読、常葉の逃避行			
	第12週	『平治物語』講読、常葉の出頭			
	第13週	『平治物語』講読、後日談 義平・頼朝ら			
	第14週	『平治物語』講読、後日談 常葉・義経ら			
	第15週	まとめ・試験（ノート持ち込み可）			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義形式をとりますが、指名して各自の読解・意見を問うことが度々あります。現代語訳の付いたテキスト（配布）を使用しますので、古典は初めて…でも全く大丈夫です。下読みして臨んでください。</p> <p>絵巻物などの絵画資料を活用して、平安時代の風俗（服装・武装・戦闘・信仰等）の解説に力を入れてゆきますのでお楽しみに。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（60%）、授業態度：随時の教場ミニ・レポートを含む（40%）				
教科書					
参考文献	『保元物語 平治物語 承久記』（栃木孝惟・日下力他校注、岩波書店）				

授業科目	古典文学を読む	単位数	2	担当教員	長戸 千恵子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>一千年以上にわたって読み継がれ、様々な形（美術・演劇・映画・マンガなど）で享受・愛好されてきた、『源氏物語』を読む。視聴覚資料も利用して平安時代の風俗などに関する知識を補い、理解と関心を深める。平安時代の文学や文化、ひいては日本の古典や文化に関する知見を広め、時代を超えた人の心を思いやり、豊かな感性を養う。前期の講座では、特に、発端の部分や、主人公光源氏の生い立ち、青春の物語に重点を置いて取り上げる予定。</p> <p>作品とその背景にある文化を理解し、その上で各自の見解を持ち、それを言葉で表すことを、到達目標とする。（前期開講）</p>				
授業計画	第1週	授業についての詳細、及び『源氏物語』の概要と現在に至るまでの享受			
	第2週	「桐壺」の概要と主要部分－『源氏物語』の発端			
	第3週	「桐壺」の主要部分－光源氏の誕生			
	第4週	「桐壺」の主要部分－光源氏の母の死			
	第5週	「桐壺」の主要部分－不思議な予言と光源氏の臣籍降下			
	第6週	「桐壺」の主要部分－藤壺の宮と光源氏			
	第7週	「桐壺」の主要部分－光源氏の元服と結婚			
	第8週	「帚木」「空蝉」の概要と主要部分			
	第9週	「夕顔」の概要と主要部分－前半			
	第10週	「夕顔」の概要と主要部分－後半			
	第11週	「若紫」の概要と主要部分－前半			
	第12週	「若紫」の概要と主要部分－後半			
	第13週	「末摘花」の概要と主要部分			
	第14週	光源氏の生い立ちと青春(これまでの要点と意義)、及び筆記試験			
	第15週	『源氏物語』のその後と、まとめ(筆記試験についての講評を含む)			
指導方法履修上の注意	<p>○上記の計画は、多少の変更もあり得る。○講義形式をとるが、音読は指名する。授業中に短い感想文を書いたりすることもある。○欠席すると基礎的なこともわからなくなるので、極力欠席しないようにすること。○プリント（現代語訳付き）を配布して、テキストとして使用する。○筆記試験は、ノート・プリント持ち込み可。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（40%）、課題（30%）、授業態度（30%）				
教科書					
参考文献	『新編日本古典文学全集 源氏物語』（阿部秋生他校注・訳、小学館）、『日本の古典をよむ 源氏物語』（阿部秋生他校訂・訳、小学館）など。詳しくは授業中に紹介する。				

授業科目	近代文学を読む	単位数	2	担当教員	宮木孝子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>川端康成「伊豆の踊子」を読み、小説の文学的表現に親しみ、また、文章の意味を捉えられるようにする。授業参加人数にもよるが、毎時間、感想や疑問点の質疑応答を行い、最後にまとめとして、各自資料をつくり、感想の発表を行う。</p> <p>到達目標①近代小説の文章に親しみ、自ら文学作品を読む力を付ける。  ②自分の考えをまとめ、他者に伝えられる話し方を身につける。  ③積極的に自分で調べ、疑問を解決する姿勢を身につける。</p>				
授業計画	第1週	文学を「読む」とは、どういうことか。作品を読むための準備について。			
	第2週	川端康成の人と作品の紹介			
	第3週	第一章を読む・・・どこに、なにが書かれているか。			
	第4週	登場人物と背景			
	第5週	登場人物の関係			
	第6週	人物同士の感情・真理			
	第7週	作品に描かれる現実			
	第8週	作品構成や人物構成を考える			
	第9週	感想の発表方法の説明 ・ 踊子と学生の立場と心理の変化			
	第10週	新感覚派について・最終章の意味			
	第11週	発表資料の作り方・感想文			
	第12週	感想の発表と質問			
	第13週	感想の発表と質問・前回の質問に対する回答			
	第14週	感想の発表と質問・前回の質問に対する回答			
	第15週	前科の質問に対する回答・まとめ・レポート提出			
指導方法 履修上の 注意	<p>小説は読むのが苦手という学生にも、ぜひ参加してほしい授業です。きっと、新しいおもしろさを発見できることでしょう。専門知識を学ぶだけでなく、皆さんの方からも作品の世界に入って下さい。音読をしましょう。</p> <p>次の時間にすすむ章を伝えるので、読んでくること。私語・携帯電話は禁止です。質問は大歓迎。 *前期・後期同じ授業内容です</p>				
成績評価の方法	レポート（40%）発表（30%）態度（30%）				
教科書	新潮文庫『伊豆の踊子』（川端康成・新潮社）				
参考文献	適宜紹介します。				

授業科目	女性文学を読む	単位数	2	担当教員	宮木孝子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>女性文学の誕生の意味を、樋口一葉の代表作を読みつつ、考える。また一葉の「たけくらべ」を賞賛した森鷗外と周辺の人々の一葉評価を読み、当時の女性の〈出世〉(社会進出)の一例として、その問題点を参加学生とともに、取り出し、考える。最後に、現在の自分、現在の女性の生き方や問題について、考える。</p> <p>到達目標</p> <p>①女性の社会的立場を考え、問題に関心をもつ社会人となる。  ②女性の歴史を知り、これからの女性として何が大切かを考える。  ③文学から何を学べるかを知る。</p>				
授業計画	第1週	女性文学とは	樋口一葉～女のご出世～	明治時代の女性作家と女性の立場	
	第2週	「にごりえ」を読む・パワーポイント使用 あらすじ			
	第3週	新開地・お力の願いと苦悩			
	第4週	源七と妻お初	「家族」のリアリティ		
	第5週	心中か、それとも・死後の世評の意味するもの			
	第6週	「十三夜」を読む・あらすじ 女のご出世			
	第7週	「家」と女性	教育と民法の矛盾		
	第8週	「たけくらべ」を読む・あらすじ 吉原・竜泉寺町・・・冒頭の意味 パワーポイント使用			
	第9週	子どもたちの世界 信如・長吉・正太			
	第10週	美登利の未来	人生をき決めるのは誰か		
	第11週	「わかれ道」を読む～「くされ羽二重」の人生～			
	第12週	森鷗外の賞賛・一葉周辺の変化・・・日記・書簡から			
	第13週	森鷗外の賞賛・一葉周辺の変化の意味を考える			
	第14週	樋口一葉の思いを考える(幼い頃の思い・作家志望と初恋・作家としての成功と苦悩)			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>毎回、次回までに読んでくるページを伝えるので読んでくること。辞典を活用しましょう。自分と照らし合わせて、読んでみると、いろいろ考えや疑問が出てきます。ノートをとっておくと、便利です。*前期後期とも同様の授業内容です。</p> <p>私語厳禁、携帯電話 off、質問歓迎</p>				
成績評価の 方法	<p>課題 (70 %)、授業態度 (30 %)</p> <p>毎回提出する、コメントも、授業態度に加算されます。</p>				
教科書	<p>新潮文庫『にごりえ・たけくらべ』(樋口一葉、新潮社)</p> <p>河出文庫『たけくらべ ・樋口一葉』(松原理恵子・他訳・河出書房新社)</p>				
参考文献	適宜紹介します。				

授業科目	風 土 と 文 化	単位数	2	担当教員	及 川 道 之
講義のねらいと概要	<p>現代においてもなお人々の心を惹きつけて止まない奈良や京都。この授業ではそうした「古都」の持つ魅力について、建都以前の歴史をたどりながら探ってゆく。さまざまな歴史的事象と和歌や物語などの文学作品に見られる多彩な表現を通して、都という空間が私たちの感性に及ぼした影響について考える。</p> <p>到達目標～奈良や京都などを、歴史・文学を通して幅広くかつ深く捉えられるようになる。</p> <p>なお、この授業で学んだことをいっそう深く理解するためにも、「文化を訪ねる」(2年後期)と合わせて受講することを勧める。</p>				
授業計画	第1週	授業の開始にあたって			
	第2週	「みやこ」と明日香			
	第3週	万葉集のうたを通して明日香を見る			
	第4週	遷都と近江京・藤原京			
	第5週	「みやこ」と風水			
	第6週	平城京の実像			
	第7週	春日大社と興福寺			
	第8週	東大寺と西大寺			
	第9週	正倉院宝物			
	第10週	怨霊と平安京			
	第11週	平安京の寺社			
	第12週	怪異現象と平安京			
	第13週	豊臣秀吉による平安京再建			
	第14週	平泉と鎌倉～東国の「みやこ」			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	『万葉集』や『今昔物語集』などの文学作品に加えて、『続日本紀』などの歴史書を取り上げるので地理をはじめ、文学や歴史に対して深い関心があることが望ましい。この授業が奈良や京都「通」になるきっかけになればと考えている。				
成績評価の 方 法	レポート(70%)、授業態度(30%)				
教 科 書					
参 考 文 献					

授業科目	図 書 館 概 論	単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要および到達目標	<p>図書館の機能や社会における役割について講じます。図書館の歴史と現状について概観し、図書館の種類とそれぞれの利用者ニーズ、図書館員の役割、類縁機関との関係、今後の課題と展望について解説します。これまで利用者として抱いていた図書館と図書館員に対するイメージを刷新し、職場としての図書館、社会の中の図書館という観点を獲得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館についてのイメージを改める</li> <li>・大学生以降の人生の中での図書館と自分のかかわりを考えられるようになる</li> <li>・他人に図書館のことを説明できるようになる</li> </ul>				
授業計画	第1週	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2週	図書館の現状			
	第3週	図書館の社会的意義			
	第4週	図書館と知的自由			
	第5週	図書館の歴史1：世界の図書館			
	第6週	図書館の歴史2：日本の図書館			
	第7週	図書館の種類1：公共図書館			
	第8週	図書館の種類2：学校図書館			
	第9週	図書館の種類3：大学図書館			
	第10週	図書館の種類4：専門図書館			
	第11週	図書館の種類5：国立図書館			
	第12週	図書館員の役割1：概要			
	第13週	図書館員の役割2：種類別			
	第14週	図書館の類縁機関と利害関係者			
	第15週	図書館の今後とまとめ、試験			
指導方法 履修上の 注 意	<p>国立国会図書館のウェブサイト『カレントアウェアネス・ポータル』を日常的に閲覧することが望ましい。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（100%）				
教 科 書	なし。適宜資料を配布する。				
参 考 文 献	<p>『図書館概論』（塩見昇編著、日本図書館協会、2012年） 『図書館情報学基礎（シリーズ図書館情報学）』（根本彰編、東京大学出版会、2013年）</p>				

授業科目	図書館サービス概論	単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要および到達目標	<p>図書館の提供するサービスは、時代・社会の変化に伴って変化を続けています。サービスの全体像とそれぞれのサービスの基礎を講じます。加えて、現在提供されているサービスがなぜ提供されるようになったのかという背景解説、提供されなくなったサービスについての経緯説明、今後提供が期待されるサービスについての検討を行います。変化していく図書館サービスについて、一時代・一地域の狭い視点に縛られず、幅広く捉えることを求めます。サービスの提案だけでなく、維持、改善という持続可能性を理解することを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用可能な図書館サービスを理解する</li> <li>・サービスの提供に必要な準備について理解する</li> <li>・将来に渡り、図書館サービスを活用できるようになる</li> </ul>				
授業計画	第1週	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2週	図書館サービスの外観			
	第3週	現代の図書館サービス			
	第4週	図書館サービスの変遷			
	第5週	図書館サービスの種類1：資料の提供			
	第6週	図書館サービスの種類2：情報の提供			
	第7週	図書館サービスの種類3：人材・場所の提供			
	第8週	図書館サービスの種類4：図書館ネットワーク			
	第9週	図書館サービスの種類5：特定利用者層向け1			
	第10週	図書館サービスの種類6：特定利用者層向け2			
	第11週	図書館サービスと法			
	第12週	図書館サービスと社会			
	第13週	図書館サービスと図書館員			
	第14週	図書館サービスでない情報サービス			
	第15週	図書館サービスの今後とまとめ、試験			
指導方法 履修上の 注意	図書館以外の公共施設が提供しているサービスを改めて意識することが望ましい。				
成績評価の 方法	筆記試験（100%）				
教科書	『図書館サービス概論（現代図書館情報学シリーズ4）』（宮部頼子編、樹村房、2012年）				
参考文献	『図書館サービス概論』（小田光宏編著、日本図書館協会、2013年刊行予定） 『ロジスティクス入門（第2版）』（中田信哉、日本経済新聞出版社、2012年）				

授業科目	コミュニケーション論	単位数	2	担当教員	山口博美	
講義のねらいと概要および到達目標	<p>家庭、学校、職場などあらゆる場に適応する能力を身につけ自分を表現してはじめて、自己を確立できます。そのため講義の目標は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者と対話し、自分の気持ちを正しく伝える伝達力や相手の話を聴く力、理解し共感する力を身につける。</li> <li>2. コミュニケーション、ディベート、ディスカッション、プレゼンテーション、自己開発という、5つのテーマの課題を参加実践型で身につける。</li> <li>3. スパイになるロールプレーや謎解き問題、チームワークを競うゲームなど楽しみながら、自己の能力を開発し自己変容を目指す。</li> </ol>					
授業計画	第1週	コミュニケーションとは…1)	空聴きと傾聴力ゲーム			
	第2週	コミュニケーション 2)	ゲーム 「リレーションシップ」			
	第3週	コミュニケーション 3)	「私はNHKのアナウンサー」インタビューゲーム			
	第4週	ディベート1)	その意義と進め方	役割と時間設定		
	第5週	ディベート2)	テーマ設定とブレインストーミング	チーム実践	「少子化対策」	
	第6週	ディベート3)	模擬ディベート試合	グループ対抗	「原子力発電の是非」等	
	第7週	ディスカッション1)	その意義と効果	スパイゲーム	「匠の里」	
	第8週	ディスカッション2)	あなたはどうか決断する？	「船長の決断」		
	第9週	ディスカッション3)	他者の話し方を学ぶ、アドバイスするゲーム	「PoPoPo」		
	第10週	プレゼンテーション 1)	自己分析 「私とは・・・」	カウンセリングゲーム		
	第11週	プレゼンテーション 2)	作文「自己PR」	エントリーシート対策		
	第12週	プレゼンテーション 3)	スピーチ練習とビジネスマナー	面接スピーチと、電話マナー		
	第13週	自己開発 1)	ライフプラン作成	「10年後の私」	発表と採点	
	第14週	自己開発 2)	心理テストと職業テスト	「私の栄光の日」改造計画書 作成		
	第15週	自己開発計画発表会	グループごとに発表と採点	まとめと最終講評		
指導方法 履修上の 注意	<p>筆記試験はありません。したがって毎回の授業での実践態度を評価いたします。</p> <p>ゲームをしながら表現力を身につける授業ですので、誠実さと積極的に自分を変えたいという態度を評価します。グループ対抗ゲームなどメンバーを支援する、連帯する雰囲気を作るため、なるべく欠席は避けてください。</p>					
成績評価の方法	実技試験（30%）、授業、実習、発表態度（70%）					
教科書	『コミュニケーション』（山口博美、全研出版）					
参考文献						

授業科目	編集と出版	単位数	2	担当教員	外山真也
講義のねらいと概要および到達目標	<p>出版メディアの基礎知識を歴史的背景を踏まえて学び、その上で、具体的な雑誌の特集記事作りを体験してもらう授業である。出版業界はいま、大きな転換期を迎えている。いずれは、電子書籍が紙の本にとって代わり、街から書店が消える日が来るかもしれない。だとしても、読書そのものの本質が変わるわけではない。そして、出版物の意図や仕組みを知ることは、広義では社会を動かすメディアの仕組みを理解することにつながり、狭義では企画力や文章力を身につける手助けとなる。願わくは、この授業を通じで、その両方を身につけてもらいたい。</p>				
授業計画	第1週	概要			
	第2週	出版メディアの歴史と概要			
	第3週	編集とは何か：出版編集の概要と仕事の流れ			
	第4週	雑誌の種類とその分析：各自が愛読誌を持ち寄って比較検証			
	第5週	企画書の作成：雑誌の特集記事（2ページ程度）の企画を考える			
	第6週	編集会議：班ごとに分かれて特集内容を検討し決定する			
	第7週	企画書の完成&レイアウトのラフ案作り			
	第8週	材料渡しの準備（1）：素材（写真、イラスト、グラフなど）集め			
	第9週	材料渡しの準備（2）：原稿執筆			
	第10週	入稿：デザイナーへの材料渡し			
	第11週	校正作業（1）：校正（赤字入れ）の練習			
	第12週	校正作業（2）：初校戻し			
	第13週	発表会			
	第14週	校正作業（3）：再校戻し			
	第15週	筆記試験&講評			
指導方法履修上の注意	<p>5～6名程度の班に分かれて雑誌の特集記事を作る。必ず授業に出席して、積極的なディスカッションをしてもらうことが不可欠で、課題も頻繁に出す予定。最終的には、実践的な編集技術が身につくような指導を心掛けたい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（40%）、発表（10%）、授業態度（50%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	校正・校閲演習Ⅰ	単位数	2	担当教員	宮坂尚利
講義のねらいと概要および到達目標	<p>校正・校閲とは文章の中の誤りを見つけ赤字でそれを訂正する作業で、出版社や新聞社などマスコミ関係の編集職場はもとより一般企業でも文書を扱う職場での重要な業務のひとつです。このため校正・校閲技能を身に付けていることは就職の際も有利になります。本講座ではテキストを使った赤字入れ作業を繰り返し演習することで基礎的な技能をマスターします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校正・校閲作業に必要な正しい日本語や漢字の知識を習得する</li> <li>・文章上の誤りを訂正する赤字入れの基本的な法則を理解する</li> <li>・縦組み日本語の基礎的な校正・校閲技能をマスターする</li> </ul>				
授業計画	第1週	校正・校閲とは			
	第2週	正しい日本語の知識			
	第3週	正しい漢字の知識			
	第4週	訂正法則の基礎知識・その1			
	第5週	訂正法則の基礎知識・その2			
	第6週	訂正法則の習得・その1			
	第7週	訂正法則の習得・その2			
	第8週	訂正法則の習得・その3			
	第9週	訂正法則の習得・その4			
	第10週	赤字入れ作業の基礎知識・その1			
	第11週	赤字入れ作業の基礎知識・その2			
	第12週	縦組み日本語の校正演習・その1			
	第13週	縦組み日本語の校正演習・その2			
	第14週	縦組み日本語の校正演習・その3			
	第15週	縦組み日本語の校正演習・その4			
指導方法履修上の注意	<p>実際に校正・校閲作業が正確にできるようになる実務技能の習得が目標ですから、関連する様々な基礎知識についての講義をしっかりと聞き取る姿勢と、授業の中で実践する演習課題に向上心を持って取り組むことが求められます。</p>				
成績評価の方法	課題（40%）、実技（40%）、授業態度（20%）				
教科書	『校正記号の使い方・第2版』（日本エディタースクール編集、日本エディタースクール出版部発行）				
参考文献					

授業科目	校正・校閲演習Ⅱ	単位数	2	担当教員	宮坂尚利
講義のねらいと概要および到達目標	<p>「校正・校閲演習Ⅰ」で習得した基礎技能をベースに、手書き原稿や筆記体を含む縦組み日本文のより高度な校正・校閲技能を身に付けるとともに、公文書や社内文書で多くなっている横組み日本文の校正・校閲作業の習得にも取り組みます。従って本講座を受講するためには前期で「校正・校閲演習Ⅰ」の履修を終わっていることが必要となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なスタイルの縦組み日本文の正確かつ高度な校正・校閲技能を身に付ける</li> <li>・横組み日本文の誤りを訂正するための赤字入れの法則を理解する</li> <li>・出版社などの校正・校閲担当者としての即戦力に成り得る技能をマスターする</li> </ul>				
授業計画	第1週	縦組み日本文の高度な校正演習・その1			
	第2週	縦組み日本文の高度な校正演習・その2			
	第3週	手書き文章の校正演習・その1			
	第4週	手書き文章の校正演習・その2			
	第5週	筆記体文章の校正演習・その1			
	第6週	筆記体文章の校正演習・その2			
	第7週	校閲演習・その1			
	第8週	校閲演習・その2			
	第9週	横組み日本文の訂正法則の習得・その1			
	第10週	横組み日本文の訂正法則の習得・その2			
	第11週	横組み日本文の校正演習・その1			
	第12週	横組み日本文の校正演習・その2			
	第13週	横組み日本文の校正演習・その3			
	第14週	横組み日本文の校正演習・その4			
	第15週	校正・校閲の総括演習			
指導方法履修上の注意	<p>校正・校閲作業に関する高度な知識や技能を習得し、出版社などの編集部門で即戦力として活躍できる力を得ることを最終的な目標に据えているため、テキストによる演習課題に集中力を持って根気よく取り組むことが必要です。</p>				
成績評価の方法	課題（40%）、実技（40%）、授業態度（20%）				
教科書	『校正記号の使い方・第2版』（日本エディタースクール編集、日本エディタースクール出版部発行）				
参考文献					

授業科目	DTPオペレーションⅠ	単位数	2	担当教員	森山隆次
講義のねらいと概要および到達目標	<p>今日様々な職場で必要とされるクリエイティブ能力を持った人材育成を、コンピュータによるコンテンツ制作を、一般企業からデザイン・出版印刷・文書作成・管理といった専門職に通じる、DTP（デスクトップパブリッシング）を理解企画力のある人材の育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフィックアプリケーションの操作習得</li> <li>・A課題の作成・提出</li> <li>・B課題の制作・提出</li> <li>・グラフィックデザイン知識の取得</li> </ul>				
授業計画	第1週	講習内容のオリエンテーション／講義（DTPの基礎知識）			
	第2週	コンピュータ実習1/A課題制作1			
	第3週	コンピュータ実習2/A課題制作2			
	第4週	コンピュータ実習3/A課題制作3			
	第5週	コンピュータ実習4/A課題制作4			
	第6週	コンピュータ実習5/A課題制作5			
	第7週	コンピュータ実習6/A課題制作6			
	第8週	コンピュータ実習7/A課題提出まとめ			
	第9週	コンピュータ実習8/B課題制作1			
	第10週	コンピュータ実習9/B課題制作2			
	第11週	コンピュータ実習10/B課題制作3			
	第12週	コンピュータ実習11/B課題制作4			
	第13週	コンピュータ実習12/B課題制作5			
	第14週	コンピュータ実習13/B課題制作6			
	第15週	コンピュータ実習14/B課題提出まとめ／総評			
指導方法履修上の注意	<p>単なるアプリケーションの講習ではなく、個人の能力を引き出すよう、社会の現場に則した課題作品の作成を求める。</p> <p>課題作品の提出が成績評価の主な目的となるので、提出期限を守ることは必須。</p>				
成績評価の方法	課題（60%）、作品（25%）、授業態度（15%）				
教科書	「はじめての5分でできるIllustrator CS6」購入指定教科				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				

授業科目	DTPオペレーションⅡ	単位数	2	担当教員	森山隆次
講義のねらいと概要および到達目標	<p>グラフィックデザインの職場で必要とされる、アプリケーションの操作技術の向上とデザイン・出版印刷業界企業の専門職に通じる、企画力のある人材の育成を目指す。</p> <p>「DTPオペレーションⅠ」で学んだ技能の応用力を伸ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフィックアプリケーションの操作習得</li> <li>・A課題の作成・提出</li> <li>・B課題の制作・提出</li> </ul>				
授業計画	第1週	講習内容のオリエンテーション／講義（DTPの最新技術と応用）			
	第2週	コンピュータ実習1/A課題制作1			
	第3週	コンピュータ実習2/A課題制作2			
	第4週	コンピュータ実習3/A課題制作3			
	第5週	コンピュータ実習4/A課題制作4			
	第6週	コンピュータ実習5/A課題制作5			
	第7週	コンピュータ実習6/A課題提出まとめ			
	第8週	コンピュータ実習7/B課題制作1			
	第9週	コンピュータ実習8/B課題制作2			
	第10週	コンピュータ実習9/B課題制作3			
	第11週	コンピュータ実習10/B課題制作4			
	第12週	コンピュータ実習11/B課題制作5			
	第13週	コンピュータ実習12/B課題提出まとめ			
	第14週	ポートフォリオ作成（課題の総まとめ）			
	第15週	講義（実社会におけるDTP技能の活用）・総評			
指導方法履修上の注意	<p>DTPオペレーションⅠで培った技術を活かし、より実践に近い課題を作成することを求める。</p> <p>課題制作に伴う、素材集めなど、インターネットを活用した、ネットワーク運用技術向上も必要。就職活動も視野にいれ課題作成・提出率を重視する。</p>				
成績評価の方法	課題（60%）、作品（25%）、授業態度（15%）				
教科書	「はじめての5分でできるIllustrator CS6」購入指定教科 ※前期「DTPオペレーション」と同じ				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				

授業科目	日本映画入門	単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	日本映画は世界でも高い評価を受けている。小津・溝口・成瀬・黒澤・大島は特に世界中から尊敬を集めている。彼ら巨匠たちの映画に影響を受けた現代の作品を鑑賞し、幅広い日本映画理解をねらいたい。				
授業計画	第1週	小津の映画について			
	第2週	小津の映画の父と娘			
	第3週	新しい日本映画と小津の影響			
	第4週	溝口の映画について			
	第5週	溝口の映画の女性たち			
	第6週	「雨月物語」を見る			
	第7週	新しい日本映画と溝口の影響			
	第8週	黒澤の映画・・・時代劇			
	第9週	黒澤の映画・・・現代劇			
	第10週	新しい日本映画の時代劇			
	第11週	大島渚の映画			
	第12週	大島渚の映画における日本と韓国			
	第13週	新しい日本映画と韓国映画について			
	第14週	世界の中の日本映画について			
	第15週	定期試験			
指導方法 履修上の 注意	新しい日本映画を映画館で見る。各自が見た新しい日本映画は定期試験の対象となる。テレビやDVDで鑑賞したものは省くこと。				
成績評価の 方法	筆記試験（70%）、レポート（10%）、課題（10%）、発表（10%）、授業態度（10%）				
教科書	使用せず。				
参考文献					

授業科目	外国映画入門	単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	ヨーロッパ、アメリカ、中国・韓国などの名作を学ぶ。				
授業計画	第1週	映画の誕生。ヨーロッパとアメリカ。			
	第2週	サイレント映画の傑作（1）			
	第3週	サイレント映画の傑作（2）			
	第4週	トーキー映画（1）			
	第5週	トーキー映画（2）			
	第6週	フランス映画とイタリア映画。			
	第7週	ドイツ映画と東欧の映画。			
	第8週	ロシアの映画。			
	第9週	アメリカ映画（1）			
	第10週	アメリカ映画（2）			
	第11週	中国映画			
	第12週	韓国映画			
	第13週	新しい外国映画を見て感想文を書く。			
	第14週	定期試験			
	第15週	世界の映画祭について。			
指導方法 履修上の 注意	<p>外国映画を鑑賞するために必要なそれぞれの国の文化・歴史に関心を持つこと。</p> <p>新作外国映画を見て感想文を書くので、5月～6月の時期に映画館で各自、新作の外国映画を見ておくこと。</p>				
成績評価の 方法	筆記試験（50%）、レポート（30%）、授業態度（10%）				
教科書	使用せず。				
参考文献					

授業科目	シナリオ入門	単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	映画はシナリオから作られる。そのことを理解しながら自分でシナリオを書く。				
授業計画	第1週	シナリオとは何か？			
	第2週	名作シナリオを読む。			
	第3週	場面のシナリオ化を練習する。			
	第4週	ストーリーとプロットについて。			
	第5週	セリフの重要性。			
	第6週	自分の書くてシナリオのテーマを決める。			
	第7週	各自のテーマの発表。			
	第8週	シナリオを書く（1）			
	第9週	シナリオを書く（2）			
	第10週	中間発表			
	第11週	シナリオを完成させる。			
	第12週	シナリオの発表（1）			
	第13週	シナリオの発表（2）			
	第14週	合評会。			
	第15週	シナリオの応募について。			
指導方法 履修上の 注意	シナリオは小説や戯曲と違うことを理解させる。ふだんからたくさん映画を見ることが大切である。				
成績評価の 方法	作品（60%）、授業態度（40%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	小説創作	単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	400字20枚以上の小説を書く。				
授業計画	第1週	小説とは何か？			
	第2週	小説の冒頭。			
	第3週	日本の小説とフランスの小説。			
	第4週	平野啓一郎の小説を読む（1）。			
	第5週	平野啓一郎の小説を読む（2）。			
	第6週	平野啓一郎について。			
	第7週	自分の小説を考える。			
	第8週	自分の小説の冒頭を書く。			
	第9週	冒頭部分の読み比べ。			
	第10週	自分の小説を書く（1）			
	第11週	自分の小説を書く（2）。			
	第12週	自分の小説を書く（3）。			
	第13週	小説の提出。			
	第14週	合評会（1）			
	第15週	合評会（2）			
指導方法 履修上の 注意	ライトノベルは授業では扱わない。				
成績評価の 方法	課題（20%）、作品（60%）、授業態度（20%）				
教科書	『高瀬川』（平野啓一郎、新潮文庫）				
参考文献					

授業科目	詩歌創作	単位数	2	担当教員	宮木孝子																														
講義のねらいと概要および到達目標	<p>日本の近代詩歌の歴史と作品を学び豊かな言葉を身につける。授業参加者は、前半俳句を作り、後半は短歌を作る。近代の名作を鑑賞しつつ、言葉のもつリズムや、意味の広がりを楽しむ。</p> <p>到達目標</p> <p>① 日本語の響きを味わい、語感を養う。</p> <p>② 詩人や歌人が言葉をどのように作品化したかを知って、表現力を習う。</p> <p>③ 名作を読むことによって、言葉の意味の深さを知る。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1週</td><td>日本における詩歌の歴史</td></tr> <tr><td>第2週</td><td>近代俳句の誕生とその意義・俳句を作る</td></tr> <tr><td>第3週</td><td>正岡子規の作品を読む</td></tr> <tr><td>第4週</td><td>夏目漱石の俳句を詠む</td></tr> <tr><td>第5週</td><td>高浜虚子の俳句を詠む</td></tr> <tr><td>第6週</td><td>河東碧梧桐の俳句を詠む</td></tr> <tr><td>第7週</td><td>水原秋桜子の俳句を詠む</td></tr> <tr><td>第8週</td><td>山口誓子の非悪を読む</td></tr> <tr><td>第9週</td><td>中村草田男の俳句を詠む</td></tr> <tr><td>第10週</td><td>近代短歌を読む こひ恋の歌</td></tr> <tr><td>第11週</td><td>近代短歌を詠む 愛の歌</td></tr> <tr><td>第12週</td><td>近代短歌を詠む 自然を読む</td></tr> <tr><td>第13週</td><td>近代短歌を読む 老いの歌を詠む</td></tr> <tr><td>第14週</td><td>近代短歌を詠む いくさ・戦争を読む</td></tr> <tr><td>第15週</td><td>まとめ</td></tr> </table>					第1週	日本における詩歌の歴史	第2週	近代俳句の誕生とその意義・俳句を作る	第3週	正岡子規の作品を読む	第4週	夏目漱石の俳句を詠む	第5週	高浜虚子の俳句を詠む	第6週	河東碧梧桐の俳句を詠む	第7週	水原秋桜子の俳句を詠む	第8週	山口誓子の非悪を読む	第9週	中村草田男の俳句を詠む	第10週	近代短歌を読む こひ恋の歌	第11週	近代短歌を詠む 愛の歌	第12週	近代短歌を詠む 自然を読む	第13週	近代短歌を読む 老いの歌を詠む	第14週	近代短歌を詠む いくさ・戦争を読む	第15週	まとめ
第1週	日本における詩歌の歴史																																		
第2週	近代俳句の誕生とその意義・俳句を作る																																		
第3週	正岡子規の作品を読む																																		
第4週	夏目漱石の俳句を詠む																																		
第5週	高浜虚子の俳句を詠む																																		
第6週	河東碧梧桐の俳句を詠む																																		
第7週	水原秋桜子の俳句を詠む																																		
第8週	山口誓子の非悪を読む																																		
第9週	中村草田男の俳句を詠む																																		
第10週	近代短歌を読む こひ恋の歌																																		
第11週	近代短歌を詠む 愛の歌																																		
第12週	近代短歌を詠む 自然を読む																																		
第13週	近代短歌を読む 老いの歌を詠む																																		
第14週	近代短歌を詠む いくさ・戦争を読む																																		
第15週	まとめ																																		
指導方法 履修上の 注意	<p>ノートを用意してください。これは最後に提出します。</p> <p>作品は毎時間 1句・1首 提出。最後は、レポート。*前期後期同じ内容の授業です。</p> <p>私語、携帯電話、飲食禁止、</p>																																		
成績評価の 方法	<p>作品（ 50 %）、課題(40%)授業態度（10%）</p> <p>毎回作る作品と課題が中心です。</p>																																		
教科書	<p>*注意 前期は、角川学芸出版編『俳句歳時記 夏』（角川書店）</p> <p>後期は、角川学芸出版編『俳句歳時記 秋』（角川書店）</p>																																		
参考文献	なし																																		

授業科目	ルポルターージュ入門	単位数	2	担当教員	外山真也
講義のねらいと概要および到達目標	<p>「ルポルターージュ」とは、調査・取材に基づくノンフィクション記事を指す。まずは、ルポルターージュとは何か？をしっかりと理解してもらい、その上で、課題として2000字以上の記事を提出してもらう。その作業を通じて、自分が普段何に関心があり、どんな問題意識を持って生活しているかを文章にする力やコミュニケーション能力を培ってほしい。報道記者やルポライターを目指す学生だけでなく、いかなる職業においても「調査・取材を基に文章を書いた経験」は役立つはず。取材を通して他人から言葉を引き出し、それをまとめて、大勢の人に分かりやすく伝える文章力が身につくように指導していきたい。</p>				
授業計画	第1週	概要			
	第2週	ルポルターージュとは何か？			
	第3週	すぐれたルポルターージュに触れる（1）：映像作品の鑑賞①			
	第4週	すぐれたルポルターージュに触れる（2）：映像作品の鑑賞②			
	第5週	すぐれたルポルターージュに触れる（3）：記事を読む①			
	第6週	すぐれたルポルターージュに触れる（4）：記事を読む②			
	第7週	企画の立て方			
	第8週	取材編（1）：インタビューの練習①			
	第9週	取材編（2）：インタビューの練習②（原稿おこし）			
	第10週	取材編（3）：アポイントメントのとり方			
	第11週	企画書の作成&個別指導①			
	第12週	企画書の作成&個別指導②			
	第13週	執筆編（1）：ルポルターージュ向きの文章とは？			
	第14週	執筆編（2）：文章が見違えるコツ&課題（ルポルターージュ記事）の提出			
	第15週	課題の返却&講評			
指導方法履修上の注意	<p>ルポルターージュには取材が不可欠。だが、取材にはさまざまな危険が伴う。徹底的な指導を行う予定ではあるが、受講する側にも自覚が必要だ。また、取材した素材を記事化する際も同様に多くの配慮が必要とされる。注意としては、「ルポルターージュ」というものをしっかりと認識した上で、課題に取り組んでもらいたい。</p>				
成績評価の方法	課題（95%）、授業態度（5%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	デジタルビデオ編集入門	単位数	2	担当教員	高橋一夫
講義のねらいと概要および到達目標	<p>文化アートの原点は、”遊び”である。映像と音を使って自由に遊ぶ事から始め、映像表現の基本（企画、撮影、編集）を学び、今後様々なステージで求められる『自分を表現するスキル』を身につける。</p> <p>到達目標＝以下の基本を習得する事。</p> <p>1) 企画書・脚本作り 2) 撮影／カメラ操作など 3) 編集／パソコン、アプリ操作</p>				
授業計画	第1週	ビデオ作品制作の全体（企画から M.A.、公開まで）／ビデオ編集の役割			
	第2週	ビデオ制作ツールにふれる（1）デジタルビデオカメラ・撮影の基本			
	第3週	ビデオ制作ツールにふれる（2）編集アプリケーション/Final Cut Pro X			
	第4週	企画を作る（1）どんなビデオ作品を作るか？完成形をイメージする			
	第5週	企画を作る（2）企画構成案～シナリオ/脚本の書き方 人に伝える技術			
	第6週	企画プレゼンテーション			
	第7週	撮影準備（撮影計画とテスト）			
	第8週	撮影→取り込み			
	第9週	編集の基本（1）操作 カット・ギャップを閉じる・エフェクトの基本			
	第10週	編集の基本（2）映像エフェクト ビデオトランジションとビデオフィルタ			
	第11週	編集の基本（3）文字と音のエフェクト ビデオジェネレータとオーディオエフェクト			
	第12週	編集作業（1）基本の復習			
	第13週	編集作業（2）テロップの長さを決める			
	第14週	編集作業（3）仕上げ・完成			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>デジタルビデオカメラやパソコンを使って映像制作を体験的に学ぶ。</p> <p>受け身でなく意欲的に授業にのぞみ、少しでも疑問があれば積極的に質問し、授業以外の時間も作品作りに取り組む姿勢が求められる。</p>				
成績評価の 方法	<p>筆記試験（10%）、レポート（15%）、課題（15%）、作品（20%）、発表（15%） 実技（10%）、授業態度（15%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>『CG&amp;映像しくみ事典』（永田豊志/CGWORLD、ワークスコーポレーション）、『映画の瞬きー映像編集という仕事』（ウォルター・マーチ/吉田 俊太郎、フィルムアート社）</p>				

授業科目	ビ デ オ 創 作	単位数	2	担当教員	高 橋 一 夫
講義のねらいと概要および到達目標	<p>※前期「デジタルビデオ編集入門」受講者を対象とする。</p> <p>前期で学んだ基本技術を発展させ、より高度な映像表現を習得する。</p> <p>ビデオカメラ映像、デジカメ写真、写メ、著作権フリー音源などの素材を組み合わせて作品を完成させる。</p> <p>到達目標 1) 多様な映像・音素材を使いこなす 2) 自己満足でなく人が見て「理解できる」作品を作る</p>				
授業計画	第1週	前期作品試写 ※鑑賞し、評価する			
	第2週	DVD 作成または YouTube にアップ			
	第3週	後期作品・企画書・シナリオ作成			
	第4週	プレゼンテーション			
	第5週	撮影準備（撮影計画とテスト）			
	第6週	撮影のスキルアップ			
	第7週	撮影実習			
	第8週	撮影と取り込み			
	第9週	編集のスキルアップ			
	第10週	編集作業（1）			
	第11週	編集作業（2）			
	第12週	編集作業（3）仕上げ・完成			
	第13週	後期作品試写 ※鑑賞し、評価する			
	第14週	YouTube にアップ			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>デジタルビデオカメラやパソコンを使って映像制作を実践的に学ぶ。</p> <p>受け身でなく意欲的に授業にのぞみ、少しでも疑問があれば積極的に質問し、授業以外の時間も作品作りに取り組む姿勢が求められる。</p>				
成績評価の 方 法	<p>筆記試験（10%）、レポート（15%）、課題（15%）、作品（20%）、発表（15%） 実技（10%）、授業態度（15%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>『CG&amp;映像しくみ事典』（永田豊志/CGWORLD、ワークスコーポレーション）、『映画の瞬きー映像編集という仕事』（ウォルター・マーチ/吉田 俊太郎、フィルムアート社）</p>				

授業科目	マンガ・イラスト表現 I	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義のねらいと概要および到達目標	<p>マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になると思います。絵を学ぶことで表現力が向上し、心が豊かになっていくことを考えています。</p> <p>*キャラクターの顔とその表情を描写できるようになること。全身が描けるようになること。背景を描くための基本的なパースの理解。</p>				
授業計画	第1週	【○と□を描こう】円と四角をちゃんと描けることが基本の基本。			
	第2週	【いろんな表情を描こう】表情が変化するパターンを学ぶ。			
	第3週	【喜怒哀楽の表情を描こう】感情表現を理解する。			
	第4週	【二頭身キャラを描こう】シンプルなマスコットキャラを描く。			
	第5週	【二頭身キャラのアクション】マスコットキャラにアクションを持たせる。			
	第6週	【三頭身キャラを描こう】ちびキャラを描く。			
	第7週	【三頭身キャラのアクション】ちびキャラにアクションを持たせる。			
	第8週	【一点透視図法を学ぼう】パースを理解する。			
	第9週	【二点透視図法と三点透視図法を学ぼう】パースを理解するの二回目。			
	第10週	【顔の角度を変えて描いてみよう】いろんな角度で顔を描けるようになる。			
	第11週	【全身で感情表現してみよう】感情とアクションを全身で描く。			
	第12週	【部屋を描いてみよう】背景と人物を学ぶ。			
	第13週	【部屋を描いてみよう】背景と人物を学ぶ。			
	第14週	【色を塗ってみよう】カラー表現を学ぶ。			
	第15週	【色を塗ってみよう】カラー表現を学ぶ。			
指導方法履修上の注意	<p>絵を描く能力は個人差が大きいものですが、それぞれの個性を重要視して一面的な評価で判断しないことを念頭においています。そういう面からも課題が偏らないように楽しく授業が出来るように配慮していくことが大切と考えております。</p> <p>*カラーは色鉛筆を使用します。コピックも可。</p>				
成績評価の方法	課題（30%）、作品（20%）、実技（20%）、授業態度（30%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				

授業科目	マンガ・イラスト表現Ⅱ	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義のねらいと概要および到達目標	<p>マンガ・イラスト表現Ⅰより更にデッサン的なキャラクターの描写、立体的な背景の描写、技術的な描画力を上げるための模写などを学びます。</p> <p>*二頭身キャラ、三頭身キャラからより一般的な六頭身、八頭身キャラクターが進み。作画のバリエーションを理解し表現力の幅を広げていきます。</p>				
授業計画	第1週	【人体の構造を学ぶ】 骨格の構造などの理解。			
	第2週	【六頭身キャラを描こう】 人物の動作を六頭身で描きます。			
	第3週	【動きをつけてみよう】 アクション動作を描いてみます。			
	第4週	【いろんなキャラを創ってみよう】 特徴を考えてキャラ創り。			
	第5週	【模写の仕方を学ぶ】 大きさを変えて物を模写する。			
	第6週	【線の強弱のつけ方を学ぶ】 線による表現力の違いを学びます。			
	第7週	【ショットサイズを学ぶ】 人物のサイズによる表現を学びます。			
	第8週	【シワの描き方】 皺の理解を学びましょう。			
	第9週	【服の描き方】 いろんなコスチュームを描いてみましょう。			
	第10週	【花びら&布の表現を学ぶ】 裏表の表現を理解しましょう。			
	第11週	【文字から立体を理解する】 文字も絵にしてみましょう。			
	第12週	【俯瞰とあおりと平行】 視点の理解を進めます。			
	第13週	【背景と人物を合わせる】 パース的に配置することを理解しましょう。			
	第14週	【子供から老人まで描きわける】 年齢的な個性表現できるようにしましょう。			
	第15週	【カメラワークを学ぶ】 映像的理解を進めます。			
指導方法 履修上の 注意	<p>絵を描く能力は個人差が大きいものですが、それぞれの個性を重要視して一面的な評価で判断しないことを念頭においています。そういう面からも課題が偏らないように楽しく授業が出来るように配慮していくことが大切と考えております。</p>				
成績評価の方法	課題（30%）、作品（20%）、実技（20%）、授業態度（30%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				

授業科目	マンガ創作	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義のねらいと概要および到達目標	<p>実際にコマを割ってマンガ作品を創作します。絵を学ぶと云うことが、その他の分野での能力向上、人間性の豊かさの手助けにもなるということを念頭に置いて指導していければと考えています。</p> <p>*マンガというコマを割って物語りを運んでいくということを理解し、オリジナルの作品を一作仕上げます。集まった作品をまとめて同人誌にする予定です。</p>				
授業計画	第1週	【マンガ制作の流れ】 制作プロセスを理解します。			
	第2週	【コマ割りの理解①】 コマを割って課題とともに学びます。			
	第3週	【コマ割りの理解②】 コマに分割していく流れを学びます。			
	第4週	【コマ割りの理解③】 コマを読む進める流れを学びます。			
	第5週	【プロット作り】 オリジナルのあらすじを考えましょう。			
	第6週	【ストーリー作り①】 それを物語りにしていきます。			
	第7週	【ストーリー作り②】 ネームという作業を学びます。			
	第8週	【課題を元にコマを割る】 コマを実際に割って見ます。			
	第9週	【課題を元にコマを割る】 アドバイスとともに完成させます。			
	第10週	【ペン入れ①】 ペンの基礎を学びます。			
	第11週	【ペン入れ②】 ペンのカケアミなどを学びます。			
	第12週	【ペン入れ③】 ペンの定規線を学びます。			
	第13週	【原稿用紙を使って描く】 実際に原稿用紙にマンガを下描きをしてみます。			
	第14週	【原稿用紙を使って描く】 実際に原稿用紙にペン入れをしてみます。			
	第15週	【作品講評】 アドバイス。			
指導方法履修上の注意	<p>イラストからコマを割ってマンガを描くということに重点的に指導をすすめます。短編を描きあげて一冊の同人誌を制作するところまで考えています。</p> <p>*マンガを描く道具は原稿用紙、ペン、インク、修正液等は準備しています。その他スクリーントーンなど使用する場合は各自で用意。</p>				
成績評価の方法	課題 (30%)、作品 (20%)、実技 (20%)、授業態度 (30%)				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				

授業科目	アニメーション概論	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義のねらいと概要および到達目標	<p>偉大なるウォルト・ディズニーによってアニメーションの素晴らしさは世界に影響を及ぼし、やがて日本において更なる表現の幅を広げることとなりました。例年、各映像の分野で日本のアニメーションは高く評価されています。そうしたアニメーションの歴史を授業で学んでみたいと思います。</p> <p>*様々なアニメーションの世界を知って、表現方法の理解が深まること。</p>				
授業計画	第1週	アニメーションはどのようにしてはじまったのか。			
	第2週	アニメーションの種類を知ろう。			
	第3週	アニメーションの発展の歴史を知ろう。			
	第4週	アニメーションはどのように創られているのか。			
	第5週	アニメーションの構成。			
	第6週	テレビアニメの現状。			
	第7週	マンガとアニメーション。			
	第8週	セルアニメの流れ。			
	第9週	クレイアニメの技術。			
	第10週	個人アニメの世界。			
	第11週	写実的なアニメの世界。			
	第12週	CGアニメの世界。			
	第13週	CGアニメの世界、その2。			
	第14週	アニメーションと映像表現。			
	第15週	アニメーションの未来。			
指導方法 履修上の 注意	映像鑑賞と講義とのバランスをとってアニメーションの歴史と多面性を知識として理解を深めたいと考えています。				
成績評価の方法	レポート（40%）、授業態度（60%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				

授業科目	アニメーション表現 I	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義のねらいと概要および到達目標	<p>アニメーションの基本的な理解。製作工程、決まりごとを学びます。動きの基本を単純で簡単などころから学んでいきます。</p> <p>*基本的な動きをアニメーションさせる知識と描写力をつけること、</p>				
授業計画	第1週	アニメーションの基本を知ろう。			
	第2週	アニメーションはこうして創られる。			
	第3週	絵コンテって何？			
	第4週	動かしてみよう「ボール」編。			
	第5週	動かしてみよう「いろんな動き」			
	第6週	動かしてみよう「重力と慣性」			
	第7週	立ち上がって、座ってを描こう。			
	第8週	歩かせてみよう。			
	第9週	走らせてみよう。			
	第10週	ジャンプして着地する。			
	第11週	ひとつのシーンにまとめてみよう。			
	第12週	デフォルメを理解する。			
	第13週	デフォルメによる動きの演出を理解しよう。			
	第14週	動きを楽しくさせるデフォルメの効果。			
	第15週	まとめ。			
指導方法履修上の注意	それぞれの興味のある手法を選択してアニメーションを創作するということになりますが、絵コンテ、キャラクター、背景など分担協力を重視して学ぶことを考えています。				
成績評価の方法	課題（30%）、作品（20%）、実技（20%）、授業態度（30%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				

授業科目	アニメーション表現Ⅱ	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義のねらいと概要および到達目標	<p>単純な動きの理解から更に進んで動物などの具体的な例でアニメーションさせていくことを学びます。動きの基本には慣性や重力というものが大きく関わっていることを理解して欲しいです。</p> <p>*単純な動きから多関節の動きを理解すること。</p>				
授業計画	第1週	アニメーションの基本構成を知ろう。			
	第2週	動物の構造を理解する。			
	第3週	動物の動き「鳥」編。横。			
	第4週	動物の動き「鳥」編。前。			
	第5週	動物の動き「鳥」編。斜め。			
	第6週	動物の動き「哺乳類」編。横。			
	第7週	3次元という奥行きを構造を理解する。			
	第8週	立体的な背景の理解。			
	第9週	人物の動き。簡単なアクションをさせてみよう。その1			
	第10週	人物の動き。簡単なアクションをさせてみよう。その2			
	第11週	人物の動き。簡単なアクションをさせてみよう。その3			
	第12週	動物の動き「哺乳類」編。走る。			
	第13週	動物の動き「哺乳類」編。走る。			
	第14週	動物の動き「哺乳類」編。方向転換。			
	第15週	まとめ。			
指導方法履修上の注意	トレス台を使った実作業になり、講義と実作業のバランスを考えて指導にあたりたいと思います。				
成績評価の方法	課題（30%）、作品（20%）、実技（20%）、授業態度（30%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				

授業科目	アニメーション創作	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義のねらいと概要および到達目標	<p>実際にキャラクターや背景を描いてアニメーションを創作することになりますが、その手法に関していろんな形があることを楽しく学んで進められればと考えています。</p> <p>*みんなで協力して短編アニメーションをつくりあげる。</p>				
授業計画	第1週	アニメーション創作の流れ。			
	第2週	テーマを決めよう。			
	第3週	内容を決めよう。			
	第4週	キャラを設定しよう。			
	第5週	絵コンテを切ろう。			
	第6週	絵コンテを切ろう。			
	第7週	原画を描こう。			
	第8週	原画を描こう。			
	第9週	背景を作画しよう。			
	第10週	背景を作画しよう。			
	第11週	人物を描こう。			
	第12週	人物を描こう。			
	第13週	人物を描こう。			
	第14週	仕上げてみよう。			
	第15週	まとめ。			
指導方法履修上の注意	アニメーションにする対象は幅が広いので、各興味、手法に幅を持たせて指導にあたりたいと考えています。実作業では紙に統一してアニメーションをつくります。				
成績評価の方法	課題 (30%)、作品 (20%)、実技 (20%)、授業態度 (30%)				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				

授業科目	写真撮影技術演習	単位数	2	担当教員	工藤研一
講義のねらいと概要および到達目標	<p>様々分野において、写真(画像)は欠かせない表現方法としていたる所で使用されています。ここでは短期間で写真撮影に関する基礎的な知識を身に付け、初歩的な撮影方法をしっかり学び、写真で自己表現ができるように身に付けることを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 写真撮影に関する基礎知識とマナーの習得。</li> <li>2. 写真表現の習得。</li> <li>3. アルバム制作による自己表現の習得。</li> </ol>				
授業計画	第1週	オリエンテーション（履修者の所有しているカメラの把握および授業内容とスケジュールの説明）			
	第2週	講習1（写真の概要と撮影マナー、カメラとレンズの基礎知識）			
	第3週	実習1（カメラの使い方と身近な被写体の撮影実習）			
	第4週	実習2（課題：学外の屋外撮影実習）			
	第5週	講習2（撮影実習結果と添削）			
	第6週	講習3（構図とフレーミング、感度と露出）			
	第7週	実習3（課題：学外の屋外撮影実習）			
	第8週	講習4（撮影実習結果と添削）			
	第9週	実習4（課題：小物撮影実習）			
	第10週	実習5（課題：写真展の鑑賞、博物館の鑑賞）			
	第11週	実習6（課題：学外の屋外撮影実習）			
	第12週	講習5（撮影実習結果と添削）			
	第13週	実習7（課題：フォトアルバム制作）			
	第14週	実習8（課題：フォトアルバム制作）			
	第15週	講習6（実習のまとめ、総評）			
指導方法 履修上の 注意	<p>撮影機材に慣れ多く撮影する事が大事なので、履修期間中は最後の課題のフォトアルバムの写真が足らなくなる様に普段でも撮影する習慣をつけること。また履修者の知識レベルや撮影したい被写体、季節など考慮し、授業計画内容が一部変更になることもある。学外実習は主に時間の取れる土曜日に行う。実習が多いので出席率を重視する。</p>				
成績評価の 方法	課題・レポート（35%）、作品（35%）、授業態度（30%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	情報処理概論	単位数	2	担当教員	吉井利真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>この授業では、実社会で必要とされる様々な情報活用（能）力の具体的な内容を概説しながら、情報処理の基本的な意義と役割、そしてその手法について学びます。パソコンが単に操作できるというだけでは、本当の意味での IT スキルあるいは情報活用（能）力を身につけたとはいえません。情報の的確な収集と分析、そして伝達ということの中には、留意しなければならない種々のポイントがあります。その中には、セキュリティの問題や各種の権利にかかわる問題なども含まれます。</p> <p>授業の到達目標は基礎的な情報活用能力を知識、技能、分析、解決の 4 面から習得することとします。これらは各授業時ごとの確認テストでチェックされます。</p>				
授業計画	第1週	情報処理のツールとしてのコンピュータ（1）（ハードウェアとしての仕組）			
	第2週	情報処理のツールとしてのコンピュータ（2）（基本ソフト OS の役割と操作環境）			
	第3週	情報検索			
	第4週	情報運用			
	第5週	数値分析 1			
	第6週	数値分析 2			
	第7週	データベース			
	第8週	ファイル・データ管理			
	第9週	インターネットコミュニケーション 1			
	第10週	インターネットコミュニケーション 2			
	第11週	文章表現			
	第12週	ビジュアル表現			
	第13週	プレゼンテーション 1			
	第14週	プレゼンテーション 2			
	第15週	双方向の情報コミュニケーション			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義と演習を組み合わせた授業となる。</p> <p>予習、復習を十分に行うこと。</p>				
成績評価の 方法	チェックテスト（60%）、レポート（20%）、課題（20%）				
教科書	『情報活用力』（本田直也監修、noa 出版）				
参考文献					

授業科目	情 報 と 社 会		単位数	2	担当教員	松 尾 信 子
講義のねらいと概要および到達目標	<p>私たちの周りにはたくさんの情報があふれています。その中から、自分が社会生活を営む上で必要な情報、就職活動に向けて有効な情報、そして仕事において有益な情報などを常に収集する必要があります。</p> <p>この講義では、①情報の収集・分析・整理・加工ができる。②情報を効果的に活用できる。③収集した情報から最善の判断をして、適切な行動がとれるようになる。この3点を到達目標にしています。みなさんの積極的な参加を期待いたします。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）				
	第2週	現代社会における情報の意義を考える（さまざまなエピソードを参考に、情報の重要性を認識する）				
	第3週	情報の定義を学ぶ（日常の事例を通して、情報とはどういうものかについて理解する）				
	第4週	情報が伝わる仕組みを認識する（合理的な情報の伝え方を学ぶ）				
	第5週	情報を発信するメディアの性質を学ぶ（メディアごとの性質の違いを知り、効率的な情報の取得を図る）				
	第6週	① 人間同士のコミュニケーションから情報を得るための基本を学ぶ				
	第7週	① ネットメディアの活用法を学ぶ（カテゴリ検索・キーワード検索のスキルを身に付ける） ② 新聞の情報を理解し、有効活用する（1）情報収集				
	第8週	① 生活を支える情報システムと情報セキュリティーについて学ぶ（個人情報について考える） ② 新聞の情報を理解し、有効活用する（2）発表				
	第9週	① 情報整理の必要性を学ぶ（ファイルとフォルダを活用する） ② 新聞の情報を理解し、有効活用する（3）発表				
	第10週	情報の質を高める「ノイズやバイアスの判別」と「メタ情報」について理解する（本来の目的と違った情報や誤った情報を判別する）				
	第11週	企業活動と情報システムについて学ぶ（企業における情報の活用について理解する） ② インターネットから情報を集める（就職を前提に、さまざまな企業を検索する）				
	第12週	① 情報を効果的に伝える方法を考える（メッセージの内容・量・性質に応じたメディアを知る） ② 新聞の情報を理解し、有効活用する__その2（1）				
	第13週	① 有益な情報を伝達するために適切な加工について学ぶ（伝達効率を高める方法について理解する） ② 新聞の情報を理解し、有効活用する__その2（2）報告書作成				
	第14週	① 新聞の情報を理解し、有効活用する__その2（3）発表				
	第15週	授業の総括と演習（発表と意見交換）				
指導方法 履修上の 注 意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時間厳守（始業時間に遅れて教室に入らないでください）</li> <li>2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。</li> <li>3. 授業は全員参加型にしますので、楽しい授業になるように積極的に協力してくださいね。</li> </ol>					
成績評価の 方 法	<p>課題（30%）、発表（40%）、授業態度（30%）</p> <p>*授業中は発表の機会を多くとっていますので、積極的に参加する姿勢を評価します。</p>					
教 科 書	そのつど指示します					
参 考 文 献	そのつど指示します					

授業科目	文書処理演習	単位数	2	担当教員	金 宰 郁																														
講義のねらいと概要および到達目標	<p>この文書処理演習は、文化表現学を学んで行くために必要となる情報機器（コンピュータ）の基本操作と利用技術を習得する。</p> <p>Windows の基本操作、インターネット、各種アプリケーション（日本語ワープロ、研究発表会などでよく使われているプレゼンテーションソフト等）とその操作を通して、OS の機能や文字、数式、画像の操作方法、及びデータ形式について学ぶ。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td>この授業科目に関するガイダンス Windows の基本操作(1)：OS, GUI, 自己紹介文作成および提出</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>Windows の基本操作(2)：ファイル管理、種類、文書の保存・読み込み、その他 絵の作成の基礎(1)：絵描きソフト（ペイント）による文化表現関連課題の作成および提出</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>日本語ワープロソフト「Word」の基礎(1)：文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成および提出</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>日本語ワープロソフト「Word」の基礎(2)：文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成および提出</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>日本語ワープロソフト「Word」の基礎(3)：均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成および提出</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>日本語ワープロソフト「Word」の基礎(4)：表作成と編集の関連課題の作成および提出</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>日本語ワープロソフト「Word」の応用(1)：クリップアート、ワードアートの関連課題作成、及び提出</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>日本語ワープロソフト「Word」の応用(2)：図形描画の関連課題作成、及び提出</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>日本語ワープロソフト「Word」の応用(3)：段組み、ドロップキャップ、ページ罫線の関連課題作成、及び提出</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>日本語ワープロソフト「Word」の応用(4)：はがきなどの関連課題作成および提出</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>表計算ソフト「Excel」の基礎</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>表計算ソフト「Excel」の応用</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の構成とスライド、オブジェクトの編集、その他</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の準備、その他</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>プレゼンテーション発表：グループごとに PowerPoint で1つの作品を作り、発表</td> </tr> </table>					第1週	この授業科目に関するガイダンス Windows の基本操作(1)：OS, GUI, 自己紹介文作成および提出	第2週	Windows の基本操作(2)：ファイル管理、種類、文書の保存・読み込み、その他 絵の作成の基礎(1)：絵描きソフト（ペイント）による文化表現関連課題の作成および提出	第3週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(1)：文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成および提出	第4週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(2)：文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成および提出	第5週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(3)：均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成および提出	第6週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(4)：表作成と編集の関連課題の作成および提出	第7週	日本語ワープロソフト「Word」の応用(1)：クリップアート、ワードアートの関連課題作成、及び提出	第8週	日本語ワープロソフト「Word」の応用(2)：図形描画の関連課題作成、及び提出	第9週	日本語ワープロソフト「Word」の応用(3)：段組み、ドロップキャップ、ページ罫線の関連課題作成、及び提出	第10週	日本語ワープロソフト「Word」の応用(4)：はがきなどの関連課題作成および提出	第11週	表計算ソフト「Excel」の基礎	第12週	表計算ソフト「Excel」の応用	第13週	プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の構成とスライド、オブジェクトの編集、その他	第14週	プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の準備、その他	第15週	プレゼンテーション発表：グループごとに PowerPoint で1つの作品を作り、発表
第1週	この授業科目に関するガイダンス Windows の基本操作(1)：OS, GUI, 自己紹介文作成および提出																																		
第2週	Windows の基本操作(2)：ファイル管理、種類、文書の保存・読み込み、その他 絵の作成の基礎(1)：絵描きソフト（ペイント）による文化表現関連課題の作成および提出																																		
第3週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(1)：文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成および提出																																		
第4週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(2)：文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成および提出																																		
第5週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(3)：均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成および提出																																		
第6週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(4)：表作成と編集の関連課題の作成および提出																																		
第7週	日本語ワープロソフト「Word」の応用(1)：クリップアート、ワードアートの関連課題作成、及び提出																																		
第8週	日本語ワープロソフト「Word」の応用(2)：図形描画の関連課題作成、及び提出																																		
第9週	日本語ワープロソフト「Word」の応用(3)：段組み、ドロップキャップ、ページ罫線の関連課題作成、及び提出																																		
第10週	日本語ワープロソフト「Word」の応用(4)：はがきなどの関連課題作成および提出																																		
第11週	表計算ソフト「Excel」の基礎																																		
第12週	表計算ソフト「Excel」の応用																																		
第13週	プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の構成とスライド、オブジェクトの編集、その他																																		
第14週	プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の準備、その他																																		
第15週	プレゼンテーション発表：グループごとに PowerPoint で1つの作品を作り、発表																																		
指導方法履修上の注意	<p>本授業では、コンピュータ機器をよく利用・操作するための基本を講義するとともに、その具体的な例を示し指導します。したがって、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 積極的に授業に参加すること。やむを得ない理由により授業を欠席する（欠席した）場合、すみやかに担当教員に連絡して必要な指示を受けてください。</li> <li>2) 文書処理ソフトの技術の基礎理論を身に付けるには、かなりの努力を必要とします。予習・復習を怠らず頑張ってください。</li> <li>3) 課題が出題された場合、担当教員の指示する提出方法および提出期限を厳守すること。</li> </ol>																																		
成績評価の方法	課題（40%）、発表（20%）、授業態度（40%）																																		
教科書	『文系学生のための情報活用』（共立出版）																																		
参考文献	『Windows Vista 対応 30 時間でマスター：Word 2007』（実教出版）																																		

授業科目	表 計 算 演 習	単位数	2	担当教員	吉 井 利 真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>表計算ソフトを活用できることは、ビジネスの世界では不可欠である。毎週演習問題に取り組むことで、各自が表計算ソフトの機能を知り、操作法をマスターし、将来業務の中で利活用できるようになることを目的とする。この授業では、各種検定試験にチャレンジしていただけるよう、情報処理とビジネスの知識に関することも併せて学習する。積極的に取り組み、検定に合格できるよう頑張りましょう。</p> <p>到達目標は基礎クラスは操作とデータ分析の基礎部分の習得、応用クラスは検定試験合格とします。</p>				
授業計画	第1週	セルやシートの基本操作			
	第2週	データの追加・計算			
	第3週	基本の関数・データ抽出			
	第4週	端数処理・論理関数など			
	第5週	関数利用のデータ集計			
	第6週	データの集計（グループ別集計、ピボットテーブル）			
	第7週	グラフの作成1・課題演習1			
	第8週	グラフの作成2・課題演習2			
	第9週	課題演習3			
	第10週	課題演習4			
	第11週	課題演習5			
	第12週	模擬試験1&解説			
	第13週	模擬試験2&解説			
	第14週	表計算総合練習①			
	第15週	表計算総合練習②			
指導方法 履修上の 注 意	<p>応用クラス履修者は、検定試験を受験することを原則としたい。</p> <p>実用的な力を身につけるために、授業以外での反復練習を必ずしてほしい。</p>				
成績評価の 方 法	課題（50%）、試験（50%）				
教 科 書	『日本商工会議所日商PC検定試験データ活用3級完全マスター合格のコツがわかる問題集』（FOM出版）購入については別途指示します。				
参 考 文 献					

授業科目	画像処理演習 I	単位数	2	担当教員	吉井利真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>デジタル画像処理に関する基礎概念とペイント系ソフトの活用力の習得をめざす。</p> <p>デジタル画像の基本的特性を理解し、ソフトによる画像処理の目的・対応・処理結果の評価を重ねるとともに、作品の制作を通し、各自の表現力の向上も図ります。</p> <p>到達目標、基本ツールの習得とデジタル画像に関する基礎知識の習得とします。これらは課題の完成度や小テストで評価されます。</p>				
授業計画	第1週	デジタル画像の特徴 画像フォーマット			
	第2週	画像モードの特性			
	第3週	アプリケーション操作① 色調とその補正			
	第4週	アプリケーション操作② 画像の修正			
	第5週	アプリケーション操作③ レイヤー構造の理解			
	第6週	アプリケーション操作④ チャンネルとマスク			
	第7週	アプリケーション操作⑤ 描画モード			
	第8週	アプリケーション操作⑥ 各種ツールの利用			
	第9週	アプリケーション操作⑦ フィルタ処理 a			
	第10週	アプリケーション操作⑧ フィルタ処理 b			
	第11週	小作品の制作指導 a			
	第12週	小作品の制作指導 b			
	第13週	小作品の制作指導 c			
	第14週	小作品の制作指導 d			
	第15週	プレゼン			
指導方法 履修上の 注意	<p>各授業の前半で必要な操作やツールの使い方について説明します。遅刻をするとこれらのことを聴き逃すことになり、授業進度に追いつくことが難しくなりますので、遅刻をしないように。また、空き時間を利用して復習をしっかりとっておきましょう。</p>				
成績評価の方法	作品（50%）、発表（10%）、小テスト（40%）				
教科書					
参考文献	授業時に指示します。				

授業科目	画像処理演習Ⅱ	単位数	2	担当教員	吉井利真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>ドロー系ソフトによって描かれるベクター画像の特徴を学びながら、実際にベジェ曲線进行操作しいろいろな文字や図形の作成、下絵のトレースなどの作業を行っていきます。ドロー系のソフトの利用範囲は非常に広く、授業の中でもこのソフトの特徴を生かした作品作りに挑戦していきます。</p> <p>到達目標はベジェ曲線描画の正確さやデジタル表現の多様性の理解とその実践力の習得とします。これは課題によって達成度が確認されます。</p>				
授業計画	第1週	ラスター画像とベクター画像			
	第2週	ベジェ曲線の操作①			
	第3週	ベジェ曲線の操作②			
	第4週	アプリケーション操作① パスの操作			
	第5週	アプリケーション操作② オブジェクトの扱い			
	第6週	アプリケーション操作③ 描画			
	第7週	アプリケーション操作④ 塗りと効果			
	第8週	アプリケーション操作⑤ 各種ツールの利用			
	第9週	アプリケーション操作⑥ 文字			
	第10週	アプリケーション操作⑦ グラフ			
	第11週	小作品の制作指導 a			
	第12週	小作品の制作指導 b			
	第13週	小作品の制作指導 c			
	第14週	小作品の制作指導 d			
	第15週	プレゼン			
指導方法履修上の注意	<p>各授業の前半で必要な操作やツールの使い方について説明します。遅刻をするとこれらのことを聴き逃すことになり、授業進度に追いつくことが難しくなりますので、遅刻をしないように。また、空き時間を利用して復習をしっかりとっておきましょう。</p>				
成績評価の方法	作品（50%）、発表（10%）、小テスト（40%）				
教科書					
参考文献	授業時に指示します。				

授業科目	W e b デ ザ イ ン I	単位数	2	担当教員	吉 野 明 美
講義のねらいと概要および到達目標	<p>Web デザインに関する基礎知識と技術を学習します。</p> <p>Web ページの構造 (HTML) とスタイル・デザインの定義 (CSS) を、サイトを作成しながら習得します。</p>				
授業計画	第1週	Mac、Dreamweaver 基本操作			
	第2週	Web ページの制作の流れ			
	第3週	HTML (基本タグ・改行・見出し・段落)			
	第4週	HTML (画像)			
	第5週	HTML (表・リスト)			
	第6週	HTML (リンク・ページの連携)			
	第7週	CSS (セレクタ・HTML とのリンク・テキスト編集)			
	第8週	CSS (色の指定・背景)			
	第9週	CSS (サイズ・枠線・余白)			
	第10週	CSS (HTML のグループ化・配置)			
	第11週	CSS (表の詳細設定・リストの活用)			
	第12週	ページレイアウト			
	第13週	インラインフレーム			
	第14週	フォームの作成			
	第15週	これまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>演習科目であるため、出席及び課題の提出を重視します。</p> <p>「ウェブデザイン実務士」を取得予定学生は、必ず履修してください</p>				
成績評価の 方法	課題 (20%)、実技 (60%)、授業態度 (20%)				
教科書	『HTML5 & CSS3 ワークブック ステップ 30 (情報演習 14)』(相澤裕介、カットシステム)				
参考文献					

授業科目	W e b デ ザ イ ン II	単位数	2	担当教員	吉 野 明 美
講義のねらいと概要および到達目標	<p>Web サイト作成制作の代表ツールである Dreamweaver の操作を学習すると共に、CSS デザインの応用分野を学習していきます。</p> <p>作品の制作はもちろん、リニューアル（更新や修正）により、よりクオリティの高いサイト制作が行えることを目標とします。</p>				
授業計画	第1週	サイト作成準備（サイトの定義）			
	第2週	Web ページの作成			
	第3週	タグの編集			
	第4週	表・画像の追加			
	第5週	リンクの設定			
	第6週	情報のグループ化			
	第7週	CSS でレイアウト			
	第8週	ボックスと使ったレイアウト			
	第9週	ロールオーバー			
	第10週	ファイルの複製			
	第11週	フォームの作成			
	第12週	ファイル管理			
	第13週	作品制作① ページ作成：レイアウトとコンテンツ			
	第14週	作品制作② ページ作成：デザイン			
	第15週	作品制作③ 動作・表示確認と修正			
指導方法 履修上の 注意	<p>原則として「Web デザイン I」の履修を終えていることが必要です。</p> <p>演習科目であるため、出席及び課題の提出を重視します。</p> <p>「ウェブデザイン実務士」を取得予定学生は、必ず履修してください。</p>				
成績評価の 方法	課題（20%）、作品（60%）、授業態度（20%）				
教科書	『これからはじめる Dreamweaver の本 CS6/CS.5.5 対応版』（山本和泉、技術評論社）				
参考文献					

授業科目	W e b デ ザ イ ン 演 習	単位数	2	担当教員	吉 野 明 美
講義のねらいと概要および到達目標	<p>Web 関連科目の技術総括として、サイト制作を行います。</p> <p>Web サイトの制作には、何を伝えたいかを明確にするため、情報収集、情報分類など、情報をデザインしていく作業が必要になります。この点をふまえて、次のように学習を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web サイト企画、設計、制作、評価のプロセスの全体像を把握する。</li> <li>・制作プロセスを学習しながら、一連の流れを体験していく。</li> </ul>				
授業計画	第1週	Web サイト制作とプランニング			
	第2週	企画の立案と情報収集			
	第3週	企画書の作成・ラフスケッチ			
	第4週	ラフスケッチを Photoshop で清書			
	第5週	ページデザイン修正			
	第6週	Web 用画像素材への変換			
	第7週	ディレクトリの配置			
	第8週	コーディング (HTML) トップページの内容をマークアップ			
	第9週	コーディング (CSS) トップページのレイアウトを整える			
	第10週	トップページのデザイン修正			
	第11週	コーディング (HTML) 下層ページの内容をマークアップ			
	第12週	コーディング (CSS) 下層ページのレイアウトを整える			
	第13週	リンク設定とレイアウトの見直し			
	第14週	文章の校正とデザイン修正			
	第15週	動作・表示確認			
指導方法 履修上の 注意	<p>原則として「Web デザインⅡ」または「Web サイト管理演習」の履修を終えていることが必要です。</p> <p>作品制作には、授業時間外にも積極的に取組んでください。</p> <p>「ウェブデザイン実務士」を取得予定学生は、必ず履修してください。</p>				
成績評価の方法	課題 (10%)、作品 (70%)、授業態度 (20%)				
教科書					
参考文献					

授業科目	Web サイト管理演習	単位数	2	担当教員	吉野明美																														
講義のねらいと概要および到達目標	<p>Web サイトの管理や運営を学習します。</p> <p>色彩の基本や見やすさのデザイン、使いやすさを左右するアクセシビリティ、セキュリティなど情報発信管理の重要性などを演習の中で身につけていきます。</p> <p>制作にとどまらず、リニューアル（更新や修正）により、よりクオリティの高いサイト制作を行えることを目標とします。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1週</td><td>Web サイトの基礎知識</td></tr> <tr><td>第2週</td><td>デザインの基礎（画像・色彩・フォント）</td></tr> <tr><td>第3週</td><td>プランニング（サイト設計の方向性）</td></tr> <tr><td>第4週</td><td>プランニング（サイトマップ）</td></tr> <tr><td>第5週</td><td>プランニング（ナビゲーション・ページサイズ）</td></tr> <tr><td>第6週</td><td>制作ツール（Dreamweaver）</td></tr> <tr><td>第7週</td><td>制作ツール（Photoshop）</td></tr> <tr><td>第8週</td><td>CSS でレイアウト（インラインレベルとブロックレベル）</td></tr> <tr><td>第9週</td><td>CSS でレイアウト（ボックス・ボーダー・フロート）</td></tr> <tr><td>第10週</td><td>CSS でレイアウト（背景画像・リンク）</td></tr> <tr><td>第11週</td><td>文章デザイン</td></tr> <tr><td>第12週</td><td>写真の加工</td></tr> <tr><td>第13週</td><td>jQuery と動的サイト</td></tr> <tr><td>第14週</td><td>SEO 対策</td></tr> <tr><td>第15週</td><td>まとめ</td></tr> </table>					第1週	Web サイトの基礎知識	第2週	デザインの基礎（画像・色彩・フォント）	第3週	プランニング（サイト設計の方向性）	第4週	プランニング（サイトマップ）	第5週	プランニング（ナビゲーション・ページサイズ）	第6週	制作ツール（Dreamweaver）	第7週	制作ツール（Photoshop）	第8週	CSS でレイアウト（インラインレベルとブロックレベル）	第9週	CSS でレイアウト（ボックス・ボーダー・フロート）	第10週	CSS でレイアウト（背景画像・リンク）	第11週	文章デザイン	第12週	写真の加工	第13週	jQuery と動的サイト	第14週	SEO 対策	第15週	まとめ
第1週	Web サイトの基礎知識																																		
第2週	デザインの基礎（画像・色彩・フォント）																																		
第3週	プランニング（サイト設計の方向性）																																		
第4週	プランニング（サイトマップ）																																		
第5週	プランニング（ナビゲーション・ページサイズ）																																		
第6週	制作ツール（Dreamweaver）																																		
第7週	制作ツール（Photoshop）																																		
第8週	CSS でレイアウト（インラインレベルとブロックレベル）																																		
第9週	CSS でレイアウト（ボックス・ボーダー・フロート）																																		
第10週	CSS でレイアウト（背景画像・リンク）																																		
第11週	文章デザイン																																		
第12週	写真の加工																																		
第13週	jQuery と動的サイト																																		
第14週	SEO 対策																																		
第15週	まとめ																																		
指導方法 履修上の 注意	<p>「Web デザイン I」を履修済みで、HTML を理解していることが望ましい。</p> <p>演習科目であるため、出席及び課題の提出を重視します。</p>																																		
成績評価の方法	課題（20%）、作品（60%）、授業態度（20%）																																		
教科書																																			
参考文献																																			

授業科目	Web プログラミング	単位数	2	担当教員	中 島 俊 治
講義のねらいと概要および到達目標	<p>「HTML5」は、「CSS3」「JavaScript」とは不可分で連携し合い、リッチでビジュアルな表現力、ユーザとの双方向性、動的なコンテンツ生成を実現する「Web アプリケーションのためのプラットフォーム」である。さらにスマホとの親和性が深く、モバイルサイト製作では事実上標準である。本講義では「HTML5」の重要な要素のひとつ「JavaScript」を中心に Web プログラミングの実習を行い、PC やスマホの Web アプリケーションを製作する。</p> <p>講義を通じて「クリエイティブな楽しさ」を体感し、最終的に「Web アプリケーション」を製作できるレベルに到達することが本講義の目標である。</p>				
授業計画	第1週	HTML5 に触れてみよう			
	第2週	HTML5 要素によるテンプレートを作る			
	第3週	CSS3 によるテンプレート画面のデザイン付けを行う			
	第4週	JavaScript プログラムの概説・基本と変数の取扱			
	第5週	入力フォームの扱い方、四則演算処理			
	第6週	DOM を使ったデータの動的な Web 入出力の処理			
	第7週	Date (日付) オブジェクトで、「デジタル時計」アプリを作る			
	第8週	Math (数学) オブジェクトで、「計算機」アプリを作る			
	第9週	条件分岐で「じゃんけん」又は「占い」アプリを作る			
	第10週	繰返処理と配列オブジェクトで「もぐらたたき」アプリを作る			
	第11週	音声・画像の要素でプレイヤーを作る			
	第12週	タイマーを使ったアプリを作る			
	第13週	JavaScript ライブラリ 1 「jQuery」			
	第14週	JavaScript ライブラリ 2 「LightBox2」「jQuery mobile」			
	第15週	関連する Web プログラミングの紹介 (PHP など)			
指導方法履修上の注意	<p>受講にあたり、テキストエディタ等での英数入力に抵抗がないことを前提とする。また、従来の HTML と CSS に多少でも触れたことがあることが望ましい。「ウェブデザイン実務士」取得予定者は、履修することが望ましい。</p> <p>平素から「どのようなアプリがあったら便利か? 楽しいか?」という思いを巡らせながら授業に望んでもらいたい。評価は、毎回の授業態度と課題のオリジナリティ度を重視する。スマホは必須ではない。</p>				
成績評価の方法	課題 (40%)、授業態度 (60%)				
教科書	プリント配布				
参考文献	別途紹介				

授業科目	Web アニメーション演習	単位数	2	担当教員	中 島 俊 治
講義のねらいと概要および到達目標	<p>Webページアニメーションなど動的コンテンツを掲載するには、従来はFlashなどサードパーティのプラグインを使っていたが、「HTML5」では、標準でアニメーションの仕様が実装された。本講義では、「HTML5」の最大の特徴である描画の仕様「Canvas 2D」をメインに、「SVG」や「CSS3 アニメーション」技術とともに様々なアニメーション技術を紹介する。それらを通して、「HTML5のアニメーション表現力」の無限の可能性を体感し、「Web アニメーション」を制作できるレベルに到達することが本講義の目標である。</p> <p>なお、本講義では、2次元にとどまらず、3次元の立体的アニメーション技術にも挑戦する。</p>				
授業計画	第1週	Web アニメーションに触れてみよう			
	第2週	HTML要素で描画できる「SVG」			
	第3週	CSS3 でできる変形			
	第4週	CSS3 アニメーション			
	第5週	Canvas の概略、設置方法			
	第6週	プリミティブな図形の描画方法			
	第7週	課題：グラフを製作する			
	第8週	図形の変形方法			
	第9週	Canvas のアニメーション化			
	第10週	Web アニメーションの企画実習			
	第11週	Web アニメーションの製作実習			
	第12週	Web アニメーションの実装実習			
	第13週	CSS3 の3次元表示方法			
	第14週	3次元グラフィックス			
	第15週	製作物発表会・まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>受講にあたり、前期「Webプログラミング」履修済みであることが望ましい。「ウェブデザイン実務士」取得予定者は、履修することが望ましい。オリジナルなアニメーション製作物を最低ひとつ製作し、最終日に発表することとし、評価は、アニメーション製作物のオリジナリティ度と授業態度を重視する。スマホは必須ではない。</p>				
成績評価の方法	作品（40%）、授業態度（60%）				
教科書	プリント配布				
参考文献	別途紹介				

授業科目	商品とデザイン	単位数	2	担当教員	森山隆次
講義のねらいと概要および到達目標	<p>様々なモノ作りをデザインという視点から、プランニングできる能力を養うため、どのようなビジネスの現場でも対応できる、クリエイティブな感性を身に付けることを目的とする。</p> <p>コンピュータと最新のグラフィックアプリケーションでのオペレーションを取り入れ、実践的な課題の制作に取り組み、デザインセンスを身に付け、自ら創造し提案「できる」能力を磨き、創造力を高める人材の育成を目指す。</p> <p>・グラフィックアプリケーションの操作習得 ・A 課題の作成・提出 ・B 課題の制作・提出 ・C 課題の制作・提出</p>				
授業計画	第1週	講習内容のオリエンテーション（授業内容とスケジュールの説明）			
	第2週	講義1（商品のデザインについて1）			
	第3週	コンピュータ実習1（ソフトウェアの使い方）			
	第4週	コンピュータ実習2（A課題作成）			
	第5週	コンピュータ実習3（A課題作成）			
	第6週	コンピュータ実習4（A課題作成）			
	第7週	コンピュータ実習5（A課題作成）			
	第8週	コンピュータ実習6（A課題作成）課題の提出、			
	第9週	コンピュータ実習7（B課題作成）			
	第10週	コンピュータ実習8（B課題作成）			
	第11週	コンピュータ実習9（B課題作成）			
	第12週	コンピュータ実習10（B課題作成）課題の提出			
	第13週	コンピュータ実習11（C課題作成）			
	第14週	コンピュータ実習12（C課題作成）			
	第15週	コンピュータ実習11（C課題作成）課題の提出、まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>課題作成実習が主な授業となるので提出作品を重視する。各自が、自由な発想力を活かし、商品のデザインに対して、積極的な取組みを期待する。授業以外のシーンでも、常にクリエイティブな視点でモノを見ること、特にインターネットを活用した情報収集は必須。</p>				
成績評価の方法	課題提出（60%）、作品（30%）授業態度（10%）				
教科書	「はじめての5分でできる Illustrator CC」購入指定教科 ※前期「商業デザイン演習」と同じ				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				

授業科目	商業デザイン演習	単位数	2	担当教員	森山隆次
講義のねらいと概要および到達目標	<p>全ての商品開発においてコンピュータが必要とされている今日、特にクリエイティビティにはその運用技術が必須となる。本授業ではコンピュータによる課題作成を中心に、学生各自の想像力・創作力をデータ作成という具現化実習を通じて、発展・向上させ積極的な提案を求められる実社会の通用するスタッフに育てることを主たる目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフィックアプリケーションの操作習得</li> <li>・A課題の作成・提出</li> <li>・B課題の制作・提出</li> <li>・国際ユニバーサルデザイン協会認定「UD検定」受験能力取得</li> </ul>				
授業計画	第1週	講習内容のオリエンテーション、講義（デザイン史および現代デザイン概論、ユニバーサルデザイン概論）			
	第2週	コンピュータ実習1（ソフトウェアの使い方）			
	第3週	コンピュータ実習2（A課題作成）			
	第4週	コンピュータ実習3（A課題作成）			
	第5週	コンピュータ実習4（A課題作成）			
	第6週	コンピュータ実習5（A課題作成）			
	第7週	コンピュータ実習6（A課題作成）、課題の提出、			
	第8週	コンピュータ実習7（B課題作成）			
	第9週	コンピュータ実習8（B課題作成）			
	第10週	コンピュータ実習9（B課題作成）			
	第11週	コンピュータ実習10（B課題作成）			
	第12週	コンピュータ実習11（B課題作成）			
	第13週	コンピュータ実習12（B課題作成）、課題提出			
	第14週	講義（デザイン概論総集）			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>アプリケーションの操作習得による課題作成実習が主な授業となるので、提出作品を重視する。また、講義によるユニバーサルデザインの知識を課題作品に活かす工夫も考えること。試験では講義によるデザイン史、およびユニバーサルデザイン知識をテーマとし、UD検定に則した内容で行うため、講義資料等に基づいた学習が必須となる。</p>				
成績評価の方法	課題提出（60%）、試験結果（30%）授業態度（10%）				
教科書	「はじめての5分でできる Illustrator CC」購入指定教科				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				

授業科目	C	G	演 習	単位数	2	担当教員	吉 井 利 真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>3D・CGソフト（Shade）を利用し、3次元的な構想力と簡単な製図手法の習得をめざす。  3次元空間をパソコンの画面上でどのように把握し、表現することができるのかという基本的な感覚の把握を前提に、身近なもののデザインを行う。</p> <p>到達目標は空間座標による立体構造の把握と表現力の習得、創造力の鍛錬、CG制作にかかわる基本ツールや表現手法の習得におきます。これらは課題への取り組みによって達成度が評価されます。</p>						
授業計画	第1週	3次元空間の理解と表現					
	第2週	製図の基本 作業用座標平面と見取り図					
	第3週	基本製図作業（1）各種ツールの理解					
	第4週	基本製図作業（2）各種形状の作成と編集					
	第5週	基本製図作業（3）掃引体と回転体					
	第6週	課題への取り組み（1）テーブルと椅子の制作					
	第7週	課題への取り組み（2）ガラスと液体の製作					
	第8週	課題への取り組み（3）材質の決定・ブーリアンレンダリング練習					
	第9週	プレゼンテーションと相互評価					
	第10週	課題への取り組み（1）製品のデザイン					
	第11週	課題への取り組み（2）図面への描きだし①丸めと回転					
	第12週	課題への取り組み（3）図面への描きだし②ブーリアン					
	第13週	課題への取り組み（4）細部の完成指導①テクスチャーの貼り付け					
	第14週	課題への取り組み（5）細部の完成指導②					
	第15週	プレゼンテーションと相互評価					
指導方法履修上の注意	<p>細かな作業が多くなります。練習と慣れで作業はずいぶん楽になります。空き時間を積極的に利用してください。</p>						
成績評価の方法	課題（60%）、チェックテスト（40%）						
教科書							
参考文献	授業時に指示します。						

授業科目	C	G	創	作	単位数	2	担当教員	吉井利真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>CG 演習で習得した 3 DCG ソフトの基本操作を前提に、多様な形状をもつ複雑な立体像の制作に取り組みます。各自がテーマを決め、作品を作り上げていきます。</p> <p>最初にサンプルを全員で作成し、要領を覚えた段階で作品の制作に入っていきます。</p> <p>到達目標は多様な 3 DCG 表現力の習得と実践とします。これらは作成課題の完成度によって達成度が確認できます。</p>							
授業計画	第 1 週	サンプル作製①						
	第 2 週	サンプル作製②						
	第 3 週	テーマについて企画、プレゼン。						
	第 4 週	作品作り						
	第 5 週	作品作り						
	第 6 週	作品作り						
	第 7 週	作品作り						
	第 8 週	中間発表						
	第 9 週	作品作り						
	第 10 週	作品作り						
	第 11 週	作品作り						
	第 12 週	作品作り						
	第 13 週	アニメーションやムービーへの描きだし①						
	第 14 週	アニメーションやムービーへの描きだし②						
	第 15 週	プレゼン、相互評価						
指導方法 履修上の 注意	<p>CG 演習の履修を終えた人を受講対象としていますが、高校あるいは独学で CG 制作の経験のある人は CG 演習を履修していなくても受講できます。</p>							
成績評価の方法	作品（80%）、発表（20%）							
教科書								
参考文献	授業時に指示します。							

授業科目	観光マーケティング	単位数	2	担当教員	小澤俊雄
講義のねらいと概要および到達目標	<p>観光産業及び観光関連産業に関するマーケティングの役割を理解する事を第一目標とします。マーケティングの重要性を学び観光産業においていかにマーケティングを実践し活用するか又特に先進国中でアウトバウンド（海外旅行者）と比較し旅行客数の少ないインバウンド（訪日外国人旅行者）の増加に結び付けるかを考えます。観光地・リゾート地・旅行業・宿泊業等の観光を構成する産業の新しい潮流を学び取り今後の日本の観光産業の未来像を提起する事も目標とします。更に観光産業や観光関連産業を志望する者に対して就活や就職後の業務に役立つ知識を習得する事も目標の一つに加えます。</p>				
授業計画	第1週	観光とは？観光関連用語及び観光マーケティングの概念			
	第2週	マーケティング発想の経営が生み出すビジネス（BTM：トラベル・ビジネス・マネージメント等）			
	第3週	サービスによる価値創造のメカニズム（満足を越えた感動のサービスを提供するホテル等）			
	第4週	サービスの定義と特性			
	第5週	観光マーケットと購買活動（個人マーケット&団体マーケット）			
	第6週	観光マーケティングの環境分析 SWOT分析（Strength・Weakness・Opportunity・Threat）			
	第7週	観光商品のマネジメント（旅行業の区分・観光商品の管理・新商品開発等）			
	第8週	価格のマネジメント（航空旅客輸送に見る価格決定・価格決定と企業戦略）			
	第9週	流通チャネルのマネジメント（海外旅行商品の流通等）			
	第10週	観光産業におけるマーケティング・マネジメント（新たなマーケットの創造と競争優位の構築）			
	第11週	観光の新しい潮流とデスティネーション・マーケティング（新しい目的地・観光まちづくり等）			
	第12週	持続的な観光とサービス経験の最大化を図るための活動（交通対策・観光地における需要適応戦略等）			
	第13週	インバウンド（訪日外国人旅行）集客活動とホスピタリティー・マネジメント			
	第14週	1940年代以降の観光産業に関する動向			
	第15週	観光マーケティングのまとめ&定期試験（筆記）			
指導方法履修上の注意	<p>旅行や観光産業及び関連産業に興味を持つ者又は観光関係産業への就職志望者が受講対象の講座です。テキストの他講師作成のレジュメや観光関係資料を配布致します。受講者は日頃から新聞・TV等観光関係の記事・番組に注意を払って下さい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、課題（20%、授業態度（30%）				
教科書	『観光のマーケティング・マネジメント』編著者：高橋一夫（株）JTB総合研究所				
参考文献	『数字でみる観光』編者：（社団法人 日本観光振興協会）				

授業科目	ツアー・プランニング	単位数	2	担当教員	小澤俊雄
講義のねらいと概要および到達目標	国内・海外のツアー（募集型企画旅行）を企画するにあたって目的地の観光資源や目的地への交通手段更に目的地での行動について学習し既存のツアーに無い様な魅力の有るツアー企画する事を目標とします。ツアーを企画する事によって目的国や目的地の歴史・文化・習慣・風習等を学習し異文化の理解や地域活性化にも役立つ様にすることも目標とします。更に観光産業及び関連産業を志望する者に対しては就活や就職後の業務にも役立つ実務的な知識を習得することも目標の一つに加えます。				
授業計画	第1週	旅行業法の概要及び旅行業法上でのツアー（募集型企画旅行）とはどのようなものか？			
	第2週	旅行者の実施するツアー（国内募集型企画旅行）の歴史及び現状（主要旅行者の実施する募集型企画旅行）			
	第3週	国内募集型企画旅行で利用する交通機関の概要（JR路線・国内航空路線等）			
	第4週	国内募集型企画旅行で利用する宿泊機関の概要（ホテル・旅館等）			
	第5週	国内の「世界遺産」登録地及び「国立公園」・「国定公園」の概要			
	第6週	北海道地域内の主要観光資源及び観光ルートの作成			
	第7週	本州地域内の主要観光資源及び観光ルートの作成			
	第8週	四国・九州&沖縄地域内の主要観光資源及び観光ルートの作成			
	第9週	旅行者の実施するツアー（海外募集型企画旅行）の変遷及び現状（主要旅行者の実施する募集型企画旅行）			
	第10週	海外募集型企画旅行で利用する交通機関の概要（国際航空路線及びクルーズ等）			
	第11週	海外募集型企画旅行で利用する宿泊機関の概要（ホテル・ペンション・B&B等）			
	第12週	欧州地域内の主要な観光資源及び観光ルート作成			
	第13週	アジア地域内の主要な観光資源及び観光ルート作成			
	第14週	南北アメリカ大陸地域内及びオセアニア地域内の主要な観光資源及び観光ルートの作成			
	第15週	募集型企画旅行作成の要点チェック及び定期試験（筆記）			
指導方法 履修上の 注 意	旅行や観光産業及び関連産業に興味を持つ者又は観光産業等への就職志望者が受講対象の講座です。テキストの他講師作成レジュメ・各種観光関係資料を配布の上必要に応じ DVD 等を活用しより実践的な講義を行いますので日頃から旅行者の <u>ツアーパンフレット</u> を取得の上で内容を把握し更に TV の <u>旅番組</u> 等を視聴し旅行に関心を持つ様に心掛けて下さい。				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、発表（20%）、授業態度（30%）				
教科書	『旅行業務入門』2014年3月発刊 第15版 編集・発行（株）JTB総合研究所				
参考文献	「JR時刻表」 編集・発行（株）交通新聞社				

授業科目	ト ラ ベ ル 実 務	単位数	2	担当教員	小 澤 俊 雄
講義のねらいと概要および到達目標	<p>国内・海外旅行の手配をする際に必要な実務の習得を目標とします。時刻表・運賃規則等旅行実務に関する演習を行い自らの旅行手配や友人・知人及びサークル活動の一環としての合宿・研修旅行の手配が可能に成る様なスキルが身に付く様に成る事を目標とします。海外旅行の際に必要な旅券・査証等の渡航手続書類を作成の上で申請が出来る様な実務知識の習得も目標とし更に観光産業や関連産業を志望する者に対しては就活や就職後の業務に役立つ実務的な知識を習得する事も目標の一つに加えます。</p>				
授業計画	第1週	旅行業界&関連業界の歴史及び関連法規（旅行業法&標準旅行業約款等）の概要			
	第2週	JR 営業規則の概要 JR 時刻表の読み取り演習			
	第3週	JR 運賃規則（普通運賃・往復&学生割引運賃・団体割引等）の要点			
	第4週	JR 料金規則（特別急行料金・寝台料金・グリーン料金・乗継割引等）の要点			
	第5週	JR 運賃・料金の変更・払戻・紛失（乗車券・料金券）			
	第6週	JR 運賃・料金の計算演習			
	第7週	国内航空運送約款及び運賃・料金規則の要点			
	第8週	各種運賃・料金（宿泊料金・貸切バス・フェリー）規則の要点			
	第9週	国際航空運送約款及び運賃・料金規則の要点			
	第10週	国際航空時刻表の読み取り演習&時差演習			
	第11週	欧州鉄道時刻表（トーマスクック列車時刻表）の読み取り演習			
	第12週	出入国手続き（旅券の申請・失効・増補・紛失等）の要点			
	第13週	主要国の出入国手続き（日本出国→外国入国・出国）及び日本帰国時の入国・税関手続き等			
	第14週	出入国関係書類の作成演習（旅券申請・査証申請・出入国記録書・税関申告書等）			
	第15週	出入国手続きの要点チェック及び定期試験（筆記）			
指導方法履修上の注意	<p>旅行や観光産業及び関連産業に興味を持つ者又は観光関係産業への就職志望者が受講対象の講座です。テキストの他講師作成レジュメ・時刻表・各種観光関係実務資料・渡航手続き関係書類を配布し各種演習を行う事により実務的な講義を行いますので日頃から新聞記事やTV等の観光関係記事に接して下さい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、実技（20%）、授業態度（30%）				
教科書	『旅行業入門』2014年3月発刊 第15版 編集・発行 （株）JTB 総合研究所				
参考文献	「OAG 国際航空時刻表」編集・発行 OAG 「欧州列車時刻表」編集・発行 トーマス・クック社				

授業科目	文化を訪ねる	単位数	2	担当教員	及川道之
講義のねらいと概要	<p>数多くの文学作品や、歴史的事件の舞台になった京都の地を二泊三日の予定で実際に訪れる。事前に学内学習を4回ほど行い、各自の興味と関心に基づいた行動計画を作成できるよう指導する。京都には12月の第2金曜日に出発する予定。</p> <p>できたら前期に開講する「風土と文化」を受講しておくことが望ましい。</p> <p>到達目標～訪問場所の決定など詳細な日程を作成することと、その行動計画に基づいて有意義な3日間を過ごす。</p>				
授業計画	第1週	授業の開始にあたって			
	第2週	行動計画を作成するために			
	第3週	行動計画の作成			
	第4週	行動計画の作成と諸確認			
	第5週				
	第6週				
	第7週				
	第8週				
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法履修上の注意	<p>通常の観光旅行とは異なり、個人個人が興味や関心のある場所を中心に訪ねて歩くことになるので、充実した時間を過ごせるようなプランを作るよう指導したい。</p> <p>学外に出て多くの人と接することになるので、通常を受講態度や成績などによっては受講を認めない場合もある。</p>				
成績評価の方法	レポート（50%）、授業態度（50%）				
教科書					
参考文献					

授業科目	伝統工芸を訪ねる	単位数	2	担当教員	吉井利真
講義のねらいと概要および到達目標	<p>この授業では、脈々と受け継がれてきている日本各地の伝統工芸を対象に、手工労働にみられる非常に高度なスキルとその継承そして振興策の実情等に直接触れることで、「ひと」の持つ能力の大きな可能性と、その鍛錬に費やされる並々ではない努力、そしてこれを継承するための「ちえ」や協力（人のつながり）について学びます。</p> <p>夏季は 8/4～6 に鎌倉・箱根、冬季は 1/31～2/2 に金沢で実習を予定しています。</p> <p>到達目標は伝統工芸の体験実習を通して、手工の奥行きを実感し、これをレポートとして取りまとめることとします。達成度はレポートの内容、完成度によって評価されます。</p>				
授業計画	第1週	伝統工芸入門			
	第2週	各地の伝統工芸に関する情報の収集（1）			
	第3週	各地の伝統工芸に関する情報の収集（2）			
	第4週	各地の伝統工芸に関する情報の収集（3）			
	第5週	訪問先の決定と現地調査用ワークシートの作成 準備			
	第6週	訪問先の決定と現地調査用ワークシートの作成			
	第7週	実習 訪問調査（1）			
	第8週	実習 訪問調査（2）			
	第9週	実習 訪問調査（3）			
	第10週	実習 訪問調査（4）			
	第11週	実習 訪問調査（5）			
	第12週	実習 訪問調査（6）			
	第13週	実習 訪問調査（7）			
	第14週	報告書の作成指導			
	第15週	プレゼンテーション わたしの見た伝統工芸			
指導方法履修上の注意	<p>適度な緊張感と協調性をもって授業に参加して下さい。訪問実習に関わる交通費と宿泊費は各自が負担することになります。</p>				
成績評価の方法	<p>課題（50%）、発表（50%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>授業時に指示します。</p>				

授業科目	イベント・プランニング		単位数	2	担当教員	宮本 ゆかり
講義のねらいと概要および到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントとは何か？を知る</li> <li>・ イベント開催に必要な概要を掴む</li> <li>・ 自ら立案し、想定する力をつける</li> <li>・ 自らのアイデアを、他者に明確に伝える力をつける</li> <li>・ イベントの企画書を、基本フォームに則って自ら作成・完成できる</li> </ul>					
授業計画	第1週	I-1 イベントとは？ イベントとは何か？イベントの意義と価値。お客が集まる動機をつくる				
	第2週	II-1 見込み客を参加に導くプロセスを作る 人の心理とは？人がイベントに参加する動機を、理性と感情面から探る				
	第3週	II-2 見込み客を参加に導くプロセスを作る イベント情報の発信方法、アナログ手段・デジタル手段				
	第4週	II-3 見込み客を参加に導くプロセスを作る イベント成功までのロードマップについて概要を掴む				
	第5週	III-1 人を巻き込む組織の作り方 イベントの主催者は誰か？ターゲットは誰か？				
	第6週	III-2 人を巻き込む組織の作り方 イベントの「テーマ・目的・目標・対象者」について、主催者側と参加者側に分けて考える				
	第7週	IV-1 イベントを主催する イベント主催者と参加者のメリットを明確にする				
	第8週	IV-2 イベントを主催する 企画からイベント当日までのロードマップとプランニングシートの全体像を把握する				
	第9週	IV-3 イベントを主催する 自分の企画したオリジナルイベントをプレゼンテーションする				
	第10週	IV-4 イベントを主催する プランニングシートの素案に、スタッフからのフィードバックを加える				
	第11週	IV-5 イベントを主催する イベントの収支計画を立てる				
	第12週	V-1 イベント全体の考察 イベントを構成する役割分担について（事前・当日・事後）				
	第13週	V-2 イベント全体の考察 イベント当日の役割分担とスタッフの配置				
	第14週	V-3 イベント全体の考察 イベントの規模と適切なスタッフの配置から収支計画見直し。全体の企画書を完成させる				
	第15週	試験および振り返りとまとめ				
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントの概要を座学で知識として得た後、学びを授業内でアウトプットする形式をとる</li> <li>・ 社会に出てからの実践的な力を身につけることに重きを置く</li> <li>・ リアルな実感を伴う学習となるよう、校外体験・見学も推奨する</li> <li>・ 受け身な姿勢ではなく、アウトプットを重視する</li> <li>・ 学生の主体性・自主性を尊重し、必要に応じてサポートする</li> </ul>					
成績評価の 方法	レポート（30%）、発表（30%）、授業態度（40%）					
教科書						
参考文献						

授業科目	イベント・マネジメント		単位数	2	担当教員	宮本 ゆかり
講義のねらいと概要および到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント全体の運営、スタッフをマネジメントするための手法を身につける</li> <li>・人のモチベーションについて理解する</li> <li>・マネジメントの実際（時間管理・目標管理）の概要を理解する</li> <li>・マーケティングの基礎知識を理解する</li> <li>・自ら立案したオリジナルのイベントの企画書を作成・完成できる</li> <li>・イベントの告知チラシを作成できる</li> </ul>					
授業計画	第1週	I-1 マネジメントとは？ セルフカウンセリング、達成のステップ、人間の5つの基本的欲求				
	第2週	II-1 人間関係構築の原則 選択理論心理学、内的コントロール・外的コントロール理論				
	第3週	II-2 人間関係構築の原則 自分の目的・ビジョン・目標から、やりたいイベントを考え共感を得る				
	第4週	II-3 人間関係構築の原則 良い目標の8つの条件				
	第5週	III-1 タイムマネジメント パレートの80対20の法則、プライオリティマネジメント（重要度と緊急度のマトリックス）				
	第6週	IV-1 人を巻き込む伝え方 本質を見抜く力、論理的思考法				
	第7週	IV-2 人を巻き込む伝え方 伝えたいテーマに沿った企画のプレゼンテーション				
	第8週	IV-3 人を巻き込む伝え方 伝えたいことの数値化・キーワード化・ポイント3点主義のプレゼンテーション				
	第9週	V-1 イベントを成功させるマーケティング USP（ユニークセールスプロポジション）とは何か？自分とイベントのUSPを明確にする				
	第10週	V-2 イベントを成功させるマーケティング ダイレクトマーケティングの基本とイベントへの応用				
	第11週	V-3 イベントを成功させるマーケティング パブリシティ戦略（PR）の基本とタイミング				
	第12週	VI-1 コピーライティング コピーライティングの基本				
	第13週	VI-2 コピーライティング 実践的なコピーを書く文章術				
	第14週	VII イベント告知のチラシ作成 人の心理とマーケットを考慮したイベントチラシの作成				
	第15週	試験および振り返りとまとめ				
指導方法履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの概要を座学で知識として得た後、学びを授業内でアウトプットする形式をとる</li> <li>・社会に出てからの実践的な力を身につけることに重きを置く</li> <li>・リアルな実感を伴う学習となるよう、校外体験・見学も推奨する</li> <li>・受け身な姿勢ではなく、アウトプットを重視する</li> <li>・学生の主体性・自主性を尊重し、必要に応じてサポートする</li> </ul>					
成績評価の方法	レポート（30%）、発表（30%）、授業態度（40%）					
教科書						
参考文献						

授業科目	ファッションの知識と実務	単位数	2	担当教員	中西 希 和
講義のねらいと概要および到達目標	<p>ファッションの多様化とともに、ファッションの知識に対する重要性は高まっています。この授業では、ファッションの商品知識や基礎的な技術、ファッションビジネスの現状や仕組み、マーケティングやマーチャンダイジング、ファッション販売に関わる内容を取り上げ、ファッションに関する幅広い知識を習得することを目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション商品の基礎知識を身につける。</li> <li>・ファッション業界の全体像や現状を把握する。</li> <li>・ファッション情報を客観的に捉える力を養う。</li> </ul>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：ファッションとは 取得できる資格について			
	第2週	ファッションの商品知識①（アイテムについて）			
	第3週	ファッションの商品知識②（素材について）			
	第4週	ファッションの商品知識③（表示について）			
	第5週	ファッションビジネスの変遷と特性について			
	第6週	ファッション生活、ファッション消費について			
	第7週	ファッション産業の構造①（テキスタイル産業、アパレル産業の構造）			
	第8週	ファッション産業の構造②（小売業の構造）			
	第9週	ファッションマーケティングの基礎知識			
	第10週	ファッションマーチャンダイジングの基礎知識			
	第11週	ファッション小物制作①			
	第12週	ファッション小物制作②			
	第13週	ファッション小物制作③			
	第14週	ファッション販売の業務と技術			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習を組み合わせた授業となります。</li> <li>・画像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。</li> <li>・授業で配布するプリントをよく読み、整理しておくようにしてください。</li> </ul>				
成績評価の方法	筆記試験（30%）、レポート（20%）、作品（20%）、授業態度（30%）				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	『ファッション販売Ⅰ』（財団法人 日本ファッション教育振興協会）				

授業科目	ファッションコーディネート	単位数	2	担当教員	中西希和
講義のねらいと概要および到達目標	<p>この授業では、ファッションコーディネートの基本的な知識や技術を身につけ、2種類以上のアパレル商品を組み合わせることによってトータルに美しく着こなす方法、また自分らしさを表現する方法を考えていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションコーディネートに関する基本的な知識や技術を身につける。</li> <li>・目的やイメージに合ったコーディネートをトータルで表現する力を養う。</li> </ul>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：ファッションコーディネートの重要性			
	第2週	20世紀のファッション史			
	第3週	ファッション情報について			
	第4週	ファッション商品の基礎知識			
	第5週	色によるコーディネート(1)			
	第6週	色によるコーディネート(2)			
	第7週	素材・イメージによるコーディネート(1)			
	第8週	素材・イメージによるコーディネート(2)			
	第9週	体型に合わせたコーディネート			
	第10週	ヘア&メイクの基礎知識			
	第11週	ネイルの基礎知識			
	第12週	フォーマルウェアの知識（昼、夜、ウェディング、ブラックのフォーマル）			
	第13週	T.P.Oに合わせたコーディネート①（個別コーディネート作成方法）			
	第14週	T.P.Oに合わせたコーディネート②（個別コーディネート作成）			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習を組み合わせた授業となります。</li> <li>・画像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。</li> <li>・ファッション雑誌を使用します。</li> </ul>				
成績評価の方法	筆記試験（30%）、作品（40%）、授業態度（30%）				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献					

授業科目	カラーコーディネーター	単位数	2	担当教員	森山隆次
講義のねらいと概要および到達目標	<p>実社会における様々な分野で注目されている「カラーコーディネーター」について、その基礎を身に付け、クリエイティブな仕事に対応できる能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省認定の色彩検定3級の資格取得</li> <li>・文部科学省認定の色彩検定2級の知識の習得</li> <li>・実習課題の制作提出</li> <li>・筆記試験成績の向上</li> </ul>				
授業計画	第1週	講習内容のオリエンテーション（授業内容とスケジュールの説明）			
	第2週	基本講習1（色のはたらき）			
	第3週	基本講習2（光と色）			
	第4週	基本講習3（色の表示Ⅰ）			
	第5週	基本講習4（色彩心理）			
	第6週	基本講習5（配色調和）			
	第7週	基本講習6（色彩効果）			
	第8週	基本講習7（色彩と生活）			
	第9週	基本講習8（ファッション）			
	第10週	基本講習9（インテリア）			
	第11週	基本講習10（色名）			
	第12週	基本講習11（色の表示Ⅱ）			
	第13週	色彩検定対策講習Ⅰ			
	第14週	色彩検定対策講習Ⅱ			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法履修上の注意	教科書に基づいた、配色実習と課題作成を通じて、能力を高め、色彩能力検定試験3級の取得レベルのスキル習得を目指す。検定本試験に準ずる試験を実施するため筆記試験の結果を重視する。				
成績評価の方法	筆記試験（70%）、課題（20%）、授業態度（10%）				
教科書	『色彩検定公式テキスト3級編』（AFT企画）、『新配色カード199a』（日本色研事業株式会社）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				

授業科目	ショップ・プレゼンテーション	単位数	2	担当教員	中西 希 和
講義のねらいと概要および到達目標	<p>ショップでは、ただ商品を並べるだけでなく、商品やショップのコンセプトをアピールしてお客様をひきつけ、買い物をするためにわかりやすく快適な環境を作る必要があります。</p> <p>この授業では、お客様にとって快適なショップとは何かを考え、基礎的な陳列や展示方法、POP、ラッピングの技術を習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適で魅力的なショップとは何かを理解する。</li> <li>・ショップ演出の基礎的な知識、技術を身につける。</li> </ul>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：ショップ演出の重要性、購買心理			
	第2週	快適なショップ（売り場）作り、ディスプレイの役割と効果、照明・色彩、			
	第3週	陳列の基本とさまざまな方法について、ショップの事例紹介、実習			
	第4週	展示の基本とさまざまな方法について、ショップの事例紹介、実習			
	第5週	ラッピング（斜め包み、合わせ包み、リボンの結び方）			
	第6週	ラッピング（ふろしき包み、ラッピングの応用）			
	第7週	POPの役割、POP文字の書き方、基本的なレイアウトパターン			
	第8週	POP制作			
	第9週	アパレル商品の陳列・展示方法1（フォーミング、フォールデッド）			
	第10週	アパレル商品の陳列・展示方法2（レイダウン）			
	第11週	学外見学（百貨店等のディスプレイ見学）			
	第12週	学外見学（百貨店等のディスプレイ見学）、学外見学まとめ（レポート提出）			
	第13週	ディスプレイ実習(1)（ディスプレイ計画、グループ決定）			
	第14週	ディスプレイ実習(2)（グループごとディスプレイ発表）			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習を組み合わせた授業となります。</li> <li>・画像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。</li> </ul>				
成績評価の方法	筆記試験（30%）、レポート（15%）、課題（15%）、発表（10%）、授業態度（30%）				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献					

授業科目	アナウンス表現演習		単位数	2	担当教員	柴田 かおる
講義のねらいと概要および到達目標	<p>この講義では正しい発声をするために必要な呼吸法、はっきりと大きな声で話す方法、相手が聞きやすい発音を指導する。また人に伝わる話し方の組み立てを繰り返し行い、最終的には人前で自分の考えを分かりやすく話せるように訓練する。特に、就職試験の面接や社会人になった時に必ず求められる自己紹介は徹底的に練習して、誰よりも印象的に本人の長所が伝わるようになるまで行う。＜到達目標＞・聞き取りやすい発音の仕方を身につける。 ・何が言いたいのか、誰にでも伝わる話の組み立て方を覚える。 ・好印象を与える自己紹介の方法ができるようにする。</p>					
授業計画	第1週	腹式呼吸で声を出す方法 実際に決められた時間で自己紹介をする為に、話す内容を整理して発表する。				
	第2週	腹式呼吸で声を出しながら「あ行～さ行」の活舌の訓練をする。 2分間で自己紹介を試みる。				
	第3週	腹式呼吸で声を出しながら「た行～は行」の活舌の訓練をする。 自分が現在一番興味のあることについて、話す内容をまとめる。				
	第4週	腹式呼吸で声を出しながら「ま行～わ行」の活舌の訓練をする。 自分が現在一番興味のあることについて、まとめた原稿を読んで発表する。				
	第5週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 地図を使ってある場所への行き方の説明をする。				
	第6週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 自分だけが知っている場所へ、最寄駅から行く方法をわかりやすく説明する。				
	第7週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 自分だけが知っている持ち物について、それを見たことがない人に正確に伝える。				
	第8週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 第7週で発表した内容について、発表者以外の学生は疑問。明確な内容に編集。				
	第9週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 目の前にいる人物の服装を正確に伝える原稿をまとめる。要点を発表する。				
	第10週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 第8週でまとめた原稿を読んで、発表する。聞きやすく読むまで繰り返す。				
	第11週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 自分の長所について、原稿をまとめ、2分間で話す。				
	第12週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 自分の得意なことについて、原稿をまとめ、2分間で話す。				
	第13週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 自分が卒業後にやりたいことについて、原稿をまとめ、2分間で話す。				
	第14週	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習分を声に出して読む。 聞いてほしい、ちょっといい話について、2分間のスピーチをして、録音。自分の話し方を客観的に理解する。				
	第15週	これまで授業で訓練してきた発表方法を踏まえながら、2分間の再度自己紹介をし、初回での発表との違いを比較。授業の成果を計る				
指導方法 履修上の 注意	<p>声をきちんと出すには授業開始時間から順を追ってウォーミングアップが必要。時間どおりに出席すること。また、満腹状態では声が出ない為、授業前に食べ過ぎないこと。他の学生の発表を聞いて、それについて自分の考えを述べることも大切な学習なので、私語は厳禁。携帯電話の電源は必ず切って授業に臨むこと。</p>					
成績評価の 方法	<p>発表（50％）、授業態度（50％） 特に最終回における発表は、学年末試験に代わるものとするため、必ず出席のこと。</p>					
教科書	その都度プリント配布					
参考文献						

授業科目	異文化コミュニケーション	単位数	2	担当教員	田中千世子
講義のねらいと概要および到達目標	現代の世界状況を新聞記事を中心に読み、理解する。				
授業計画	第1週	新聞記事の中から各自興味のある記事を探して、それについて語りあう			
	第2週	各自、新聞を持ってくる			
	第3週	今の世界の状況を把握する(1)			
	第4週	今の世界の状況を把握する(2)			
	第5週	日本とアメリカについて考える			
	第6週	日本と中国・韓国について考える			
	第7週	ヨーロッパの国々の状況。イタリアの場合。			
	第8週	ドイツの場合。			
	第9週	フランスの場合。			
	第10週	ロシアの場合。			
	第11週	戦争や紛争について			
	第12週	難民と移民について			
	第13週	世界の状況を反映した映画をDVDで見る(1)			
	第14週	世界の状況を反映した映画をDVDで見る(2)			
	第15週	定期試験			
指導方法 履修上の 注意	新聞を購読しない家庭から通う学生は自分で買う習慣をつける。				
成績評価の 方法	筆記試験(60%)、レポート(20%)、授業態度(20%)				
教科書	使用せず。				
参考文献					

授業科目	販売サービス	単位数	2	担当教員	清水敏行
講義のねらいと概要および到達目標	<p>本講座は、小売業における販売サービスの基本について学びます。店舗運営の基本的役割とその流れ、陳列の目的と各種パターン、顧客の購買心理プロセス、接客販売の基本について学習します。また、販売員の基本業務と必要となる法律知識、販売事務と計数管理の基本、売場の人間関係、店舗管理の役割についても学習します。</p> <p>到達目標は、①販売サービスの基本理論と知識の習得、②今日的な販売実務の内容の理解、③小売業で必要となる売買損益計算の演習をシマスターすることにより、売り場での基本業務が行うことができるベースを養成することを目指します。</p>				
授業計画	第1週	ストアオペレーションの基本（店舗運営の重要性と役割）			
	第2週	ストアオペレーションの流れ（開店準備、発注・荷受け・補充・売場チェック、包装）			
	第3週	ディスプレイの基本的役割（陳列の目的と役割）			
	第4週	ディスプレイの基本パターン①（陳列器具の形状によるパターン）			
	第5週	ディスプレイの基本パターン②（販売方法の特徴によるパターン）			
	第6週	ワークスケジューリングの基本（作業割当ての基本的役割）			
	第7週	顧客の購買心理過程と接客販売（購買心理過程の段階、接客販売技術）			
	第8週	復習問題1（ストアオペレーション分野の問題演習）			
	第9週	販売員の基本業務（販売員の目的と役割、クレームや返品への対応）			
	第10週	販売員に必要な法律知識（販売活動・商品・販売促進に関する主な法規）			
	第11週	販売事務の基本（販売管理に伴う事務の役割と内容）			
	第12週	計数管理の基本（売価の計数、売買損益の計算法）、計算問題演習			
	第13週	売場の人間関係（コミュニケーションの基本、人間関係の向上）			
	第14週	店舗管理の役割（金銭管理、店舗施設の保守・管理）			
	第15週	復習問題2（販売・経営管理分野の問題演習）、課題レポートの提出			
指導方法履修上の注意	<p>販売士3級試験科目の重点ポイントを講義します。日常生活の中でも、小売店舗を観察し具体的な店舗運営や販売サービス活動の理解が重要です。</p> <p>販売士3級試験合格を目指す場合は、問題を配布します。合格レベルの実力を養成します。私語等他の学生の学習の妨げとなる行為は厳禁。</p>				
成績評価の方法	レポート（50%）、課題（40%）、授業態度（10%）				
教科書	『販売士3級』（清水敏行他、税務経理協会）				
参考文献	『流通経済の手引き』（日本経済新聞社）、『日経MJ流通新聞』（日本経済新聞社）				

授業科目	流通デザイン	単位数	2	担当教員	清水敏行
講義のねらいと概要および到達目標	<p>本講座は、私たちの日常生活の幅広い分野で関わりのあるマーケティング活動を基礎から体系的に理解することを目的とします。市場における流通活動を中心としたマーケティングの基本知識と、時事・実務ケースなどの事例を合わせて学習していきます。</p> <p>到達目標は、①マーケティングの基本的な考え方を習得する、②実際の仕事の場面でどのように活用するのか具体的な方法を理解する、③今日的な問題に対してどのように対応するのかを習得する、④最終的には、マーケティング的な視点からものごとを見る姿勢や能力を養成することを目指します。</p>				
授業計画	第1週	マーケティングの概要（定義と役割）/具体的な企業や商品の事例研究①			
	第2週	マーケティング・コンセプト（考え方と発展過程）/具体的な企業や商品の事例研究②			
	第3週	マーケティング・マネジメント（環境と管理）/具体的な企業や商品の事例研究③			
	第4週	市場細分化（基準と条件）/具体的な企業や商品の事例研究④			
	第5週	標的市場の設定（設定の各方法）/具体的な企業や商品の事例研究⑤			
	第6週	マーケティング・リサーチ（市場調査のプロセスと方法）/具体的な企業や商品の事例研究⑥			
	第7週	消費者行動（購買意思決定のプロセスと要因）/具体的な企業や商品の事例研究⑦			
	第8週	製品戦略1（製品分類、ライフサイクル）/具体的な企業や商品の事例研究⑧			
	第9週	製品戦略2（ブランド、新製品開発）/具体的な企業や商品の事例研究⑨			
	第10週	価格戦略（価格設定方法、価格政策）/具体的な企業や商品の事例研究⑩			
	第11週	流通チャネル戦略1（流通の機能と政策）/具体的な企業や商品の事例研究⑪			
	第12週	流通チャネル戦略2（物流、新しい流通）/具体的な企業や商品の事例研究⑫			
	第13週	プロモーション戦略1（広告、パブリシティ）/具体的な企業や商品の事例研究⑬			
	第14週	プロモーション戦略2（人的販売、販売促進）/具体的な企業や商品の事例研究⑭			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法履修上の注意	<p>マーケティングに関する基礎事項を講義します。日頃から、さまざまな業界や企業の具体的なマーケティング活動に関心を持ち、商品やブランド、広告や販売促進活動などへの興味を持つことが大切です。</p> <p>希望者は、「マーケティング・ビジネス実務検定C級試験」を受験することができます。私語等他の学生の学習の妨げとなる行為は厳禁。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、レポート（40%）、授業態度（10%）				
教科書	『マーケティング・ビジネス実務検定』（国際実務マーケティング協会編、税務経理協会）				
参考文献	『流通経済の手引き』（日本経済新聞社）、『日経トレンディ』（日経ホーム出版社）				

授業科目	簿記と会計のしくみ	単位数	2	担当教員	山田 ひとみ
講義のねらいと概要および到達目標	<p>会計に関する知識はビジネスパーソンにとって必須といわれています。企業は日々の取引を複式簿記で記録して会計情報を作成し、決算を行います。ですから、簿記の基礎を理解したうえで、企業会計の一連の手続を学ぶことが効率的です。</p> <p>この講義では、理論的側面として、複式簿記と会計学の基礎を理解し、実践的側面として、企業が公表する会計情報を自分で入手し、財政状態や経営状態の基礎的分析ができるようになることを到達目標とします。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス（授業の進め方、採点方法など）			
	第2週	株式会社と会計			
	第3週	会計と会計学（1）			
	第4週	会計と会計学（2）			
	第5週	複式簿記の基本（1）仕訳、簿記一巡			
	第6週	複式簿記の基本（2）貸借対照表			
	第7週	複式簿記の基本（3）損益計算書			
	第8週	企業会計の基本（1）財産法と損益法、棚卸法と誘導法			
	第9週	企業会計の基本（2）会計公準、会計原則			
	第10週	企業会計制度（1）会社法、金融商品取引法			
	第11週	企業会計制度（2）法人税法			
	第12週	国際会計基準の取り扱い			
	第13週	会計情報と財務分析（1）			
	第14週	会計情報と財務分析（2）			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	予習・復習の範囲や内容は、講義中に指示します。				
成績評価の方法	レポート（25%）、課題（25%）、授業態度（50%）				
教科書	教室で指示します。				
参考文献					

授業科目	簿記演習	単位数	2	担当教員	山田ひとみ
講義のねらいと概要および到達目標	<p>簿記はあらゆる業種の企業の業務に共通かつ不可欠な基礎知識です。企業は日々の経済活動を測定・記録し、財務諸表を作成していますが、その手段が複式簿記なのです。</p> <p>この講義では、勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算の手続きを経て貸借対照表と損益計算書の作成に至るまでの、簿記一巡の手続きを理解することができることを到達目標とします（日商簿記3級程度）。講義では演習問題を中心に、実践的に簿記を学びます。</p> <p>受講後はぜひ日商簿記検定3級にチャレンジしましょう。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス（授業の進めかた、採点方法など）、簿記の目的と財務諸表			
	第2週	仕訳			
	第3週	転記、試算表			
	第4週	商品売買			
	第5週	現金・預金			
	第6週	手形（1）約束手形			
	第7週	手形（2）為替手形			
	第8週	手形（3）割引、値引			
	第9週	固定資産、有価証券、現金過不足			
	第10週	試算表			
	第11週	決算整理仕訳（1）有価証券の評価替え、現金過不足			
	第12週	決算整理仕訳（2）売上原価の計算、消耗品、貸倒引当金			
	第13週	決算整理仕訳（3）経過勘定、減価償却			
	第14週	決算整理仕訳（4）8桁精算表			
	第15週	損益計算書、貸借対照表			
指導方法 履修上の 注意	<p>簿記は所定の段階を経て学習する必要があるため、第1回目から休まずに毎回出席することが大切です。一度休むと次の講義の内容を理解できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復習…毎回、講義の範囲を次回までに復習しましょう。</li> <li>・自習…休んだ箇所は次回までに自習して、解らないことは担当教員に質問に行きましょう。</li> </ul>				
成績評価の方法	筆記試験（25%）、課題（25%）、授業態度（50%）				
教科書	教室で指示します。				
参考文献					